

ドーム型多目的スポーツ施設建設工事（付帯工事）

久米設計・梓設計 設計共同企業体

1996 年 4 月



（施 工）

- 01. 工事特記仕様書 NO.1
- 02. 工事特記仕様書 NO.2
- 03. 工事特記仕様書 NO.3
- 04. 工事特記仕様書 NO.4
- 05. 工事特記仕様書 NO.5
- 06. 工事特記仕様書 NO.6
- 07. 工事特記仕様書 NO.7
- 08. 工事特記仕様書 NO.8
- 09. 工事特記仕様書 NO.9
- 10. 設計概要
- 11. 配置図
- 12. 1 階平面図
- 13. 2 階・3 階平面図
- 14. 立面図-1
- 15. 立面図-2
- 16. 断面図
- 17. 矩計図-1
- 18. 矩計図-2
- 19. 矩計図-3
- 20. 矩計図-4
- 21. 矩計図-5
- 22. 矩計図-6

- 23. 矩計図-7
- 24. 矩計図-8
- 25. 標準詳細図-1
- 26. 標準詳細図-2
- 27. 標準詳細図-3
- 28. 1 階建具キープラン
- 29. 建具表-1
- 30. 建具表-2
- 31. アリーナ関係詳細図-1
- 32. アリーナ関係詳細図-2
- 33. アリーナ関係詳細図-3
- 34. アリーナ関係詳細図-4
- 35. ロールブラインド図-1
- 36. ロールブラインド図-2
- 37. ロールブラインド図-3
- 38. E L V 詳細図-1
- 39. E L V 詳細図-2
- 40. E L V 詳細図-3
- 41. E L V 詳細図-4
- 42. 外構図/現況平面図
- 43. 外構図/現況図（撤去図）
- 44. 外構図/道路計画平面図

- 45. 外構図/周辺道路改修構造図
- 46. 外構図/雨水排水平面図
- 47. 外構図/雨水排水断面図（4-4）
- 48. 外構図/雨水排水断面図（5-5）
- 49. 外構図/平面図・詳細図
- 50. 外構図/断面図（6-6）
- 51. 外構図/断面図（7-7）
- 52. サイン計画/キープラン-1
- 53. サイン計画/キープラン-2
- 54. サイン計画/詳細図-1
- 55. サイン計画/詳細図-2
- 56. 既存便所解体図-1
- 57. 既存便所解体図-2

（構 造）

- 01. 鉄筋コンクリート構造基準図 1
- 02. 鉄筋コンクリート構造基準図 2
- 03. 鉄筋コンクリート構造基準図 3
- 04. 土質状況図
- 05. リスト・伏図・詳細図

Architectural specification form for a sports facility. It includes sections for project information, detailed specifications for various building components (e.g., roof, walls, floors, elevators, HVAC), and a list of specialized construction items. The form is organized into multiple columns and rows, with checkboxes and numerical codes for item selection. A table at the bottom right lists specific materials and quantities for different parts of the building.

[illegible]

工事特記仕様書

5章 鉄筋工事(続)

5.2.1 加工及び組立て

5.2.2 耐久上不利な箇所等の鉄筋の太さの増し

5.3.1(a)(2) くい風の補強方法

5.4.1(b) 補強

5.5.1(a)(1)(v) ハンチの補強

5.6.1(f) 開口部補強の種別

5.8.1 鉄筋

5.9.1 開口部補強

5.10.4 圧縮完了後の検査

6章 コンクリート工事

6.1.2 設計基準強度

6.1.3 圧縮強度

6.2.1 圧縮強度

6.2.2 圧縮強度

6.2.4 圧縮強度

6.7.2 圧縮強度

6.9.1-6.9.4 圧縮強度

6.12.3 圧縮強度

6.12.4 圧縮強度

6.13.2 圧縮強度

6.14.1 圧縮強度

6.14.3 圧縮強度

7章 鉄骨工事

7.1.2 鉄骨製作工場

7.1.4 鉄骨組立技術者

7.2.1 鋼材

7.2.2 鋼材

7.2.6 ターンバックル

7.2.7 材料試験

7.3.1 検査

7.5.8 検査

7.6.1(b) 鋼材

7.7.1 鋼材

7.8.1(b) 鋼材

7.8.1(d) 鋼材

8章 ブロック及びALCパネル工事

8.1.2 補強コンクリート

8.2.1-6 コンクリートブロック

8.3.2 耐火レンガ

8.3.5 耐火レンガ

8.4.3 プレキャストコンクリートの製作

8.5.2 ALCパネルの種別

8.5.3 金物

8.5.7 外壁パネル工法

8.5.8 開口部パネル工法

8.5.10 開口部パネル工法

8.6.2 PCカーテンウォールの性能

8.6.4 取付金物

8.6.6 コンクリートの調査

8.6.6 配筋

8.6.6 アスロック仕様

工事設計図

特記仕様書No.2

四日市市都市計画部建築課

久米設計・梓設計 設計共同企業体

工事特記仕様書 No. 3

194072

工事特記仕様書

項目	特記事項
9章 防水工事	
9.1.2 ・アスファルト防水 種 別	種 別 (責任施工) ・基礎保護防水 (・A-1 ①A-2 ・A1-1 ・A1-2 ・B-1 ・B-2) ・壁保護防水 (・C-1 ・C-2 ・D-1 ・D-2) ・屋内防水 (・E-1 ・E-2)
9.1.3 ・材 料	アスファルト種類 ③ 3種 ・ 4種 アスファルトルーフィング ③ 1500 ・ 940 断熱材 材質 ③ 押出ポリスチレンフォーム断熱材B種3種 厚さ (mm) ③ 25 地盤処理食物 ③ 断熱アルミニウム製L-30×15×2.0 施工環境 ③ SUS製 L-30×10×0.8程度 ③ 放ける ・ 放けない
・防水層押え	① 絶縁用シート ・ポリエチレンフィルム③0.15以上 ・アスファルトフェルト③50 ③ フラットヤーンクロス (70g/㎡程度) がりエレンスルム ・断気装置 ・放ける 材質 () 数量 () ・放けない ① 押さえコンクリートの種類 ① 普通コンクリート ③ パーライトコンクリート ・Fo18D ③ 軽質バーライトKⅢ (・PC-A工法・PC-B工法) (・PC-C工法・PC-D工法) ① 伸縮調整目地 ・アスファルト目地 ③ 断気部品 寸法 (mm) 25×80 ドレーフタイト工法 (ドレーフタイトMS) 山出鋼線 (タラクタイトポリソフト) ① 断気部品 EPT ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯

工事特記仕様書
18章 内装工事
18.1.1 ビニル床シート
18.2.1 ビニル床タイル
18.3.1-18.3.3 合成樹脂張り床
18.4.1 石こうボード
18.6.1 断熱工
18.6.2 工法
18.7.1 敷き材料
18.8.2-18.8.4 カーペット敷き
18.9.2 断熱・防露材
19章 舗装工事
19.2.1-19.2.3 路床
19.3.1-19.3.3 路盤
19.4.1-19.4.4 アスファルト舗装
19.5.1-19.5.4 コンクリート舗装
19.6.2-19.6.4 特殊舗装
19.7.1 新築・修繕材料及び舗装材料
20章 排水工事
20.1.1 排水工事材料
工事設計図
特記仕様書No.6
四日市市都市計画部建築課

工事特記仕様書
21章 植栽工事
22章 雑工事
23章 塗装工事
24章 電気設備工事
25章 機械設備工事
26章 衛生設備工事
27章 消防設備工事
28章 防犯設備工事
29章 防災設備工事
30章 その他

工事設計図
特記仕様書No.7
図1: 設計図
図2: 仕様書
図3: 材料表
図4: 工事内容表
図5: 工事費表
図6: 工事日程表
図7: 工事関係表
図8: 工事関係表
図9: 工事関係表
図10: 工事関係表

工事特記仕様書（別表）

ルーフドレン一覧表

	メーカー名	防水膜仕上	アスファルト・シート防水用					
			膜		型		中	
			SGP	VP	SGP	VP	SGP	VP
鋼鉄製	カネソウ	保護モルタル	KROA	KRSA-VP	KXF		KRSDH-2	KRSDH-VP
		露出	KRSC-2	KRSC-VP	KXC		ESB-2	ESB-1
	第一機材	保護モルタル	RATC-K	RAPC-M-K	RA-2A-K		RVPB-K	RAPB-M-K
		露出	同上	同上	RL-2S-K		同上	同上
	中部工機	保護モルタル 露出	RAG-S	RAP-1S	HCS-SR		BSG-S	BSP-1S
	丹 村		NTDC-2	NTDC	LFCD-2		NTBH-2	NTBH
	福 西		RSG-9000	RACV-9000	RASJ-8000		RSG-10000	RACV-10000
ステンレス鋼製	カネソウ	露出	KBRC-2	KBRC-VP	KBXC			
		保護モルタル	KBRD-2	KBRD-VP			KBRDH-2	KBRDH-VP
	第一機材	保護モルタル 露出	SRA-1DK	SRA-2DK			SRA-1BK	SRA-2BK
	中部工機	"	SRAG	SRAP	SHAGR		SBAG	SBAP
	丹 村	"	NTDC-2S	NTDC-S	LFCD-2S		NTBH-2S	NTBH-S
	福 西	"	SF-SCS-9000	SF-SCS-9000 +パルプソケット			SF-SCS-10000 +パルプソケット	
ステンレス鋼製	カネソウ	"	KSOB	KSOB	KSCF		KSOH	KSOH
	ホクセイ	"	YVR-G	YVR	YHL		YVB-G	YVB
	メーカー名	防水膜仕上	モルタル・塗膜防水用					
			膜		型		中	
			SGP	VP	SGP	VP	SGP	VP
鋼鉄製	カネソウ	保護モルタル 露出	KRSE-2	KRSE-VP	KXG		KRSH-2	KRSH-VP
	第一機材		RPC-K	RKCM-K			RPB-K	RKBM-K
	中部工機		RMG-S	RMP-1S	CM-SR		BMG-S	BMP-1S
	丹 村	保護モルタル 露出	NTDE-2	NTDE	LUND-2		NTDH-2	NTDH
	福 西		RG-9000	RC-9000	RMJ-7000		RG-10000	RC-10000
ステンレス鋼製	カネソウ	保護モルタル 露出	KBRE-2	KBRE-VP	KBXG		KBRH-2	KBRH-VP
	第一機材	"	SRM-1CK	SRM-2CK			SRM-1BK	SRM-2BK
	中部工機	"		SRMP	SHMGR			SBMP
	丹 村	"	NTDB-2S	NTDB-S			NTDH-2S	NTDH-S
	福 西	"	SF-SCSMG-9000	SF-SCSMV-9000			SF-SCSMG-10000	SF-SCSMV-10000
ステンレス鋼製	カネソウ	"	KSSE	KSSE			KSSH	KSSH
	ホクセイ	"	YMR-G	YMR	YML		YMB-G	YMB

コンクリートの品質管理試験

	1回の打設量	供試体用 試料採取方法	試験の回数		供試体の組			JISの確認 (標準) 28日	そ の 他
			スランブ・塩化物量 コンクリート温度・空気量		構造体推定 (現水) 28日	調査強度管理 (標準) 7日	型枠設置等 任 意		
I	20㎡未満	監督員と協議を行う(必要な場合はIIによる)							・共に示される品質検査は、調査強度の管理、構造体強度の推定、型枠外し、養生打ち切りなど本来施工者側に必要な事項であり、施工者に於いて実施されるべきものであると考えられる。 しかし、試験の目的、主旨を十分に理解した上で生コン会社に代行協力を依頼することは、差支えない。 ・生コン会社に代行依頼した場合には、供試体の間違いのない様に下記の様な確認紙を採取時に付しておけば良いと考える。
II	20㎡以上 50㎡未満	任意の1車	1回	3本 (1回)	3本 (1回)	3本 (1回)	3本		
III	50㎡以上 150㎡未満	任意の3車 A B C	1回	1本 } 1本 } 1本 } 3本 (1回)	1本 } 1本 } 1本 } 3本 (1回)	1本 } 1本 } 1本 } 3本 (1回)	3本		
IV	150㎡以上 300㎡未満	任意の6車 A B C D E F	1回 } 1回 } 1回 } 2回	1本 } 1本 } 1本 } 6本 1本 } (2回)	1本 } 1本 } 1本 } 6本 1本 } (2回)	1本 } 1本 } 1本 } 6本 1本 } (2回)	3本 } 3本 } 3本 } 6本 3本 } (2回)		
V	300㎡以上 450㎡未満	任意の9車 A B C D E F G H I	1回 } 1回 } 1回 } 3回	1本 } 1本 } 1本 } 9本 1本 } (3回)	1本 } 1本 } 1本 } 9本 1本 } (3回)	1本 } 1本 } 1本 } 9本 1本 } (3回)	3本 } 3本 } 3本 } 9本 3本 } (3回)		
VI	450㎡以上 600㎡未満	任意の12車 A B C D E F G H I J K L	1回 } 1回 } 1回 } 1回 } 4回	1本 } 1本 } 1本 } 12本 1本 } (4回)	1本 } 1本 } 1本 } 12本 1本 } (4回)	1本 } 1本 } 1本 } 12本 1本 } (4回)	3本 } 3本 } 3本 } 12本 3本 } (4回)		
VII	600㎡以上	監督員の指示による							
1回の打設において、コンクリートの種類が異なる場合は監督員と協議すること。		供試体用試料は適切な間隔をあげた運転車から採取。					I～VIIのJISの検査ロットにおいて1回の判定で呼び強度以上とする。		

確認紙

採取年月日	年	月	日
採取車両	車目		
スランブ	cm		
空気量	%		
現場代理人			
〇〇建設株式会社			
〇〇〇〇〇			

確認紙

採取年月日	年	月	日
採取車両		車目	
スランブ		cm	
空気量		%	
現場代理人 〇〇建設株式会社 〇〇〇〇			

土壌改良剤及び植肥

特 記	土壌改良剤		植 肥	
	パーライト (黒よう石)	ウッドエース	固形肥料 (まると3号)	
10未満	3.65kg	7.30t	100g	100g
10以上15未満	5.60	11.20	200	200
15以上20未満	10.45	20.90	200	200
20以上25未満	16.50	33.00	200	200
25以上30未満	24.00	48.00	300	300
30以上35未満	27.50	55.00	300	300
35以上45未満	47.00	94.00	300	300
45以上60未満	77.00	154.00	400	400
60以上75未満	119.00	238.00	400	400
75以上90未満	168.50	337.00	400	400
高 さ				
30未満	0.70	1.40	45	45
30以上 50未満	1.00	2.00	60	60
50以上 80未満	1.30	2.60	60	60
80以上100未満	1.75	3.50	80	80
100以上150未満	2.45	4.90	80	80
150以上200未満	3.85	7.70	100	100
200以上250未満	5.55	11.10	100	100
250以上300未満	7.80	15.60	150	150

工事設計図

特記仕様書(別表)		図 1:	設計書	図 2:	図 3:	図 4:	図 5:	図 6:	図 7:
図 1:		図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:
図 1:		図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:
図 1:		図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:
図 1:		図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:
図 1:		図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:
図 1:		図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:
図 1:		図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:
図 1:		図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:
図 1:		図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:	図 1:

工 事 名 称	ドーム型多目的スポーツ施設
建 築 主 体	〒653-0301 西四日市市建設課1番5号 西四日市市役所
施 工 所 氏 名	西四日市市長 加藤寛嗣 電話 05-83-11-1155
地 名 地 番	三重県四日市市大字羽津 甲地内 国ヶ浦緑地地内
都 市 計 画	都市計画区域(内・外) 市街化区域 市街化調整区域・指定なし
用 途 地 域	第一種住居専用・住居・近郊商業・商業・工業・工業専用・指定なし
防 火 地 域	日影規制 5m 時間 10m 時間
特 別 用 途 地 域	防火・準防火・指定なし 法22条区域(内・外)
其 他	特別工業地区(第 Ⅱ 類)・高度地区(第 Ⅱ 類)・高度利用地区・文教地区(第 Ⅱ 類)
道 路 市 員	河川区域・河川保全区域・国立公園・国定公園・宅地造成等規制区域
	都市計画緑地
	27m (国道23号線)

	中 部 分	中部以外部分	合 計
敷 地 面 積	411,000.000 ㎡	— ㎡	411,000.000 ㎡
建 築 面 積	21,072.012 ㎡	24,258.740 ㎡	45,330.752 ㎡
延 べ 面 積	23,143.211 ㎡	33,184.610 ㎡	56,327.821 ㎡
特許率対象外面積	— ㎡	— ㎡	— ㎡

容積率対象面積	延べ面積	-	対象外面積	=	合 計
算定根拠	(23,143.211 ㎡)		(0 ㎡)	=	(23,143.211 ㎡)

種別概要	
種名	ドーム型多目的スポーツ施設
用途	多目的施設（スポーツ、展示会、コンサート、集会等）
工事種別	新築
構造種別	鉄筋コンクリート造・鉄骨造
構造形式	下部：耐震壁付ラーメン構造、屋根：鋼骨トラス構造
階数	地下1階、地上3階
地盤	場所打鋼管コンクリート杭 及び 鋼管コンクリート杭（PHC）
最高部の高さ（平均地盤面より）m	30.535m
軒高（同上）m	17.904m
建築物の高さ（同上・全26.6）m	30.535m
居室の床の高さ m	
基準階の高さ m	4.6m
基準階の天井高さ m	2.5m

主 要 用 途	スポーツ施設		
工 事 種 別	新築・増築（既存・修繕）、改築・改修（大規模の修繕・模様替）、用途変更		
敷 地 測 量	測量年月日	年 月 日	測量者氏名
敷 地 設 計 条 件	平均地盤面の高さ	B.Mより+3.792	■
	B.Mの高さ	TP+3.660	■
	標 準 標 高		■
工 期	工事着手予定日	1995 年 4 月 日	工事完了予定日
			1997 年 7 月 日
排水処理方法			
増 築 予 定			

	对 象 比		许 容 限 度
容 量 率(法第52条)	13.705 %	≤	200.0 %
建 伸 率(法第53条)	11.029 %	≤	60.0 %

駐 車 施 設	付置鐵騎 有、無	設置台數	50 台	付置鐵騎台數	台
	屋 外 自走式	50 台	鐵騎式 ()	—	台
	屋 內 自走式	一 台	鐵騎式 ()	—	台
付置鐵騎台數算定根據					

床 面 種 類	㎡
3 F	45.683
2 F	4,544.964
1 F	14,299.509
B 1 F	4,253.055
合 計	23,143.211

外部仕上表

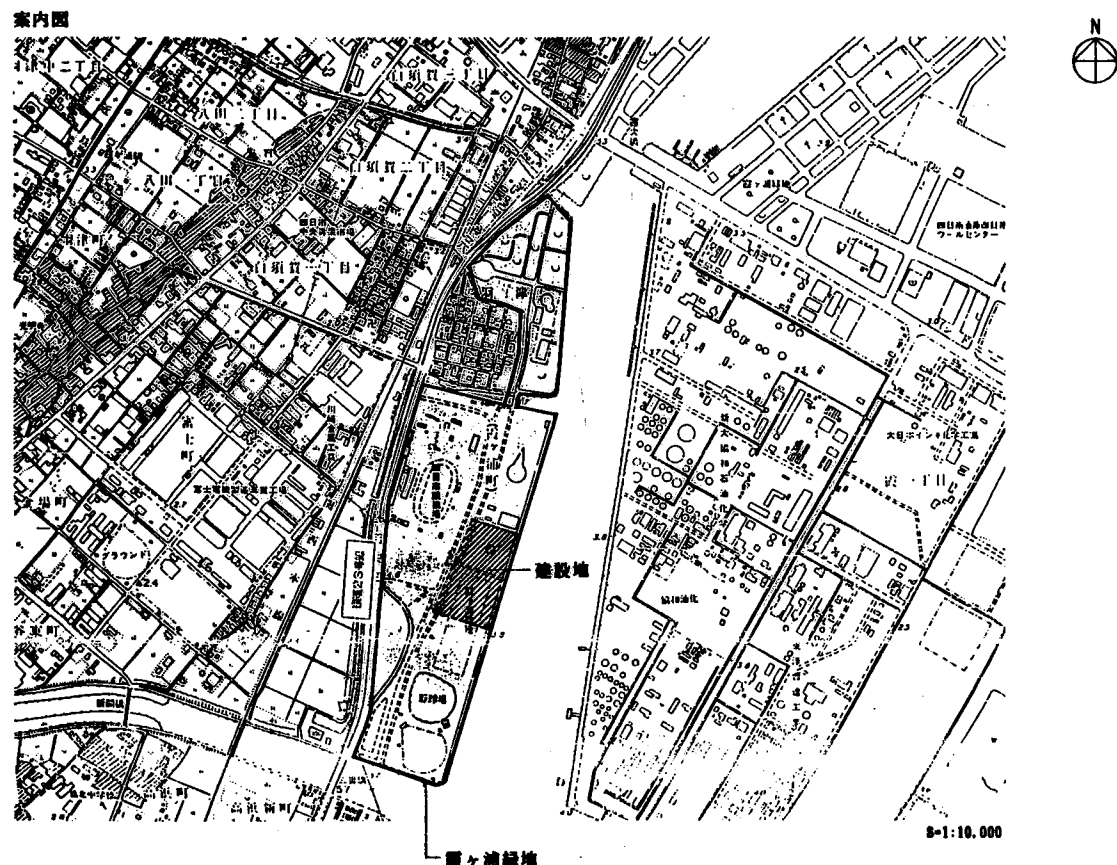
屋根	……スチール系ステンレス鋼板0.8mm厚・フッ素樹脂被膜付 下層は亜鉛メッキ鋼板(90μm厚)・中間層はFRP・上層はG.W10kg/m ² 以上のエポキシ樹脂コーティング処理 / アクリル防水剤コーティング
バルコニー壁	……コンクリート配筋 垂れ防水
外壁	……コンクリート打放し シラネ漆喰水切り条
軒天	……スチール系ステンレス鋼板0.5mm厚・FRP成形材・6%亜鉛メッキ鋼板0.7mm厚・接着排水用PEI・PEI・PS
外装扉	……コンクリート化粧仕上げ シラネ漆喰水切り条
窓	……アルミガルバリウム鋼板 アルミイト(9mm×12mm) ワザア
ガラス	……透明フロートガラス FL12、FL15 HPC-ボートシート5%加工品
等重量屋根	……
同・バルコニー壁	……
同・外壁	……
ポーテ屋根	……
庇	……フッ素樹脂塗装亜鉛鋼板0.8mm厚・フッ素樹脂被膜付
バルコニー	……珪藻土・タイル貼 (100角)
ポーテ床	……ヒノキ、塗り出し平張アロウ貼
大入り	……
外階段	……100角タイル貼
地下防水	……無機質多量性浸透型防水
欄干	……スチール系ステンレス鋼板JIS 20%
外網	……特種 鉄線 コーティング処理仕上げ シラネ漆喰水切り条 30mm スチール SOP-II (電鍍めっき) 「ハイパー」コーティング、電鍍めっきコーティング (腐食防止、防錆効果、UVの紫外線を吸収する) → 今期工事
その他	……引張り工事、施工時に十分な作業と保護を要する。

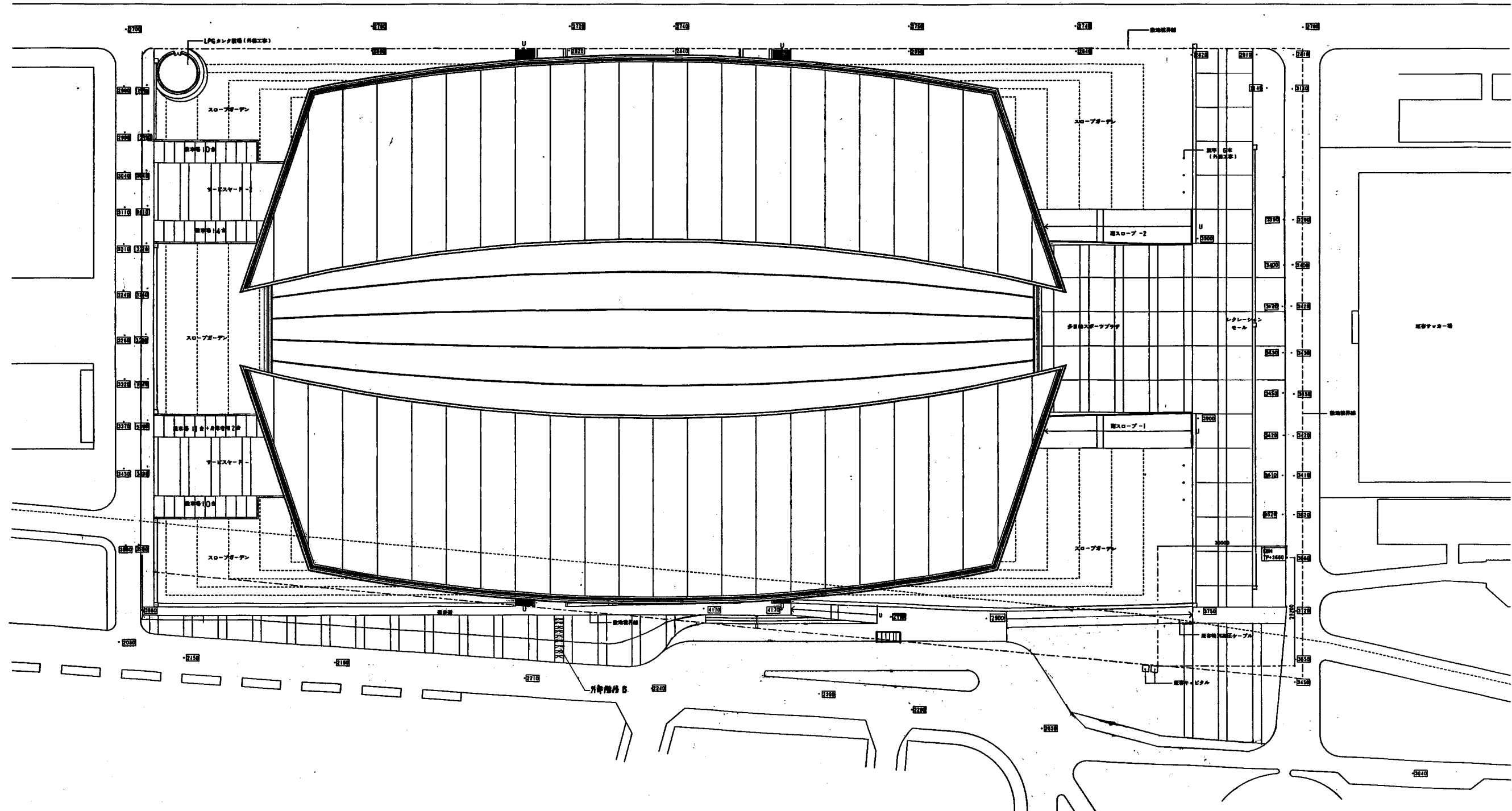
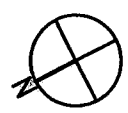
共通事項 (特記なき限り下記による) ○のみ適用

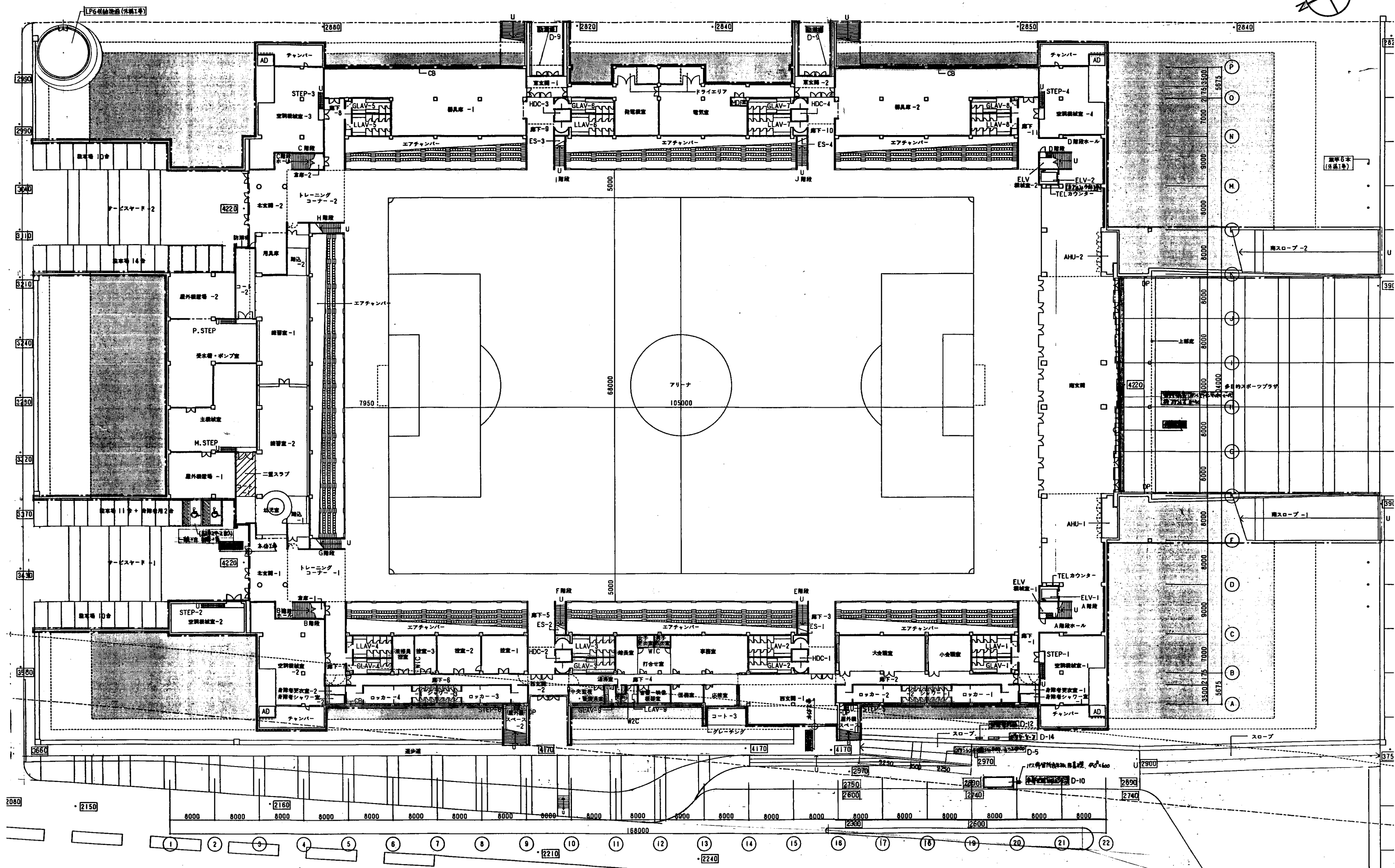
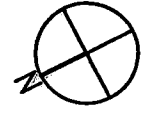
- ① 弾性不定形シーリング材 (APACALD) は、図示なき限り 10mm×10mmを最小とし、パッタリ押し付け使用を原則とする。フロー本
2. 外観詳細目はピッチ3mm内外及び柱頭と打継部分に設ける。
3. 外壁の水平打継を箇所で外部面に突出物 (庇、バルコニー、梁等) がある場合の打継はスラブ上面より 100mm以上の位置とし、外勾配付きとする。
4. 振入天井下地は断熱保温構造とし、天井値が 1m 以上の場合、吊ボルトに振止めを設ける。
- ⑤ モルタル金は金線仕上げとする。
6. 異種床材間の見切材は、8US製とし、形状は門面巾 40mm×高さ 20mm・壁厚 1.5mm・アンカー付とし門面内部はモルタル詰めとする。又は SUS、FB (両方)
7. 8USは 8US 994 とし、仕上は特記仕様書による。 SUS 316L 相当 (45℃以下使用)
8. 岩盤調査後は FB 10mm 捨て張り下地とし、めくら目地張りとする。
9. 壁紙は、内装は防汚巻きを施す。又ルーフトレーンはコンクリートスラブに打ち込みとし、打ち込み部のスラブ下部埋没深さは 100mm とする。
10. 地下二重壁内水抜きは硬質塩ビ管 50φ を 1 バン当り 2 ヲ所設置する。
11. 地下二重スラブ内流通管、通気管は硬質塩ビ管 100φ を 1 ブロック 1 面当り 2 ヲ所設置する。
- ⑫ 図示にコンクリート打放しとある場合は型枠外し後、バリ等を除去し、ジャンカ、すず等を既製の指示による補修を行うものとする。型枠外しのままとある場合は、ジャンカ、すず等の補修のみ行う。
13. 外部鉄部は亜鉛メッキとする。 国産
14. 天井廻り縁は図示なき限り塩化ビニル製 (製品) とし、下り壁部分の見切縁は FRP 押出造とする。
15. 面隠段 -1.2α グレーニアは フラング・グレーニア (T/F/FRO40 両向き、長さ 300φ747)、
α 型 α グレーニアは 亜鉛メッキスチール・グレーニア (ナベツウ HSBN) 両向き以上とする。
トヒシ、是内民権長崎部 グレーニアは、ケイツウ BQ、w=250 両向き以上とする。
- ⑬ 現地に準拠アルカリ、利根建設 PC 板現地に、東の区 300φ300×60mm 両向き以上とする。
17. 昇降機室、シャワー・更衣室、カマヨオロム、浴室・両向き以上 (w1600×h2500×d2200) 設置：フットパッド・マット、上部はハダック (セキヤ約 12cm) とし、専用 Sカン使用。
丸：30φ、ジョー・フェリス・両向き以上、アックス・カチン・バトン・取付、H=900程度。
男・女更衣室 カチン・フェリス、ローソク (棒) ニュリア 両向き以上
伸縮式 7400 程度、12φ (27φ市)、両端部壁面固定 (壁面アジャスト B749 程度)

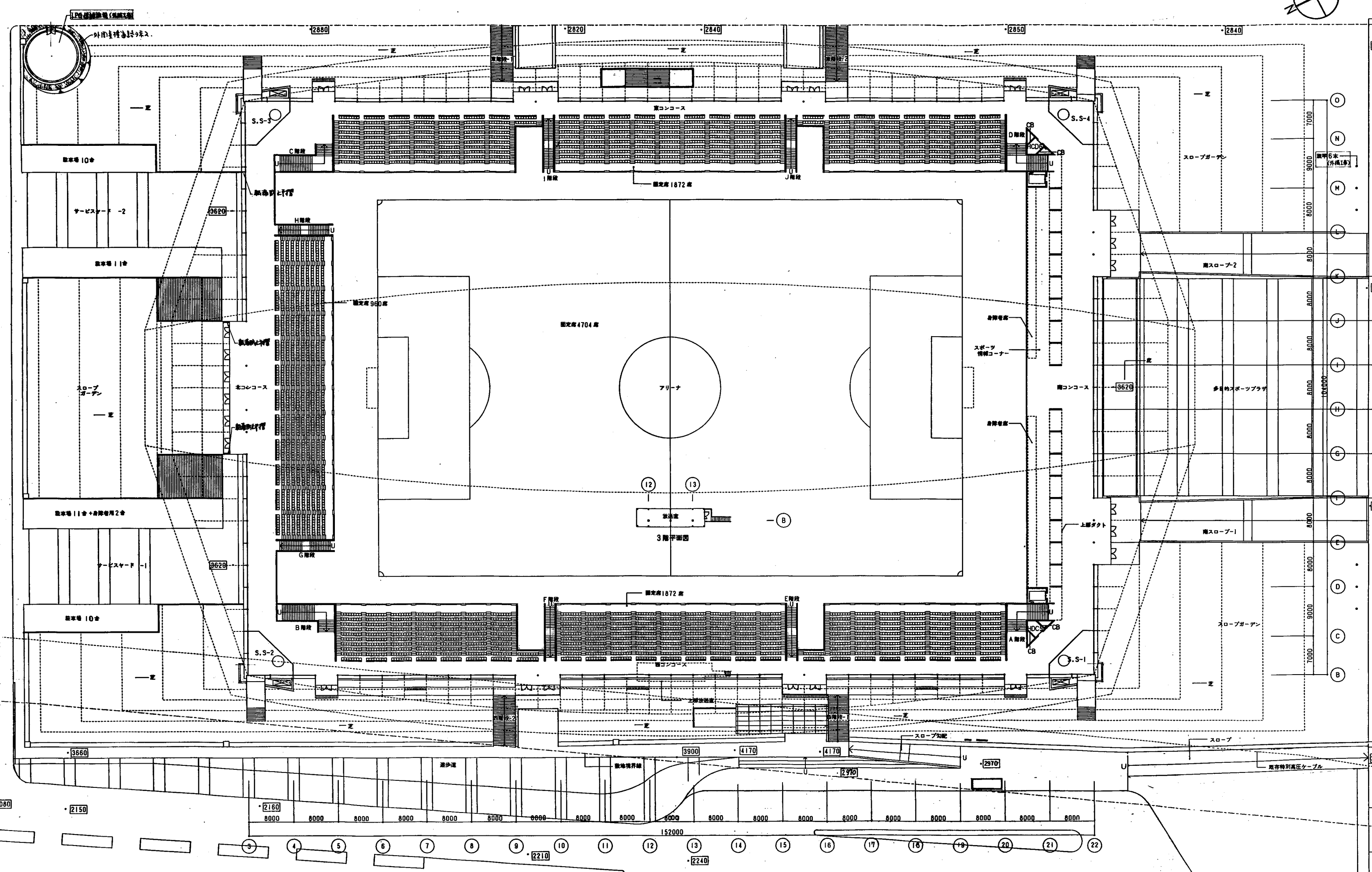
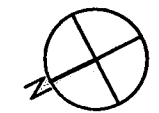
附属・附属工事 (注○印で表示)							
種 別	工 事	備 考		種 別	工 事	備 考	
附属設備	什 器	○		空調換気設備	冷 熱 源	○	
	可動家具	○			給油設備	○	
	固定家具				冷 房	○	
	風板・掲示板				暖 房	○	
	カウンター				換 気	○	
	渡し・吊戸欄				排 風	○	
	カーテン	○			自動制御	○	
	カーテンレール	○			ダクト設備	○	
	ブラインド	○	11ルブラインド	給排水設備	給 水	○	
	給 水	○	給水設備		排水通気	○	
特殊設備	カーペット				給 湯	○	
	マット類				飲料用冷水	○	
	郵便受				消火設備	○	
	族年金物				衛生器具	○	
	社名板・館名板	○			ガ ス	○	
	各種表示板	○			厨房器具	○	
	室 名 板	○			給水処理設備	○	
	書 文 字	○			排水処理設備	○	
	定機板(石)	○			浄 化 槽	○	
	看 板 欄	○			ゴミ処理設備	○	
	可動間仕切				受 水 槽	○	
	映写スクリーン				冷却装置	○	
	防犯カメラ	○		電気設備	受 電 電	○	
					自家発電	○	
	金庫扉・金庫扉				蓄 電 池	○	
	ユニットバス				特殊電源	○	
	搬 送 機				動 力	○	
	舞台装置				電灯コンセント	○	
	機械駐車場				照明器具	○	
	窓枠・バルコニー	○	自走式		非常照明	○	
	差 離 器 具				誘 導 灯	○	
					電話機	○	
外 構	各種基礎	○			電話配管	○	
	照明設備	○			放 送	○	
	放送設備	○			電気時計	○	
	鋪 装				表示設備	○	
	路面駐車場	○			インターホン	○	
	門 ・ 扉				TV 共聴	○	
	よ う 登	○	構造物等		ITV 設備	○	
	土 庫	○			防災火災報知器	○	
	屋外排水	○			差 需 計	○	
	鋪 装 造 型	○		昇降機	屋外電気	○	
附 属 工 事	バーゴラ				0 A	○	
	池・噴水				LANシステム	○	
	旗 竿	○			CPU 設備	○	
	案内看板	○			自動車管制	○	
	物 置				気 送 管	○	
	設備機械室				映 写	○	
	各種水櫃		76x水櫃30x3		音 響	○	
	駐車場上屋				警備保障	○	
	立体駐車場						
	立井駐車場						
敷地造成	LPガス炉	○		補 償	エレベーター	○	2号機(1200)
	敷地造成				非常用エレベーター	○	
	よ う 登				ユスカレーター	○	
	腰 岸				ダムユニット	○	
	排 水	○					
	運 送	○					
	橋 梁						
	運 水 池						
警 告 物 去	既設建物	○	是外候所	そ の 他	工事補償	○	
	基 礎	○			影 響	○	
	埋 設 物	○			電波障害	○	
	工 作 物	○			風 害	○	

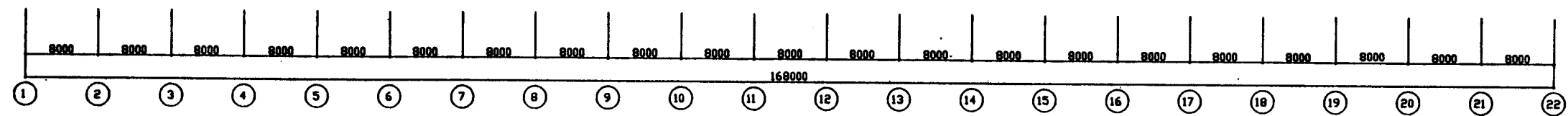
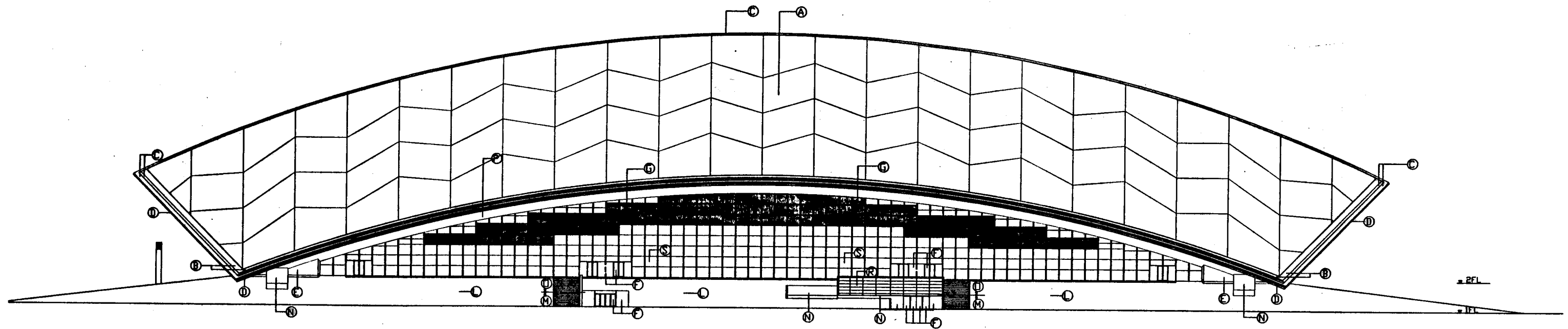
凡 例	
材料番号	
SUS ・ステンレススチール	RWB ・ロッキングールボード
ST ・スチール	KB ・珪酸カルシウム板
AL ・アルミ	PVC(a) ・尺寸適シシート
TB ・テラザーブロック	PVC(b) ・フッ素樹脂フロアシート
MP ・メラミン化粧板	PVC ・ビニールタイル
PB ・石膏ボード	CB ・コンクリートブロック
RB ・岩綿吸音板	PC ・フイキャストコンクリート
FP ・発泡ポリスチレン板	LC ・軽量コンクリート
CLK ・シーリング材	RC ・コンクリート
Vクロス・ビニールクロス (VIC)	RW ・ロッキングール
クロス・布貼	GW ・グラスウール
塗料番号	
SOP ・合成樹脂塗合ペイント塗	
ALP ・アルミニウムペイント塗	
FE ・フタル酸エナメル塗	
CL ・クリヤーラッカー塗	
UC ・ウレタンワニス塗	
OS ・オイルステン塗	
VP ・塩化ビニルエナメル塗	
AP ・アクリルエナメル塗	
AEP ・アクリル系エマルジョン塗	
EP ・醇ヒ系エマルジョン塗	
UCL ・ポリウレタン樹脂クリアラッカー	
XE ・エポキシ系エナメル塗	
A-BE・焼付アクリルエナメル塗	
X-BE・エポキシ系焼付塗料塗	
VC ・塩化ビニルワニス塗	
C ・アクリルワニス塗	
A ・珪酸カルシウム珪酸塩	
GEP ・珪酸カルシウム珪酸塩エマルジョン塗	
一般図凡例	
	・コンクリート
	・軽量コンクリート及ALC/タイル
	・ブロック
	S
	S
	S
	S
	S
	P
	防火
	床面
	天井
	地下
	エレベーター
	フロアードレーン
	ルーフトレーン
	配管
	壁
	スラブ
	ベンチマーク
	地下水位
	エレベーター
	フロアードレーン
	ルーフトレーン
	配管
	壁
	スラブ
	ベンチマーク
	地下水位
	エレベーター
	フロアードレーン
	ルーフトレーン
	配管
	壁
	スラブ
	ベンチマーク
	地下水位
	エレベーター
	フロアードレーン
	ルーフトレーン
	配管
	壁
	スラブ
	ベンチマーク
	地下水位
	エレベーター
	フロアードレーン
	ルーフトレーン
	配管
	壁
	スラブ
	ベンチマーク
	地下水位
	エレベーター
	フロアードレーン
	ルーフトレーン
	配管
	壁
	スラブ
	ベンチマーク
	地下水位
	エレベーター
	フロアードレーン
	ルーフトレーン
	配管
	壁
	スラブ
	ベンチマーク
	地下水位
	エレベーター
	フロアードレーン
	ルーフトレーン
	配管
	壁
	スラブ



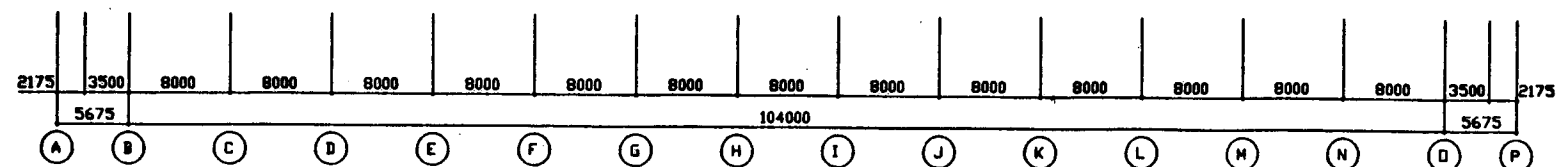
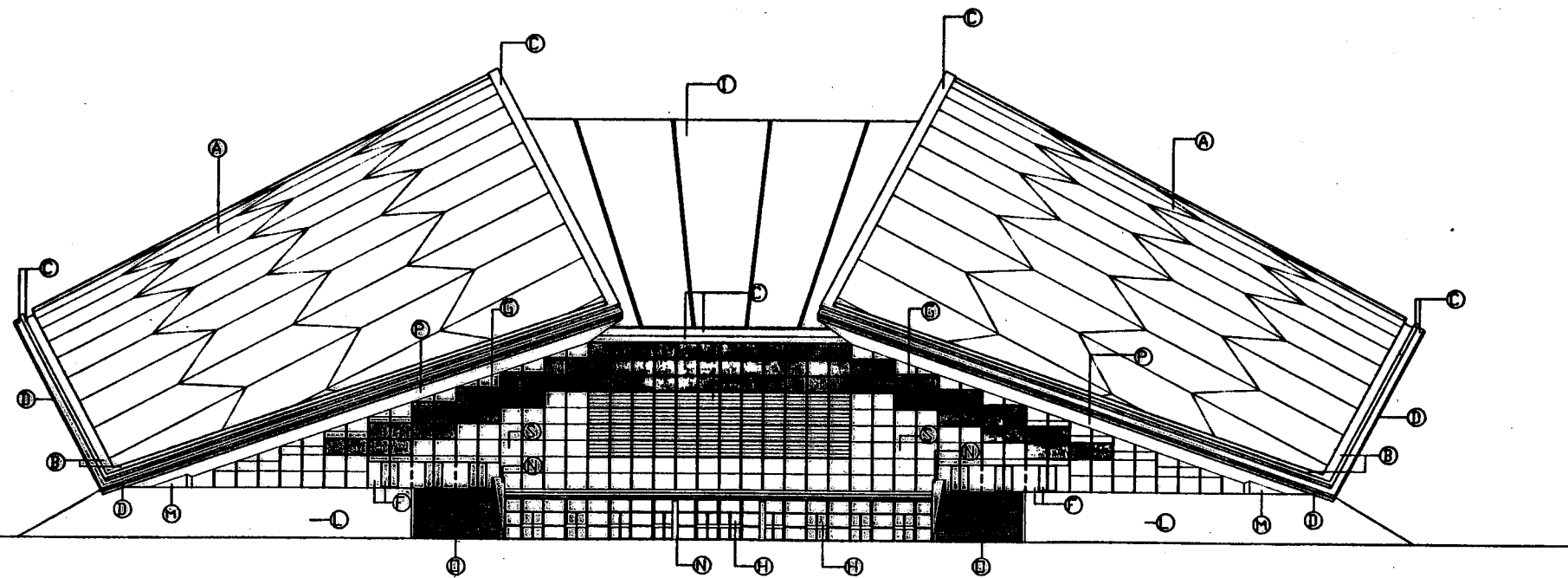






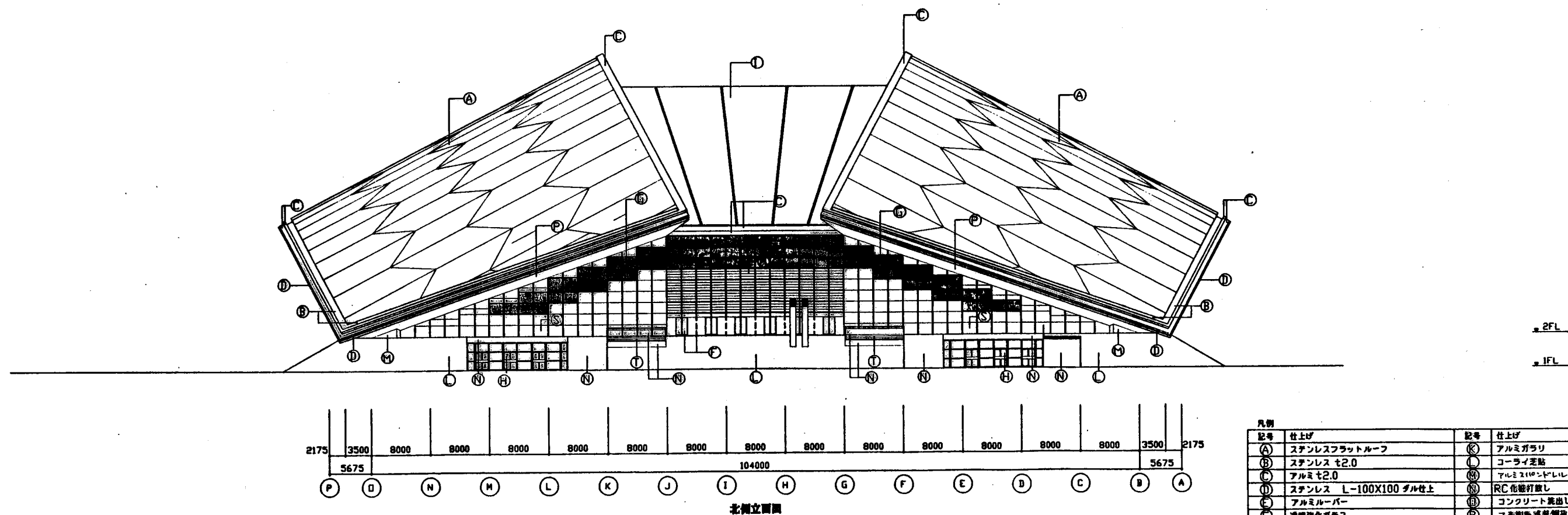
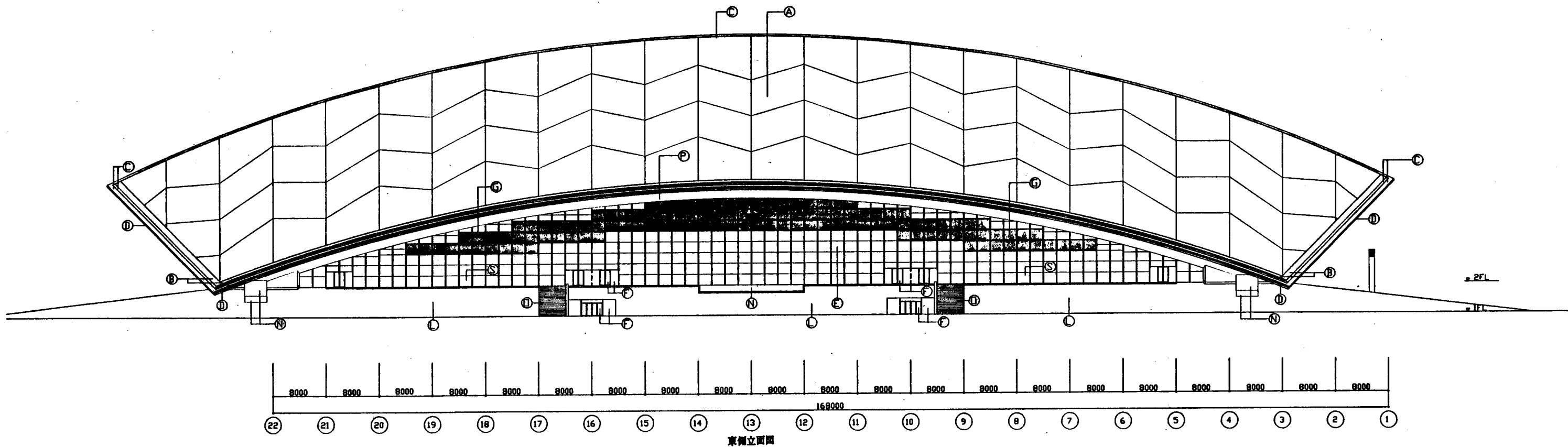


西側立面図

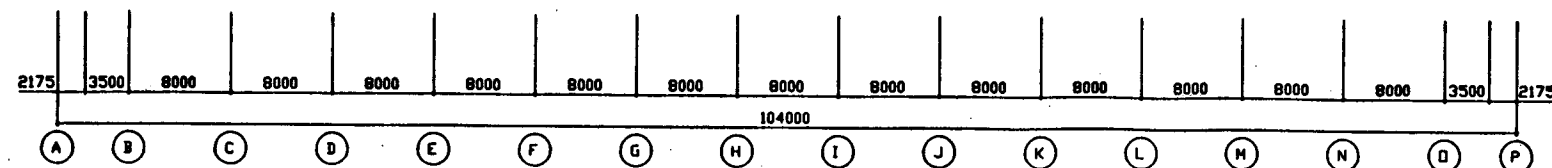
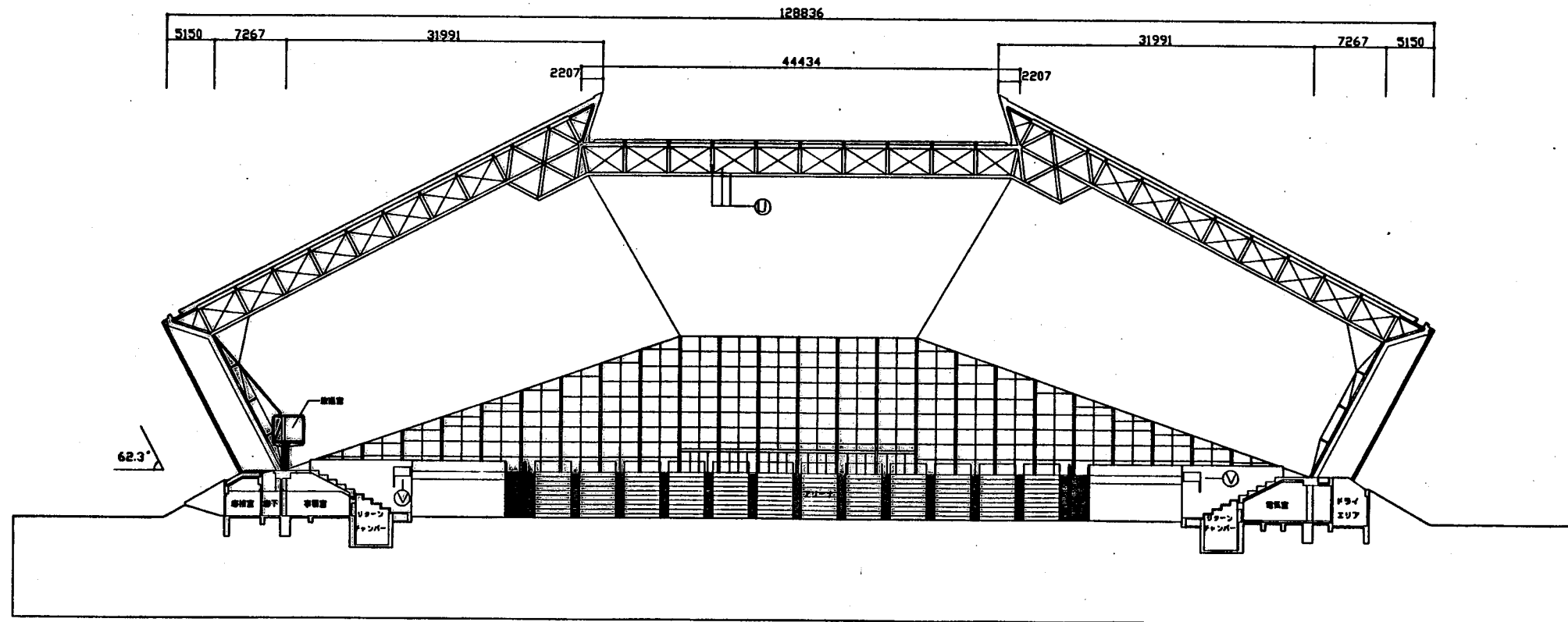
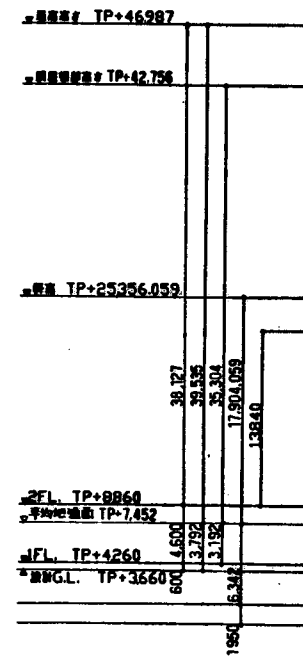
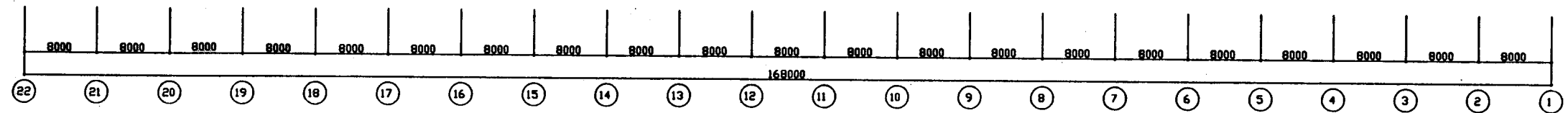
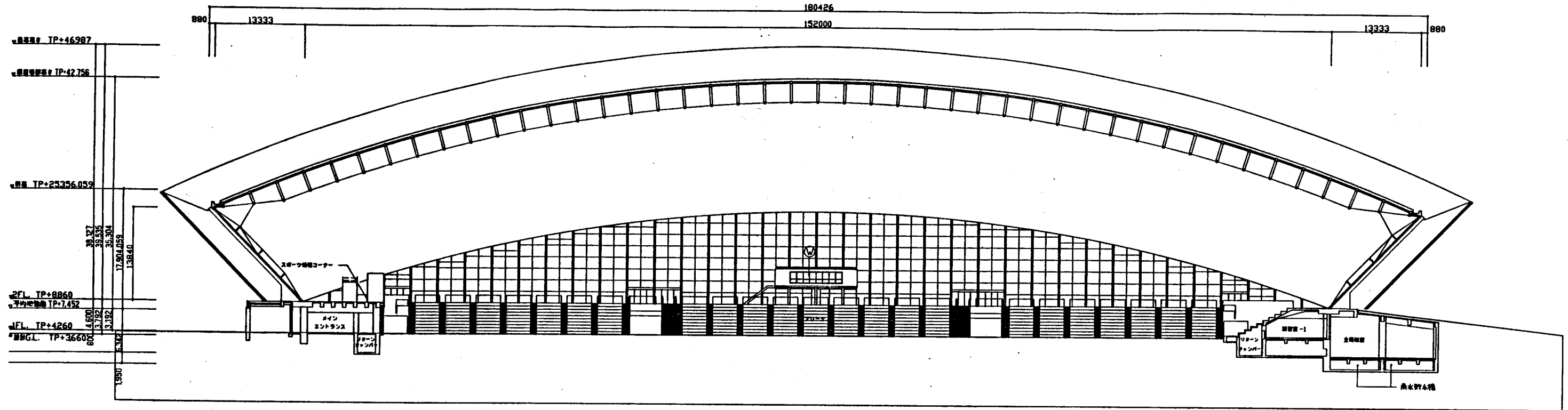


南側立面図

凡例			
記号	仕上	記号	仕上
(A)	ステンレスフラットルーフ	(K)	アルミガラリ
(B)	ステンレス t2.0	(L)	コーライ塗貼
(C)	アルミ t2.0	(M)	アルミハンドレール張り
(D)	ステンレス L-100X100 ダル仕上	(N)	RC化粧打放し
(E)	アルミルーバー	(O)	コンクリート露出し
(F)	透明強化ガラス	(P)	フッ素樹脂塗装鋼板 t0.8
(G)	透明ガラス t15	(Q)	スチール
(H)	ポリカーボネイトシート	(R)	フロストガラス
(I)	テフロン膜	(S)	透明ガラス t12
(J)	アルミスパンドレル	(T)	鋳鉛メッキ グレーチング



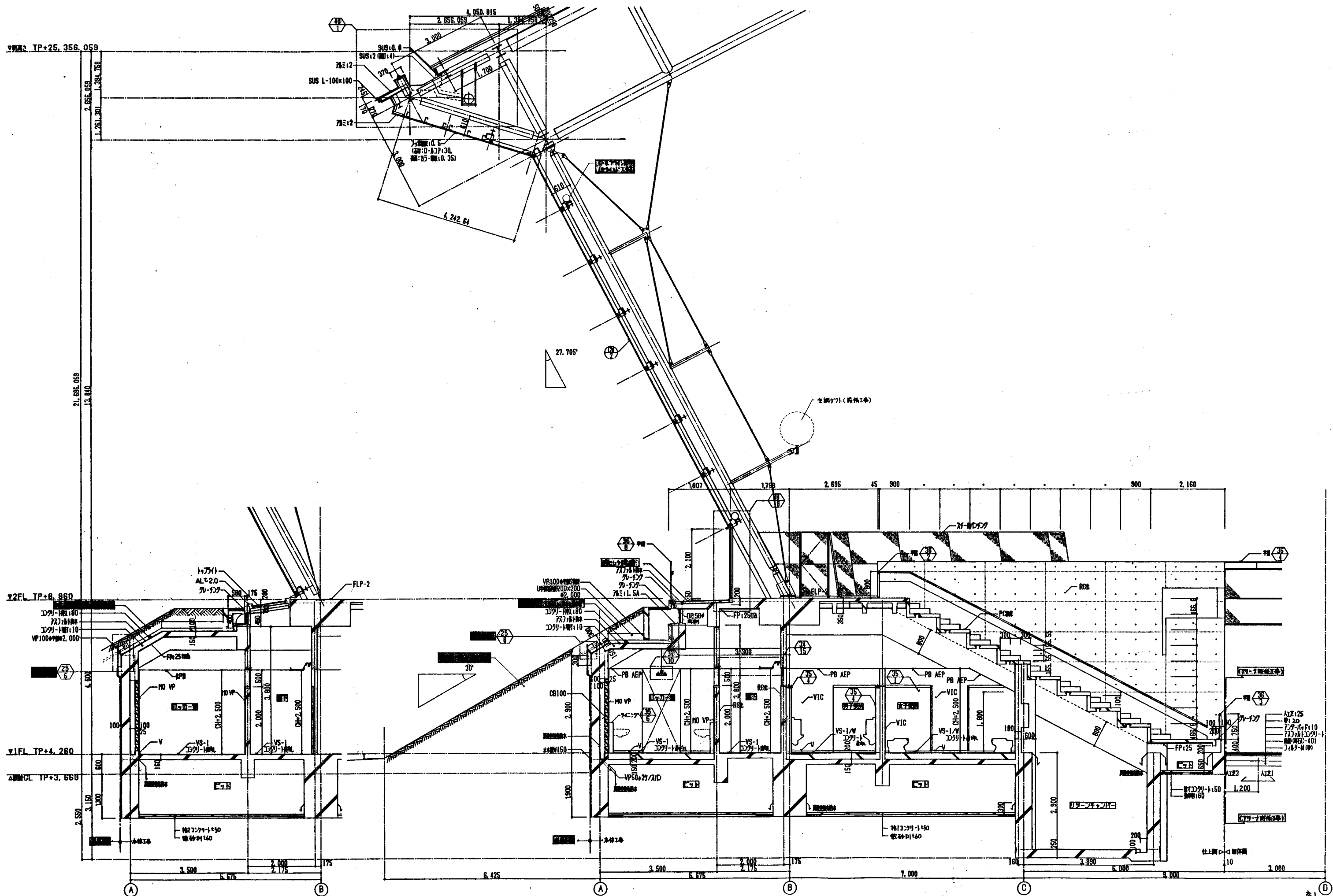
記号	仕上り	記号	仕上り
(A)	ステンレスフラットルーフ	(K)	アルミガラリ
(B)	ステンレス t2.0	(L)	コーライ定貼
(C)	アルミ t2.0	(M)	アルミスパンドレル t2.0
(D)	ステンレス L-100X100 ダル仕上	(N)	RC化粧打放し
(E)	アルミルーバー	(O)	コンクリート露出し
(F)	透明強化ガラス	(P)	スチール
(G)	透明ガラス t15	(Q)	ステンレス
(H)	ポリカーボネイトシート	(R)	フロストガラス
(I)	デフロン膜	(S)	透明ガラス t12
(J)	アルミスパンドレル	(T)	亜鉛メッキ グレーチング

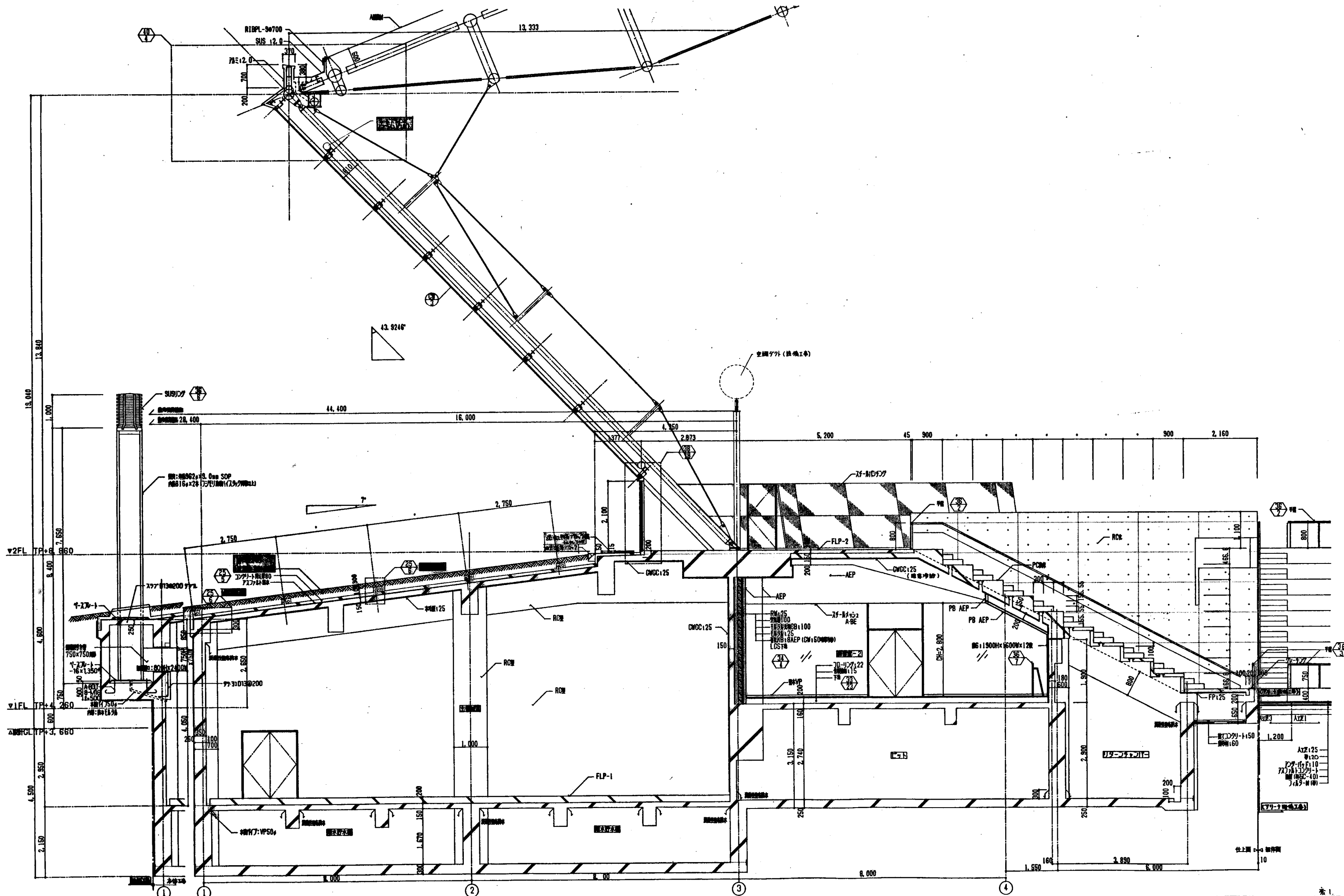


凡例	記号	仕上	記号	仕上
①	スチール	長油性クマシ膜ペイント	②	仕上
③	コンクリート	C	④	仕上
⑤	透明ガラス		⑥	仕上
⑦			⑧	仕上
⑨			⑩	仕上
⑪			⑫	仕上
⑬			⑭	仕上
⑮			⑯	仕上
⑰			⑱	仕上
⑲			㉑	仕上
㉓			㉕	仕上

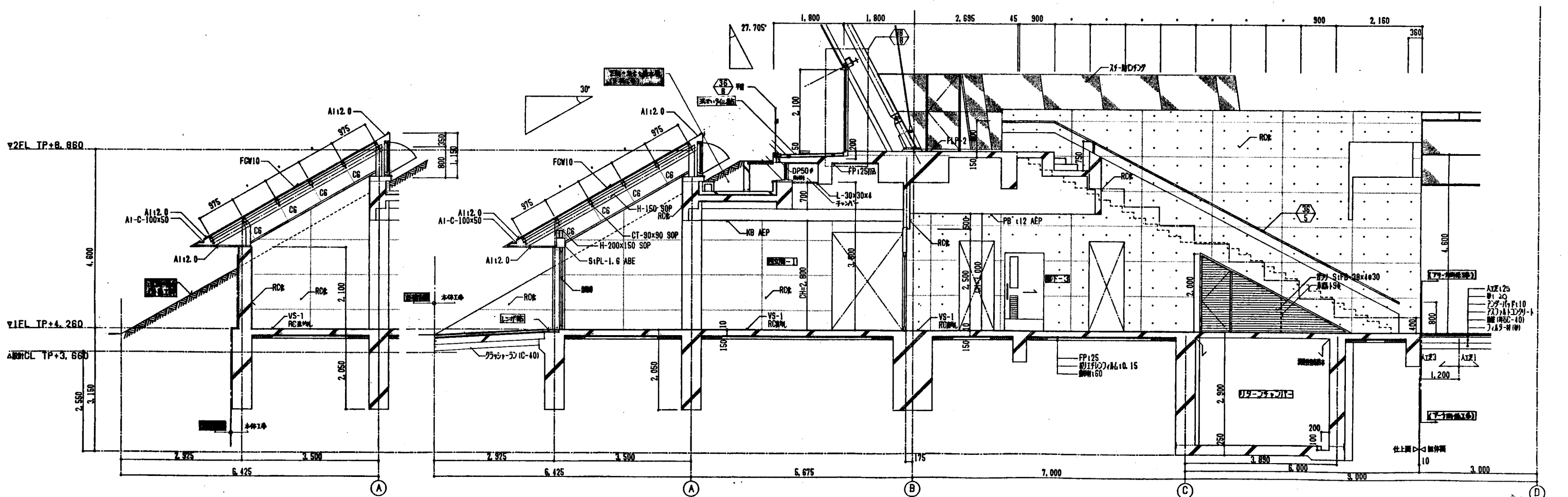
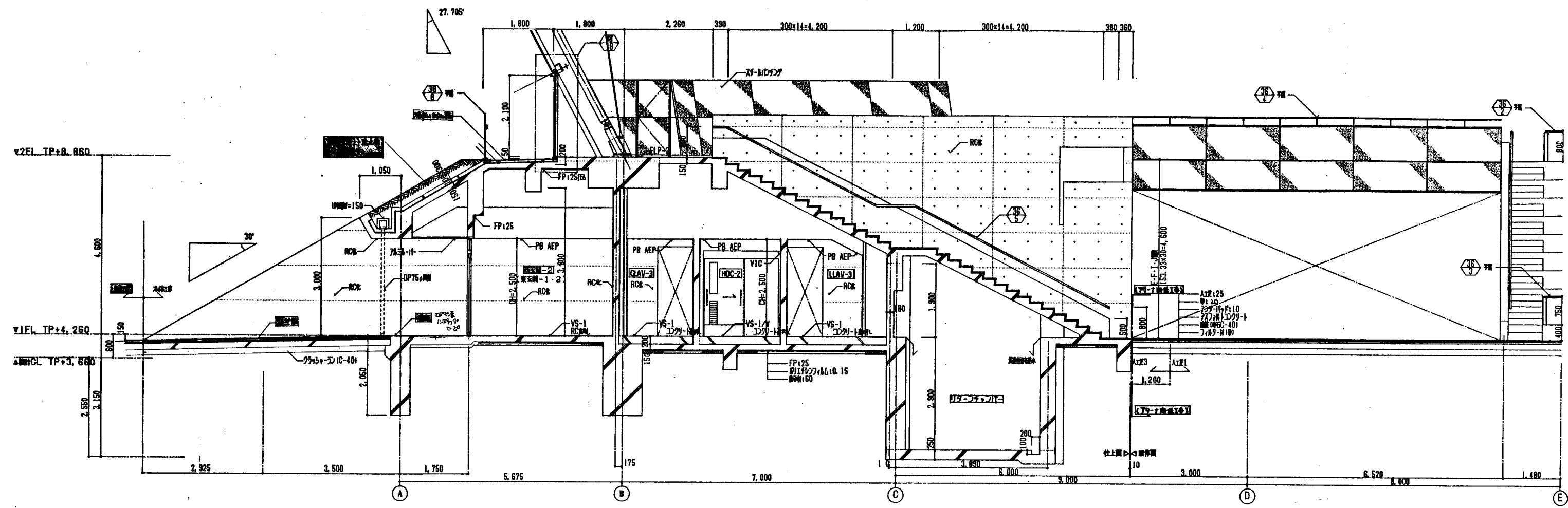
久米設計・梓設計 設計共同企業体

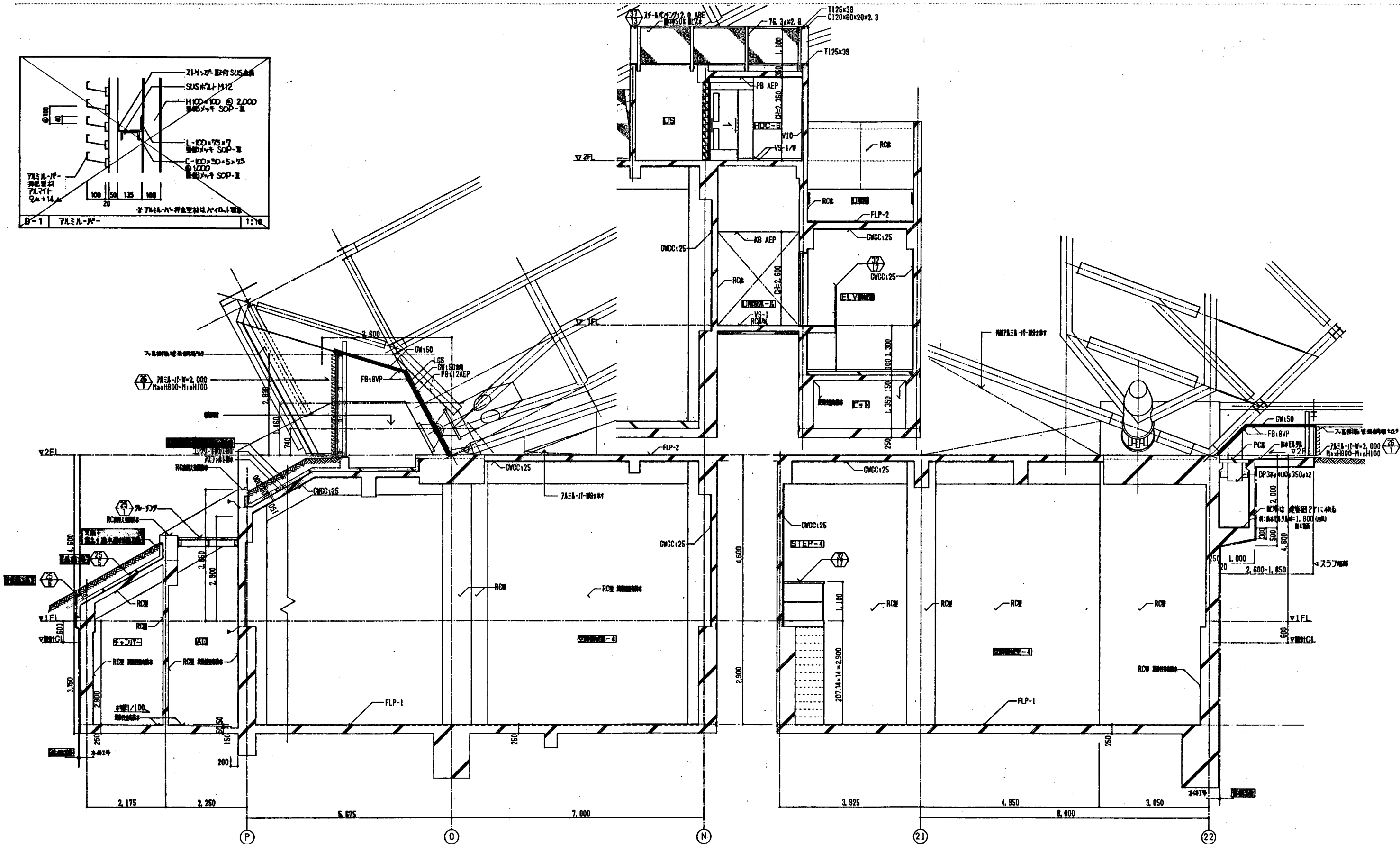
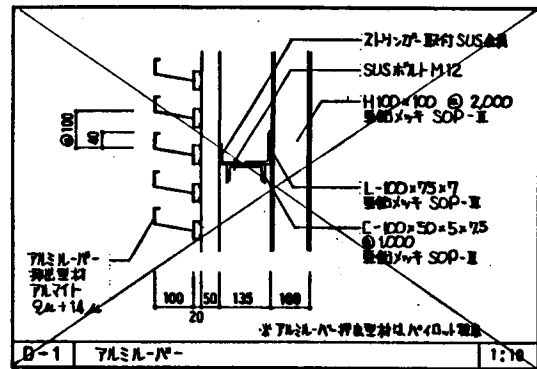
ドーム型多目的スポーツ施設建設工事(付帯工事) 図面 16
断面図 1300 194072



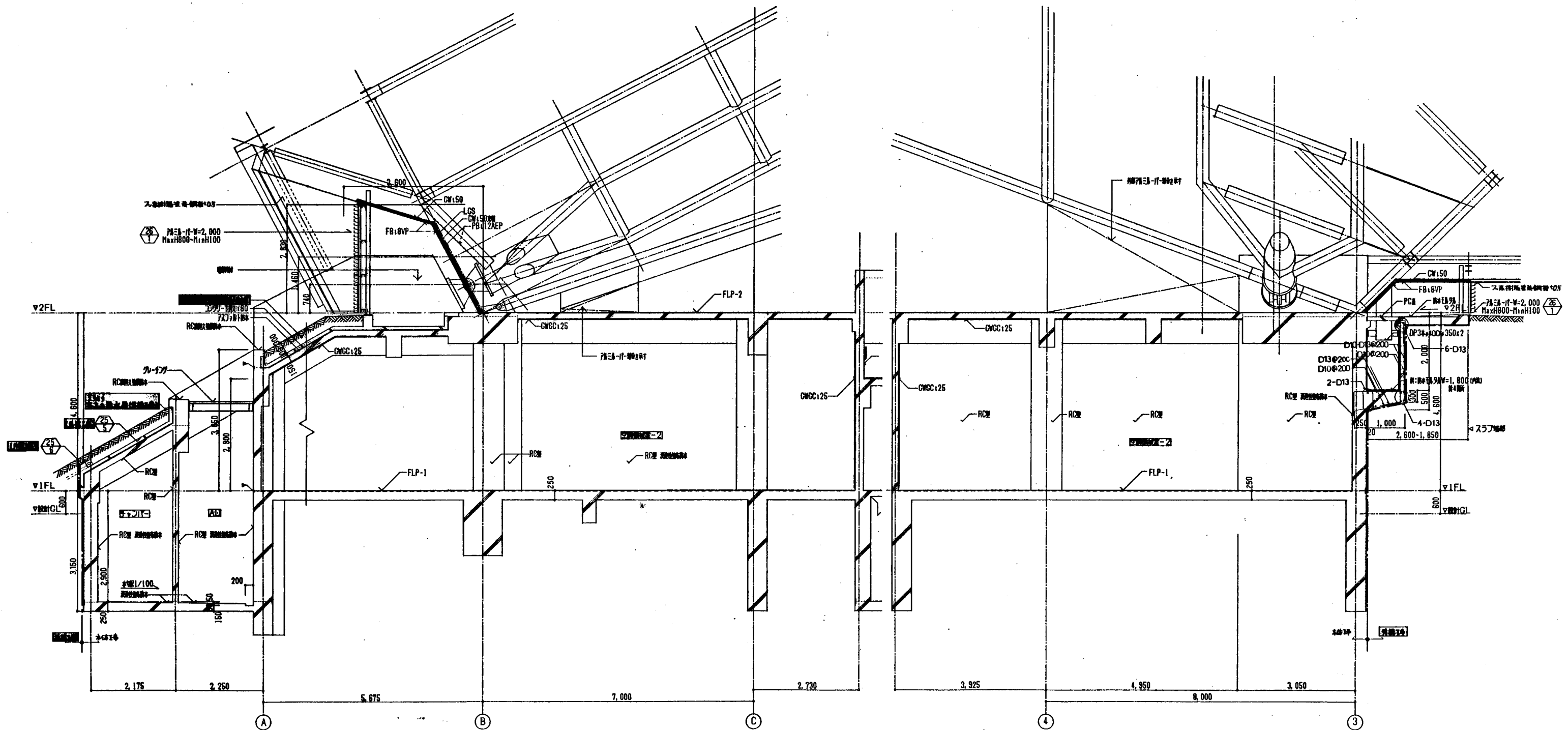


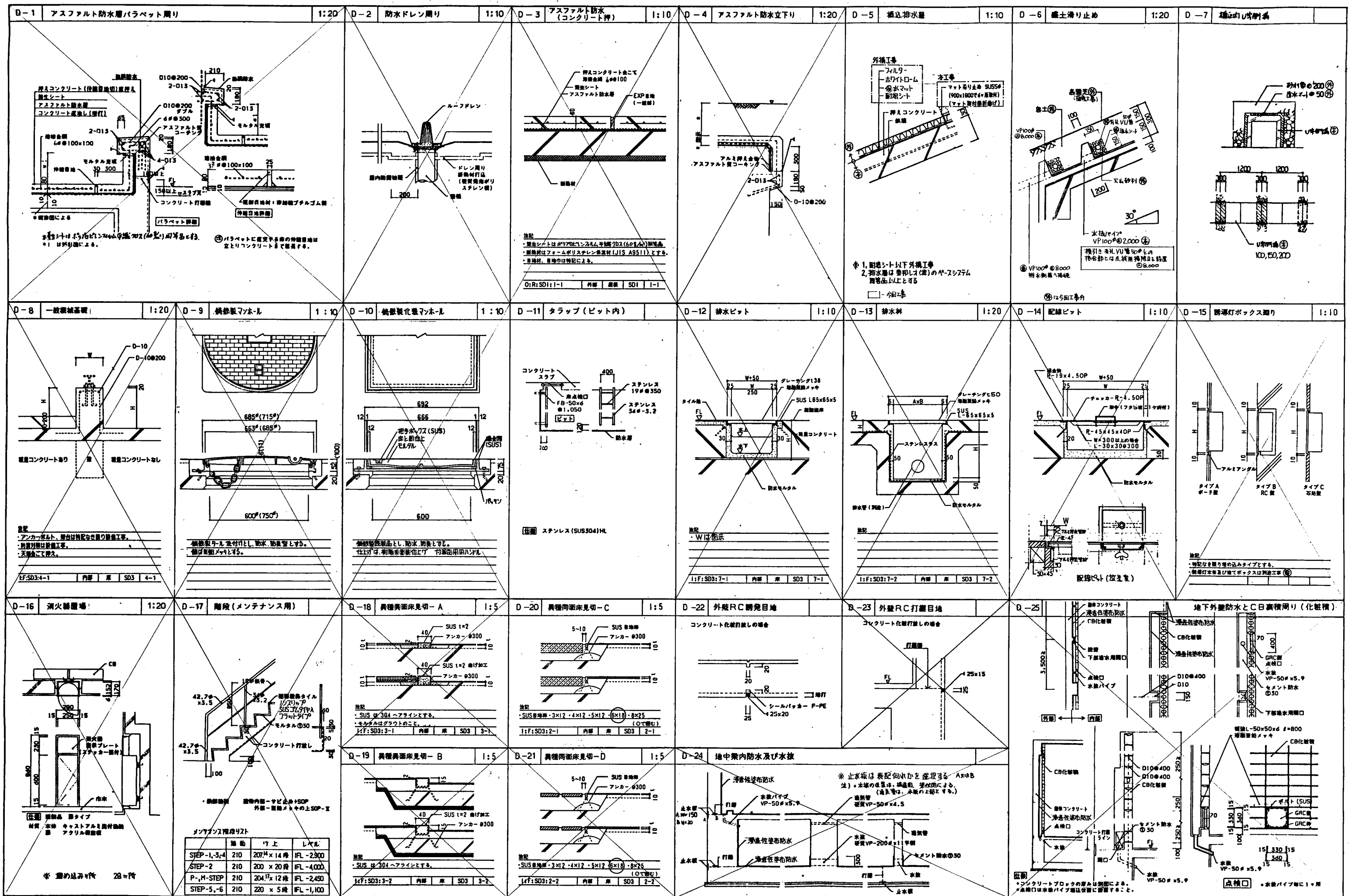
● 気密性 気密工等 (1.5倍工等) ○ 気密工等	久米設計・梓設計 設計共同企業体	ドーム型多目的スポーツ施設建設工事付 帯 工事 概 計 図-4 1/50 194072	20
--	-------------------------	---	-----------

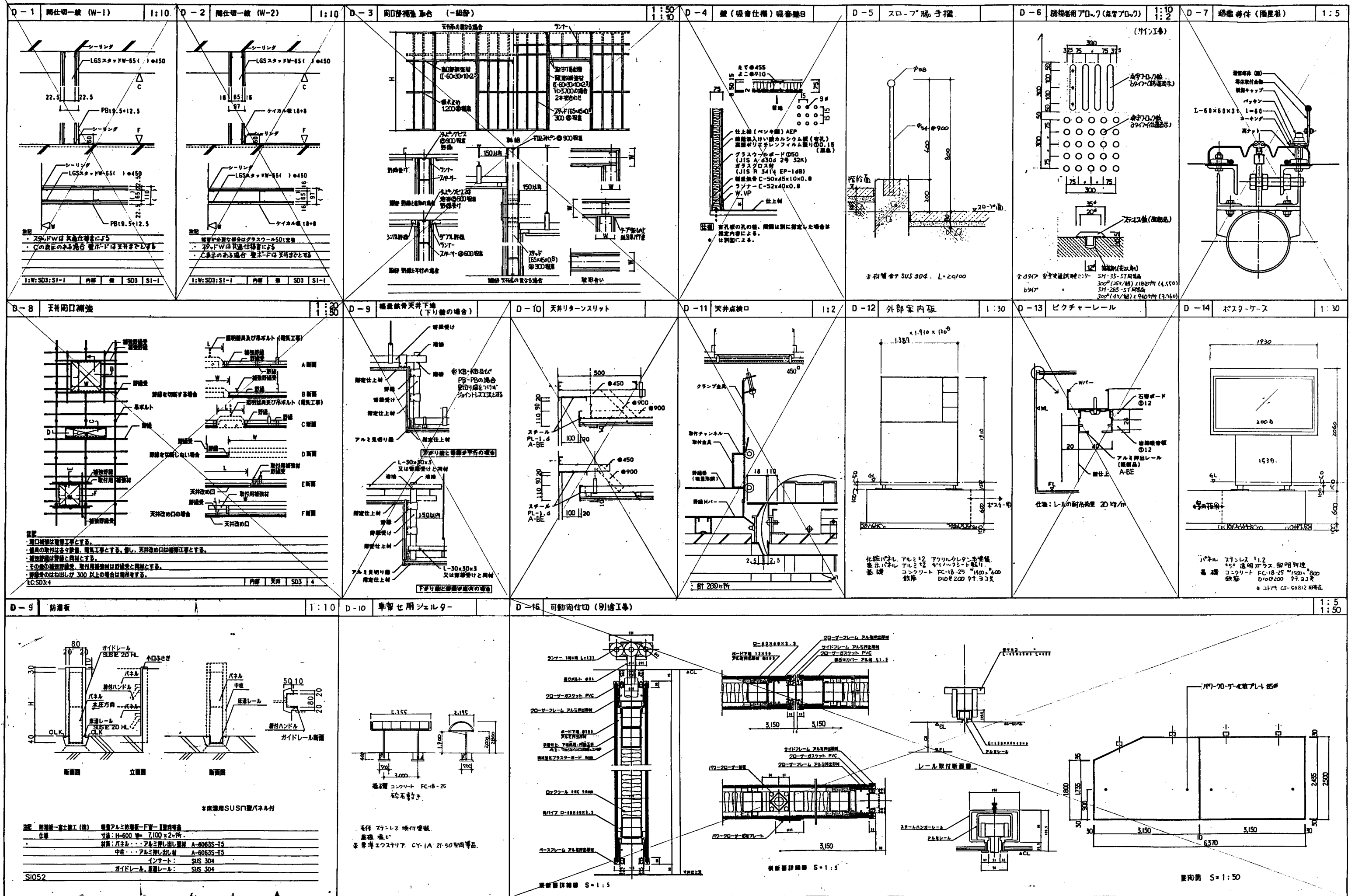


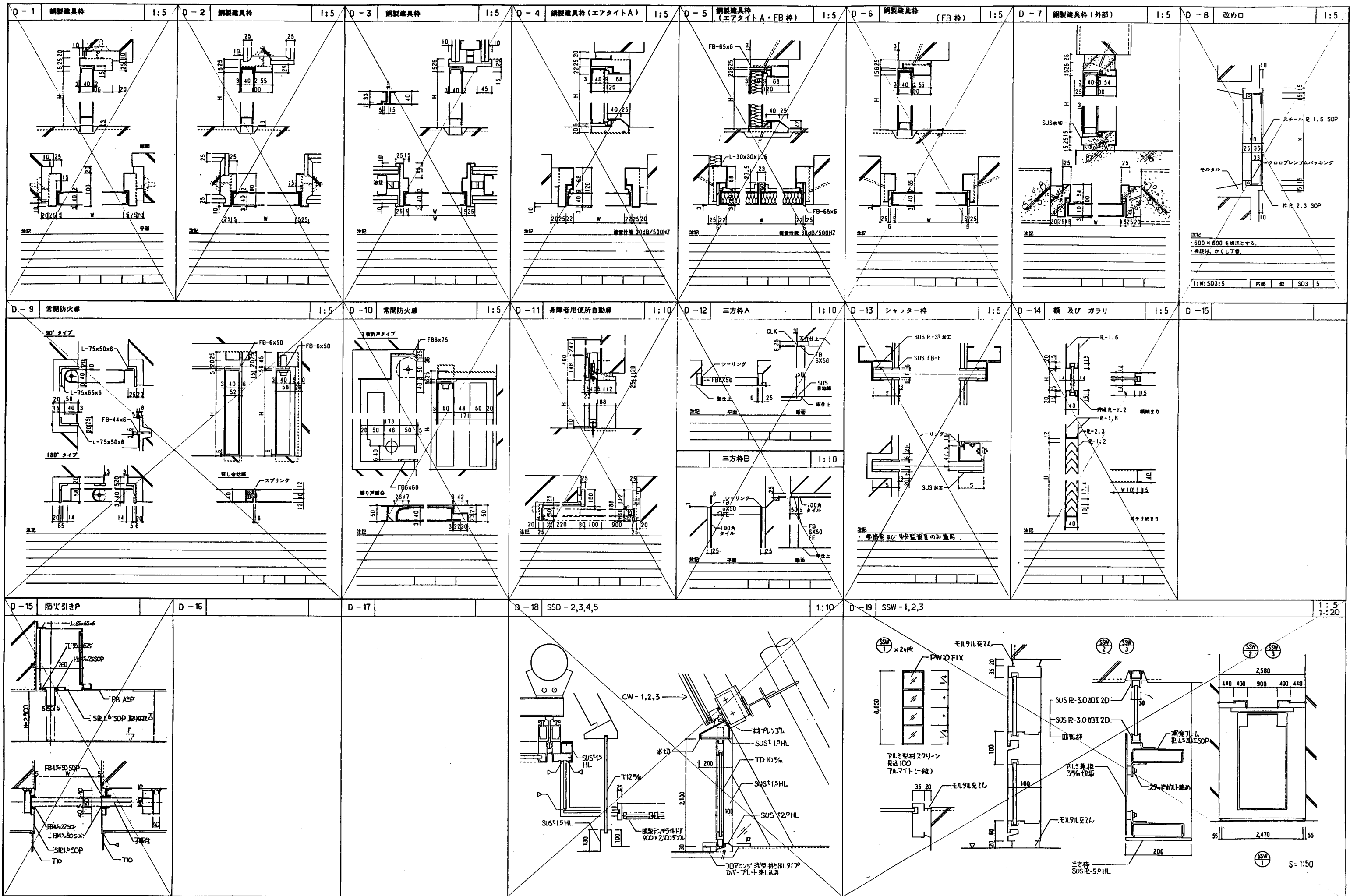


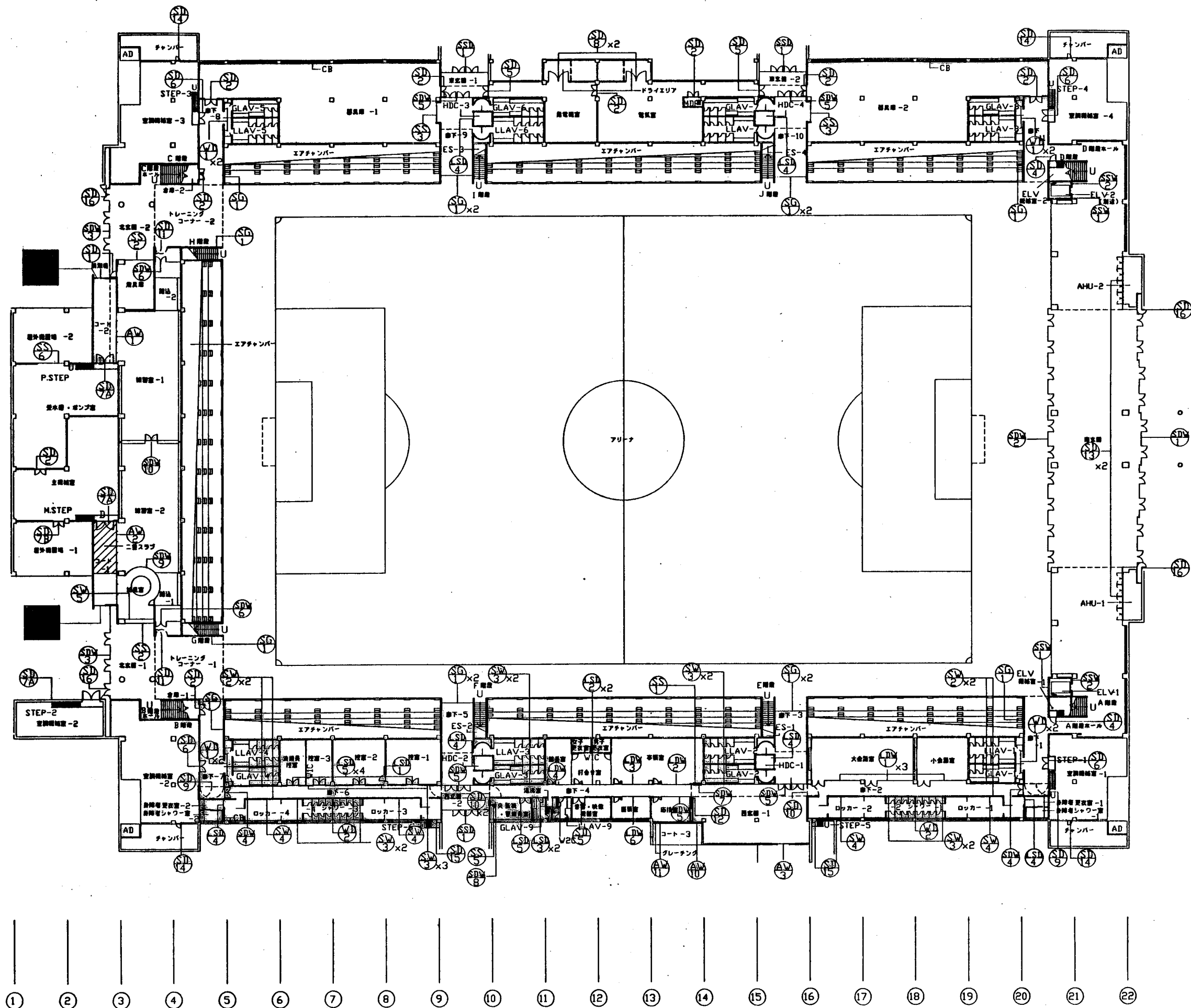
1. 本図は、設計図面（建築工事） 2. 本図は、設計図面（建築工事）	1. 本図は、設計図面（建築工事） 2. 本図は、設計図面（建築工事）	1. 本図は、設計図面（建築工事） 2. 本図は、設計図面（建築工事）	1. 本図は、設計図面（建築工事） 2. 本図は、設計図面（建築工事）	1. 本図は、設計図面（建築工事） 2. 本図は、設計図面（建築工事）	1. 本図は、設計図面（建築工事） 2. 本図は、設計図面（建築工事）	1. 本図は、設計図面（建築工事） 2. 本図は、設計図面（建築工事）	1. 本図は、設計図面（建築工事） 2. 本図は、設計図面（建築工事）	1. 本図は、設計図面（建築工事） 2. 本図は、設計図面（建築工事）	1. 本図は、設計図面（建築工事） 2. 本図は、設計図面（建築工事）
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--











※付帯工事における建具工事は、 $\frac{S}{x2}$, $\frac{SL}{78}$, $\frac{SL}{x2}$ とする。
 北側コ-1.1.1.1.2.

久米設計・梓設計 設計共同企業体

ドーム型多目的スポーツ施設建設工事(付 帯 工 事) 図番 28
 1階 建具カープラン 1:300 194072

一般事項

1. 外装保護板は防錆板() 被膜下。
2. ステンレス、ブロンズ、アルミ、仕上りの下材はスチール ジンクロメートブツ。
3. 内装は入口面積は515 300mm $\pm$ (7mm) モデル光見。
4. 寸法は仕様図内表を示す。 製作に当たっては(7mm)の公差のこ、タイル割りに依って修正する。
5. 内装のガラスの材質は上仕と同等と同一。
6. 座席、手袋、袖通、シャワー、着替、脱衣、更衣室等の施設に使用する食器はタイプ1耐水食器のものはタイプ1使用。 ペンキ、ウロコカビ仕上の食器はタイプ2使用。
7. 本装置の蓋、押柄の組は 一組に3組は 押柄は4組はスチージメ
8. グレージングは焼締のアルミ、鋳造アルミ、鍛造鋳鋼、金との組み合わせで、 ± 0.15 以上
9. 6mm以上の硝子板はブロンズ、ステンレス、アルミ、スチール、ガラスのコーティングで、

神調保

1. 外部アルミサッシュは合成ゴム又はモヘアウエーズトリップ付
2. 外部用道具はガラス面純雨水受け及び木柱（風除け付）を設ける。

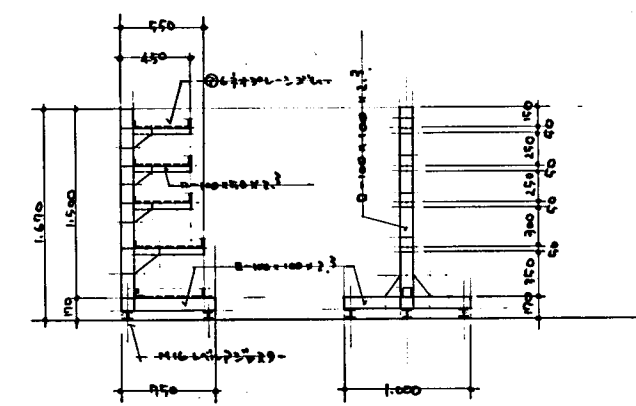
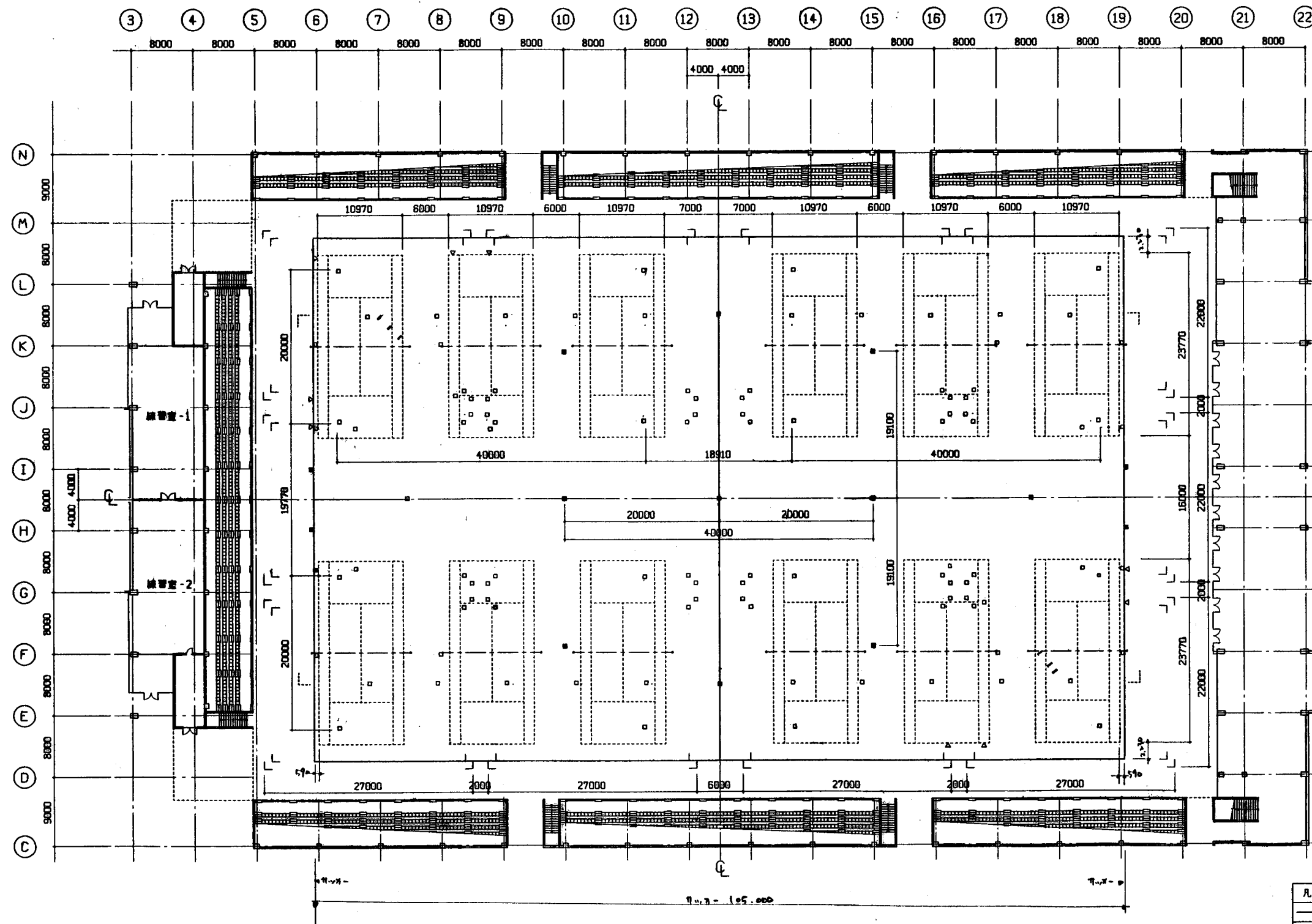
食物關係

1. 一般金物材料は 鋼
2. 釘・………ドナ寸法 6.7mm×1.9m以上 | 木製 125mm 2枚 | 鋼製 125mm 2枚 | 木製 125mm 2枚
鋼製 150mm 3枚 | 鋼製 125mm 2枚
3. 緩衝(1センチンブラー、7mm、アスタックラー、マダックピン) シリンダー型 マスターキー付
4. 扉玉高さは扉上 mm、バックセット mm 以上
5. ドアチェックはストッパー付 (図大取を除く)
6. 換気用器具の閉鎖部分金物位置は扉上500mm以上、500mm以下

図 例

A 型式 片側フラッシュドア	B 型式 片側全入りフラッシュドア	C 型式 片側ハバルドア	D 型式 片側全入りフラッシュドア	E 型式 両側フラッシュドア	F 型式 両側ハバルドア	G 型式 両側全入りハバルドア	H 型式 両側全入りフラッシュドア	J 型式 両側全入りフラッシュドア	K 型式 両側全入りフラッシュドア

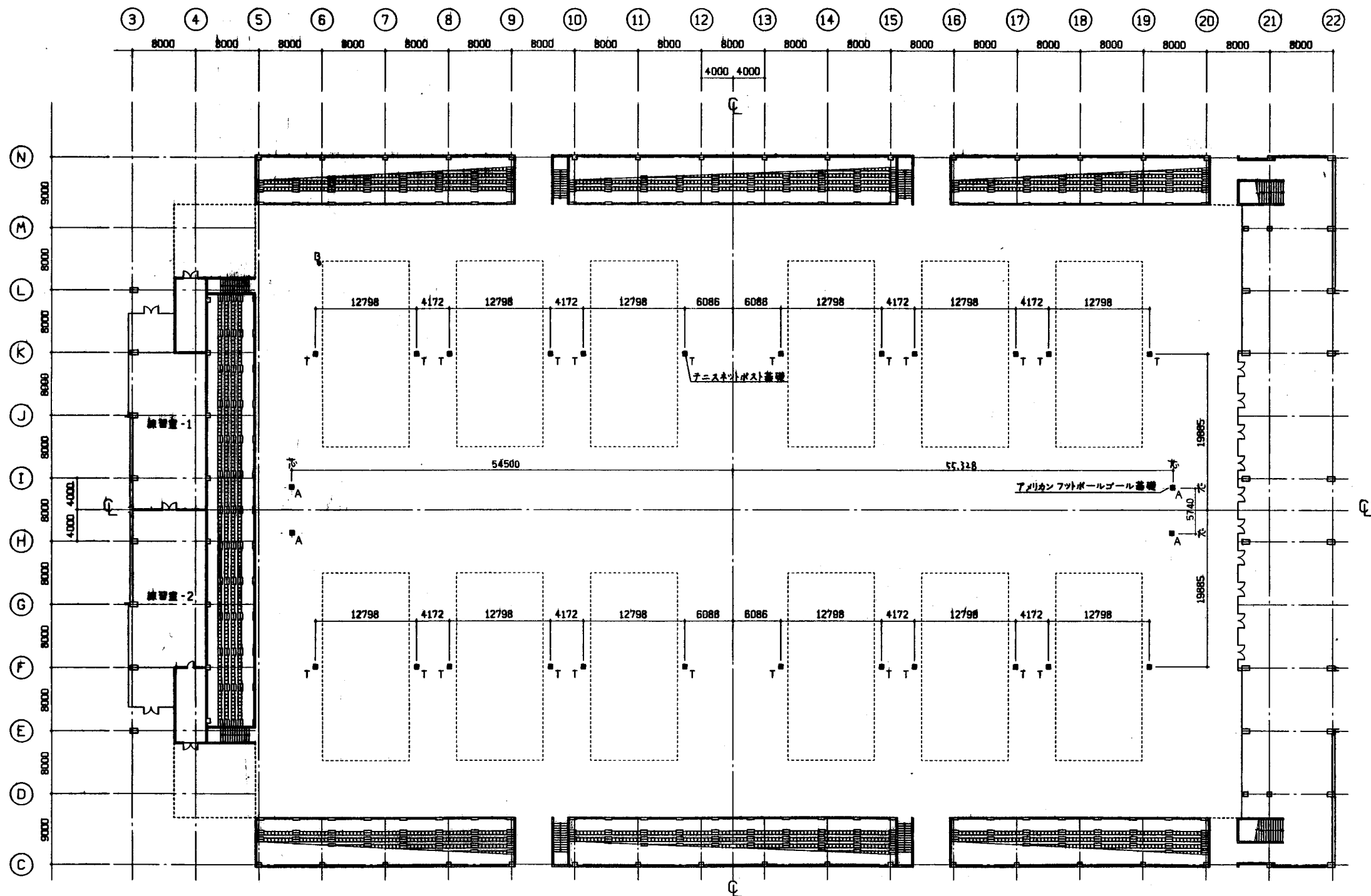
附圖 1-1 鋼工字



防炎ネット	H=10.0m W=26.0m	1枚	A-フェリ-用
防炎ネット	H=5.0m W=30.0m	2枚	A-フェリ-用
防球ネット	H=5.0m W=20.0m	6枚	ポリエチレン 37.5mm目 4000/44本
防球ネット	H=5.0m W=26.0m	3枚	ポリエチレン 37.5mm目 4000/44本

凡例	コート名	コート寸法 (m)	面	ライン色	ライン種	ライン巾
□	サッカー	68 × 105	1	濃緑	実線	12 cm
□	バレーボール	18 × 9	1	濃緑	ポイント	12 cm
□	バスケットボール	22 × 27	12	白、濃緑	ポイント	5 cm
□	テニス	8.23 × 23.77	12	黄	実線	5 cm
□	アメリカンフットボール	48.8 × 109.7	1	白、濃緑	ポイント	10 cm
□	200mトラック	—	1	濃緑	ポイント	5 cm
□	フットサル	20 × 40	4	濃緑	ポイント	8 cm
□	ソフトボール・少年野球	25 × 40 L=610	2	濃緑	ポイント	5,15 cm

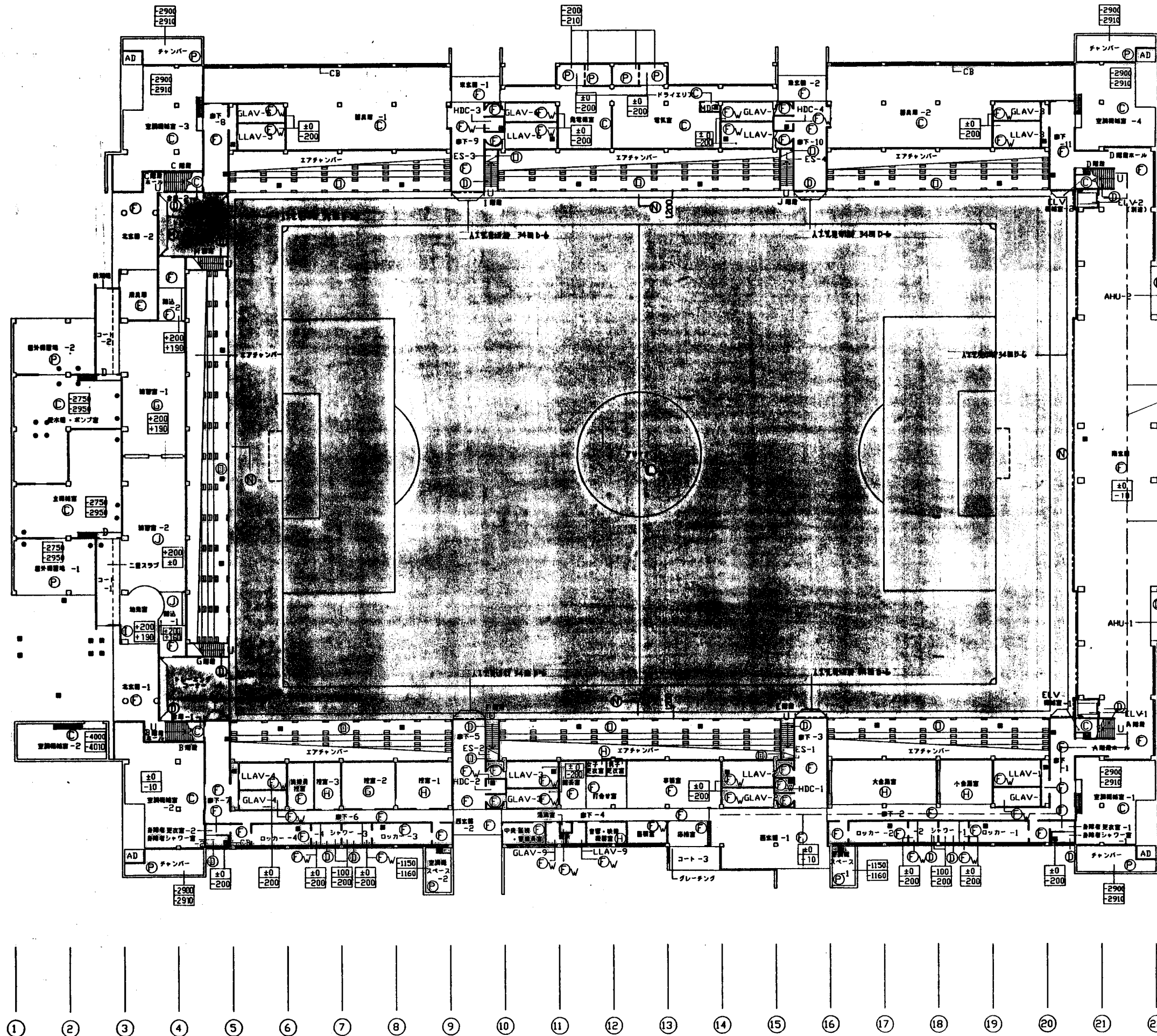
平面図 S=1/300



基礎配置図 S=1/300

基礎内訳表

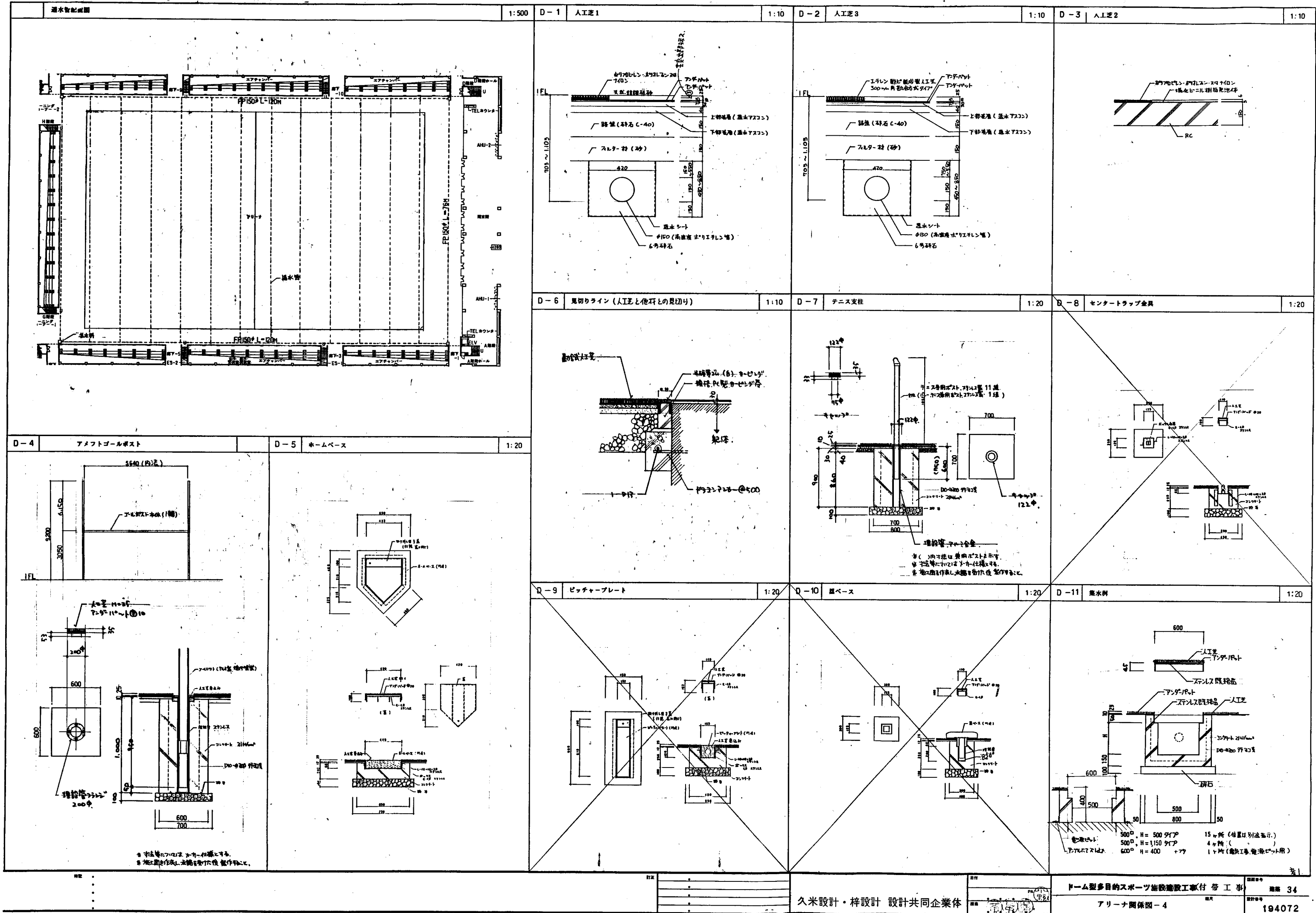
記号	基礎名称	個数
T	テニスポスト用基礎	24
A	アフリカンフットボールゴール用基礎	4
B	ソフトボール・野球用ベース用基礎	1
合 計		29

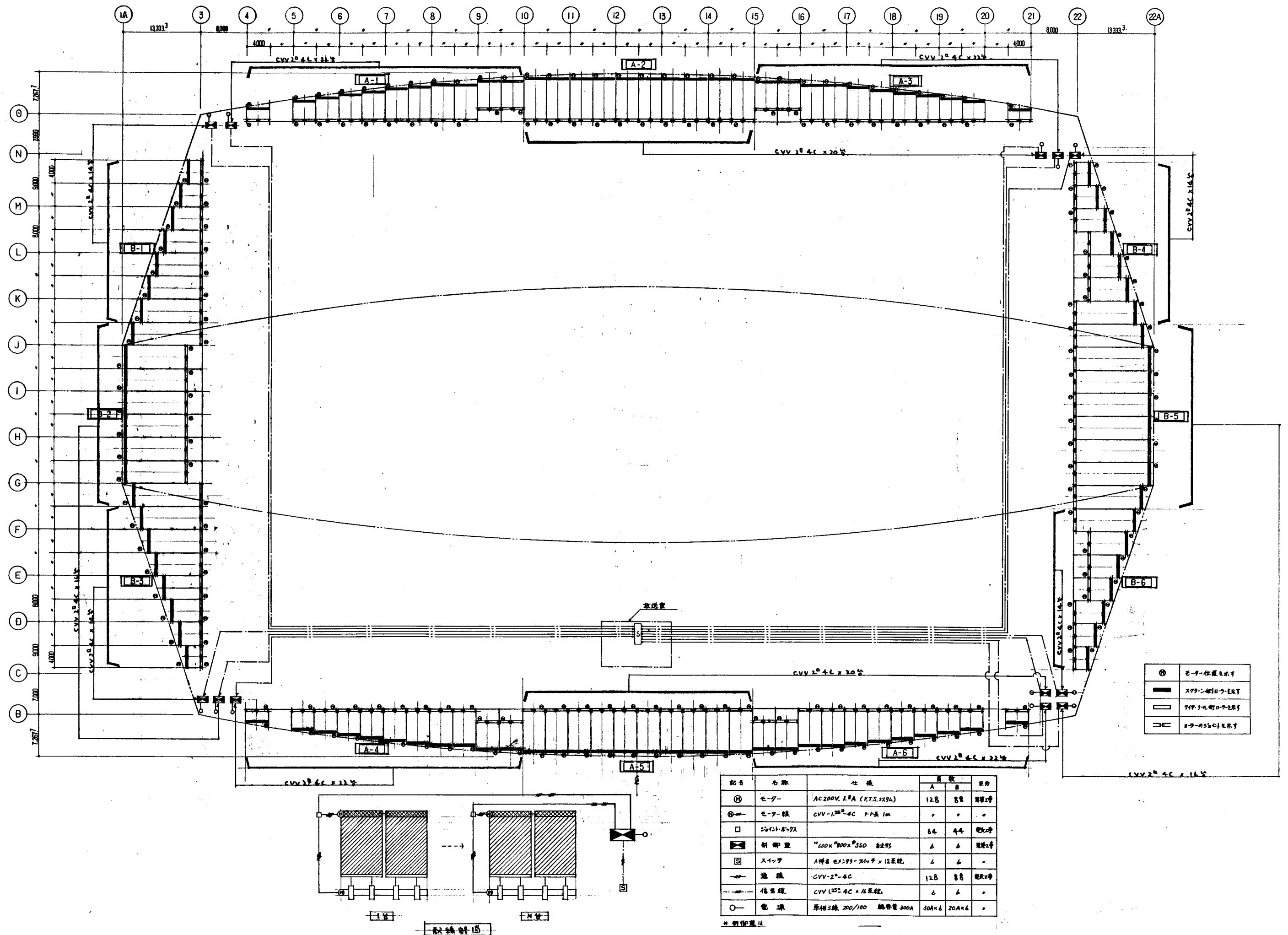


記号	仕上り
①	FLP-1
②	FLP-2
③	FLP-3
④	VS-1
⑤	VS-2
⑥	V1
⑦	コルクタイル
⑧	フローリング
⑨	人工芝-1 (79→400)
⑩	人工芝-2
⑪	人工芝-3
⑫	RC床
⑬	床下排水
⑭	床下ブロック (400×400)
⑮	床下排水マンホール 600φ
⑯	床下排水マンホール 600φ
⑰	人工芝-4 (79→400)

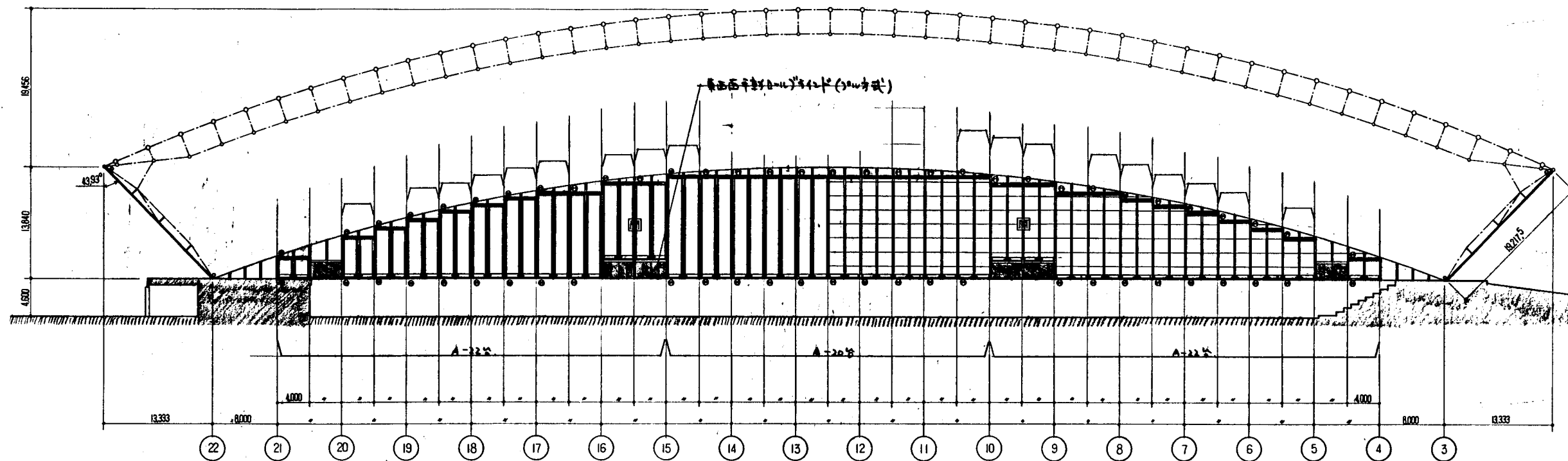
- P
- O
- N
- M
- K
- K
- J
- I
- H
- G
- F
- E
- D
- C
- B
- A

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦
- ⑧
- ⑨
- ⑩
- ⑪
- ⑫
- ⑬
- ⑭
- ⑮
- ⑯
- ⑰
- ⑱
- ⑲
- ⑳
- ㉑
- ㉒

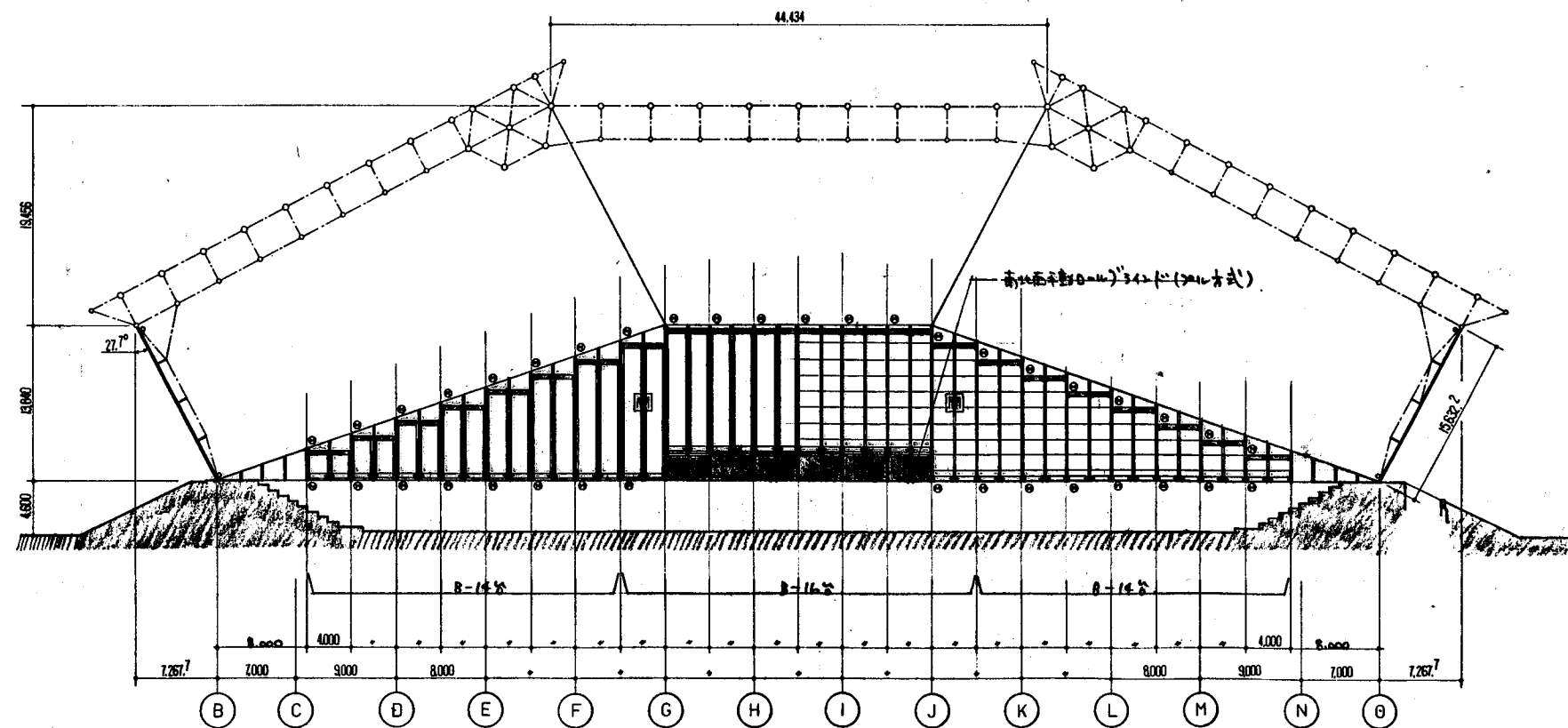




大塚設計・様設計 設計共同

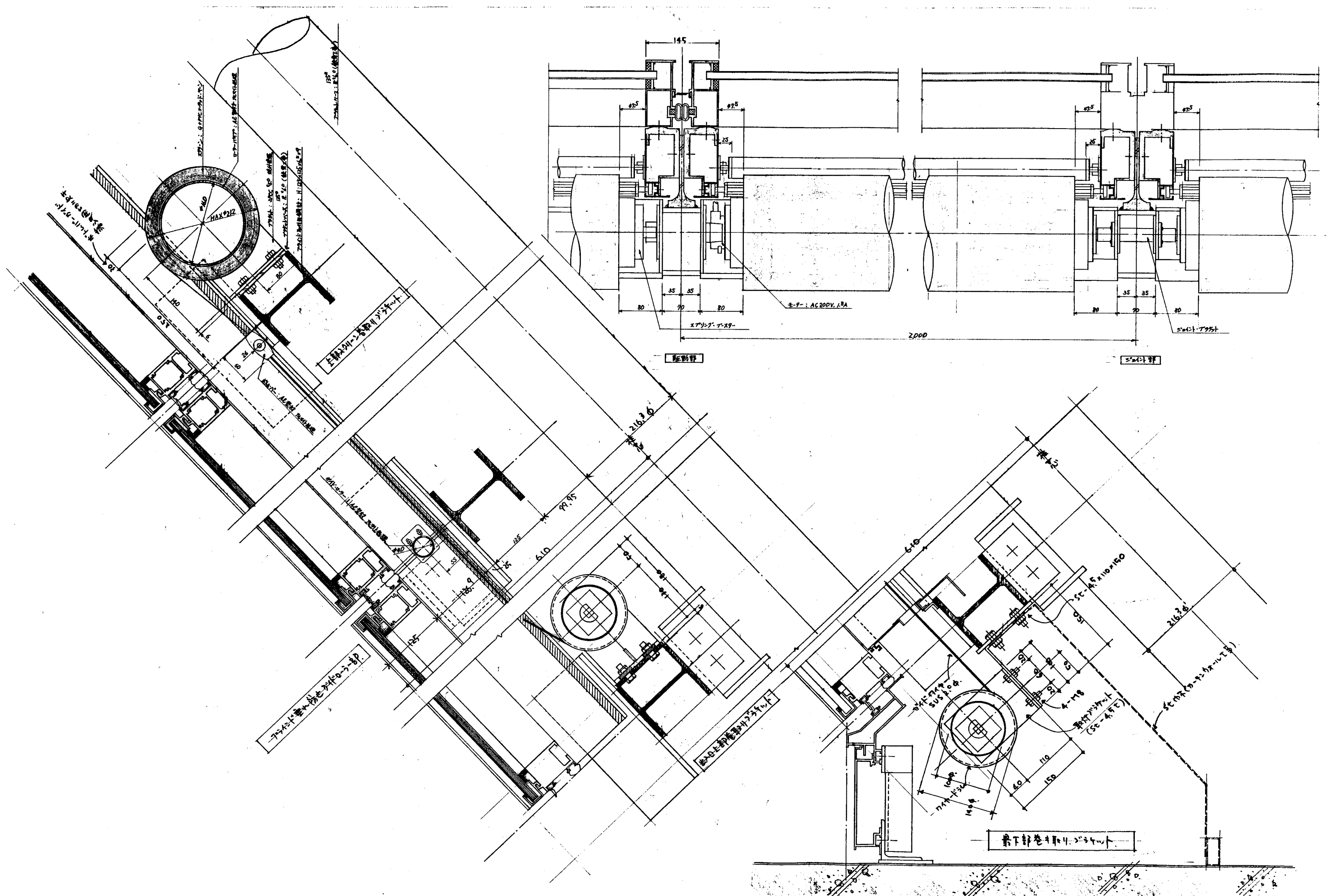


— 断面は西面を示す 1/300 —



— 断面は北面を示す 1/300 —

①	モーター位置を示す
②	スクリーン/ワイヤ位置を示す
③	ワイヤ/スクリーン位置を示す
④	ローテーション位置を示す



エレベーター仕様

項目	仕様	NO. 1号機
基本仕様	用途	乗用（標準用）
	定数	45m/min
	積載量	1600kg
	定員	24人
	停止間隔	2箇所（1～2層）
	操作方式	油圧式
	駆動方式	油圧式
	電動機	AC 45kw
	運転方式	方向性安全装置方式
	戸形式	2枚戸両開き
安全仕様	警報装置	自覚発 不付
		地震 付（S波）
		火災 付
	電源電圧	AC 200V 60Hz
	かご内照明	AC 100V 60Hz
	つり合いおもり	無
	非常止メ装置	無
	かご内法	1400W x 2500D
	側板	ダイノックシート貼り
	戸	ダイノックシート貼り
かご内仕様	出入口上部・袖壁	ステンレスヘアーライン仕上
	欄干	ステンレスヘアーライン仕上
	乗降	硬質アルミ板
	メカニカルドアセーフティ	付（両側設置）
	光電管ドアセーフティ	付（車椅子仕様）
	エレクトロドアセーフティ	無
	インジケータ	デジタル式
	天井照明	デラックス型
	換気装置	天井裏付
	床	ゴムタイル t6
操作部仕様	カバー	ステンレスヘアーライン仕上
	乗降ボタン	ストロークボタン
	戸開延長ボタン	無
	閉鎖作盤	無
	非常通報装置	インターホン（B1層中央監視室、車庫室 計2ヶ所）
	停電灯	AC100V x 10W
	放送用スピーカー	付
	出入口寸法	900W x 2100H
	三方弁	小弁ステンレスヘアーライン仕上
	幕板	別注工事
関係仕様	戸	ステンレスヘアーラインエッチング仕上
	乗降	硬質アルミ板
	ホールボタン	パネル（別注工事）に設置
	ホールランタン	付
	特記事項	無
	その他	地震警報装置（S波）
		火災警報装置
		停電時自動警報装置（バッテリー式）
		車椅子仕様
		車椅子専用乗降ボタン、車椅子専用作盤、閉鎖作盤、鍵、手摺
		視覚障害者付加仕様
		点字板、音声合成装置、ブロックタイ
		展望用仕様
		両側ドアセーフティ付
		カゴ内 保護幕、床マット付
		インターホン B1層中央監視室及び車庫室に取付

昇降機設備工事区分表

項目	区分	区分	区分	区分	区分
昇降機関係	昇降機設備の製作ならびに据付工事（昇降機設備の手続きを含む）				
	昇降機の据付工事ならびにその仕上工事（基礎工事に基づき）				
	各出入口の三方弁、インジケータ、押控等の取付工事				
	中間ビーム設置工事（鋼筋コンクリート造の場合）				
	乗降扉受付けコンクリート掘削工事				
	鉄骨構造における各層の中間ビーム設置工事、レールブラケット取付のためのファスナー設置工事				
	鉄骨構造における乗降扉受付けビーム設置工事				
	鉄骨構造の昇降機における鉄骨材の溶接工事および、乗降出入口周りの溶接工事				
	鉄骨構造の昇降機における各層の出入口三方弁、戸開延長、押控、インジケータ等の取付用下地鋼材の設置工事				
	乗降扉受付け後の出入口周りの壁ならびに床の仕上工事				
機械室関係	機械室の設置工事および出入口設置工事（必要のある場合は防音対策工事を含む）				
	機械室の耐火処理工事				
	機械室の穴あけ工事（配管・配線用等）				
	機械室天井のトリートメントまたはフックの設置工事				
	電気配線の設置工事（無しの場合は、非常警報装置付（電気工事））				
	機械室の配管のシンダーコンクリート打設工事				
	シンダーコンクリート打設後の仕上工事（タイルまたは防音断熱付工事）				
	機械室出入口の設置ならびに取付工事				
	機械室に昇降機および機械室の扉を設置工事				
	機械室換気装置の設置工事（換気ダクト）（機械のおそれのある場合はスチール製でF/D付）				
電源関係	機械室受電盤までの配管配線工事および制御盤一次端子への接続工事（敷設台1回線の場合の分岐工事を含む）				
	機械室制御盤までの配管配線工事および制御盤一次端子への接続工事（敷設台1回線の場合の分岐工事を含む）				
	エレベーター運転監視用配管・配線工事（敷設台1回線の場合の分岐工事を含む）				
	エレベーター運転監視用配管・配線工事（敷設台1回線の場合の分岐工事を含む）				
	エレベーター運転監視用配管・配線工事（敷設台1回線の場合の分岐工事を含む）				
	エレベーター運転監視用配管・配線工事（敷設台1回線の場合の分岐工事を含む）				
	エレベーター運転監視用配管・配線工事（敷設台1回線の場合の分岐工事を含む）				
	エレベーター運転監視用配管・配線工事（敷設台1回線の場合の分岐工事を含む）				
	エレベーター運転監視用配管・配線工事（敷設台1回線の場合の分岐工事を含む）				
	エレベーター運転監視用配管・配線工事（敷設台1回線の場合の分岐工事を含む）				
その他	据付工事現場事務所および材料庫				
	工事中の乗降機りの搬入・搬出				
	据付工事および昇降機設備用電力、水、セメント、小石等の支給				
	運搬物の搬入に支障のない通路の確保				
	エレベーターを工事使用する場合は、コールバック、オーバーホール、定期保守料金の負担				
	足場の材料支給および組立、解体工事				
	工事使用する場合は養生工事				
	1. 乗降扉およびかご：上質の白紙				
	2. 三方弁：パッキンを当てベニア等				
	3. かごの天井：金網張り				
	4. かごの壁：パッキンを当てベニア等				
	5. かごの床：防水性の物を敷きベニア等				
	材料の整理、片づけ				
	機械室入庫のロングリフト、タワークレーンの提供				

NO. 2 エレベーター工事（今回工事）

仕様、仕様は全てNO. 1号機と同一とする。

今回発注する工事（付帯工事）は、NO. 2号機における下記の工事内容以外とする。

- ・油圧パワーユニット
- ・乗降扉（2ヶ所）
- ・乗降扉（2ヶ所）
- ・三方弁（2ヶ所）
- ・ホールランタン（2ヶ所）
- ・ホールボタン（2ヶ所）

以上

機械室出入口が屋外の場合、
出入口上部二出入口中+200以上、
壁面より450以上/底面高/コト

機械室へ至る通路の幅員

通路幅員	700mm 以上
通路幅員	1800mm 以上
通路幅員	700mm 以上
通路幅員	1800mm 以上
上	230mm 以下
下	150mm 以上
手すり高	1100mm 以上

機械室マフ
・機械室床面積の1/20以上トスル
・開口部/場合、床より高1100
・床面、手すり高1100
・「機械室」の名称を付す
・「機械室」の名称を付す
・機械室マフ/場合ハ床面積の1/20以上トスル

電気設備の配管について (電気工事)

電気設備の配管 (電気工事) として、機械室の配管は、
配管、手すり高1100mm 以上とする。

機械室の配管 (電気工事) として、機械室の配管は、
配管、手すり高1100mm 以上とする。

(注) エレベーター用インターコンも設置する予定です

1. 機械室の配管 (電気工事)

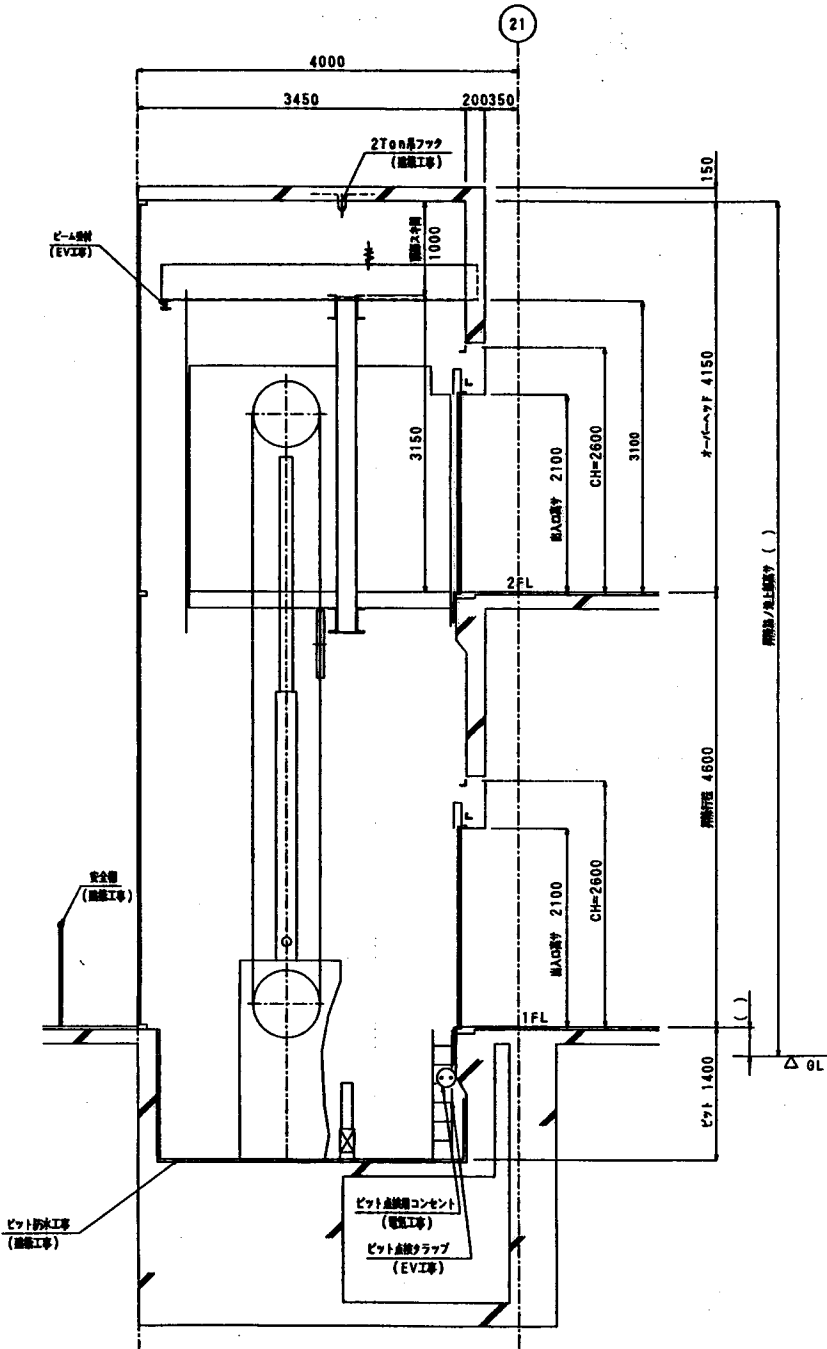
1. 機械室の配管 (電気工事) として、機械室の配管は、
配管、手すり高1100mm 以上とする。

2. 機械室の配管 (電気工事)

2. 機械室の配管 (電気工事) として、機械室の配管は、
配管、手すり高1100mm 以上とする。

インターコン用インターコンも設置する予定です

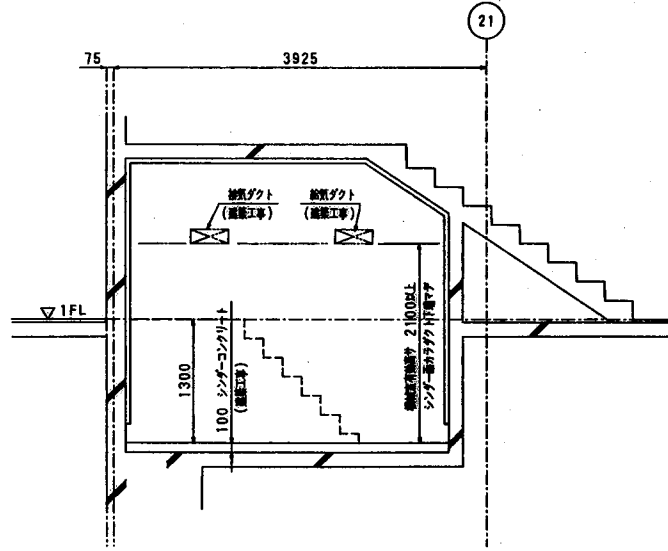
(注) CPEV 0.9 84. 5P (電気工事)



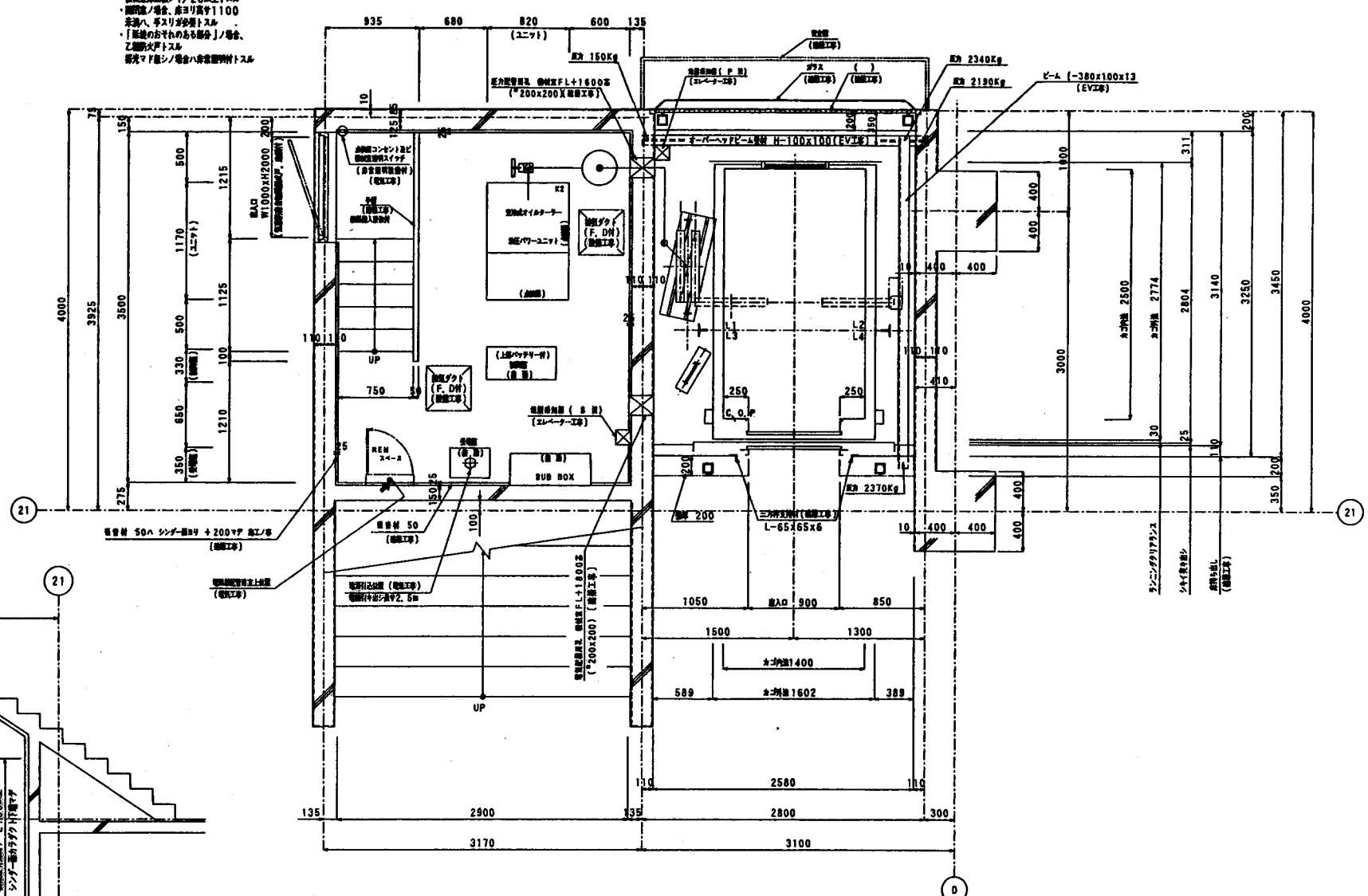
昇降路 縦断面図 S:1/40

注: EVピット工事後設置

EVピット工事後設置	
カー	15500 KG 短期荷重
シンダー	7100 KG 長期荷重



機械室 縦断面図 S:1/40

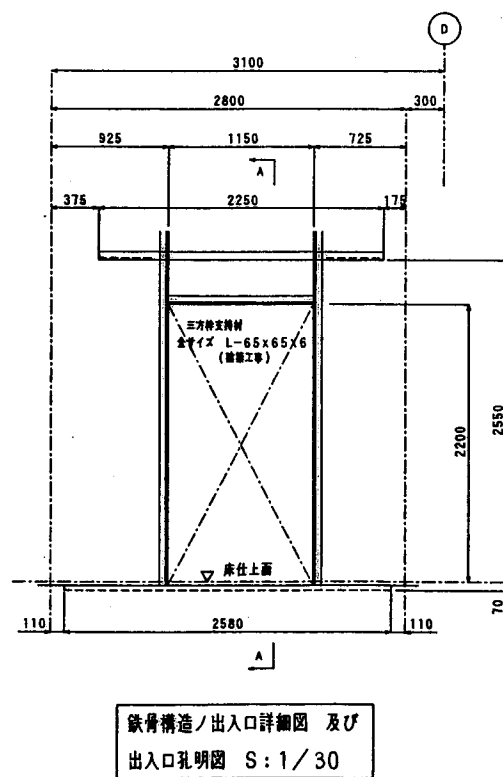
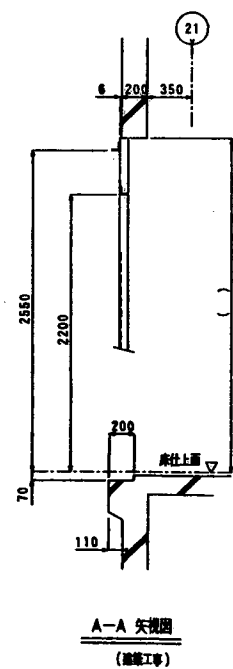
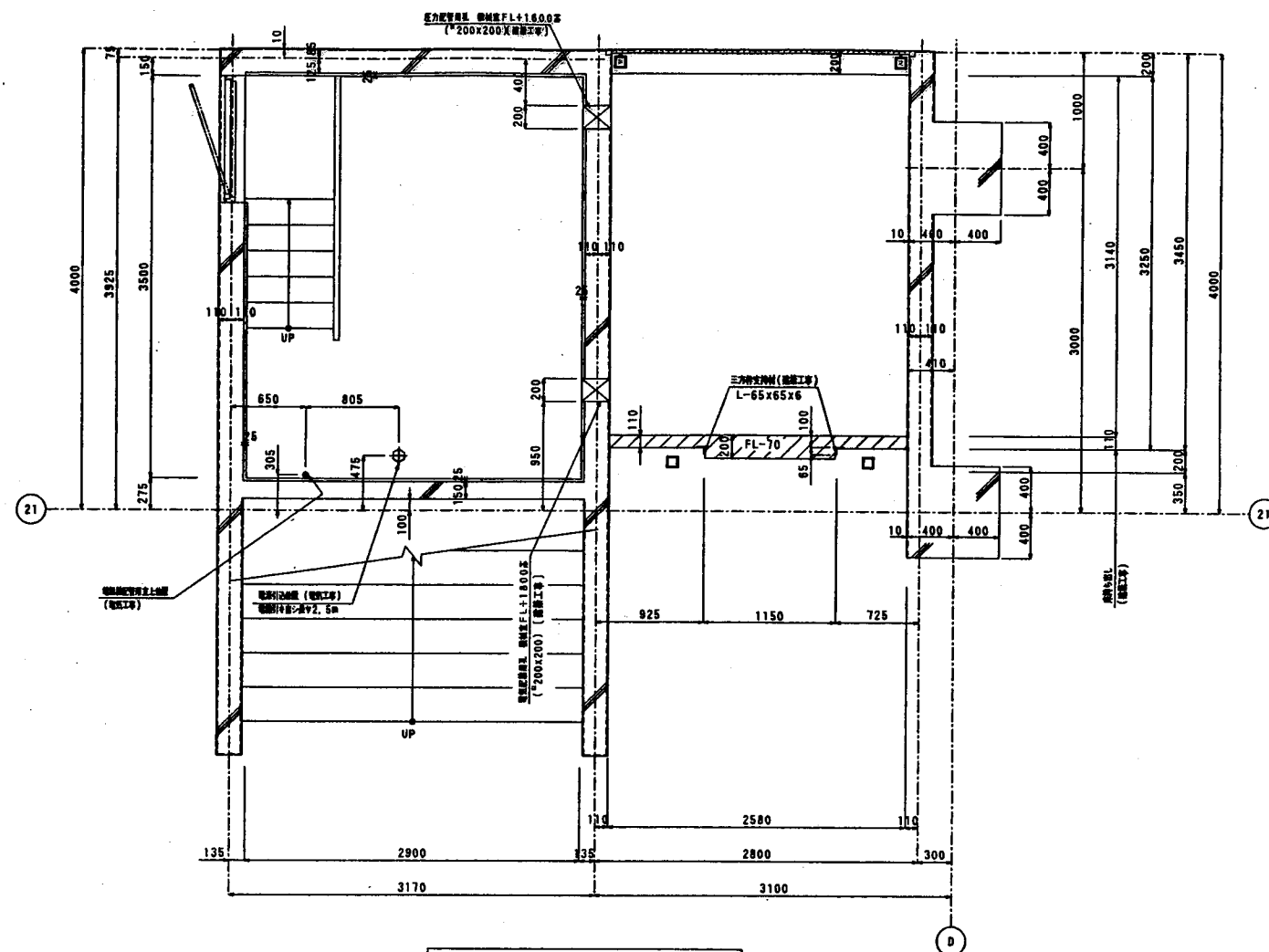
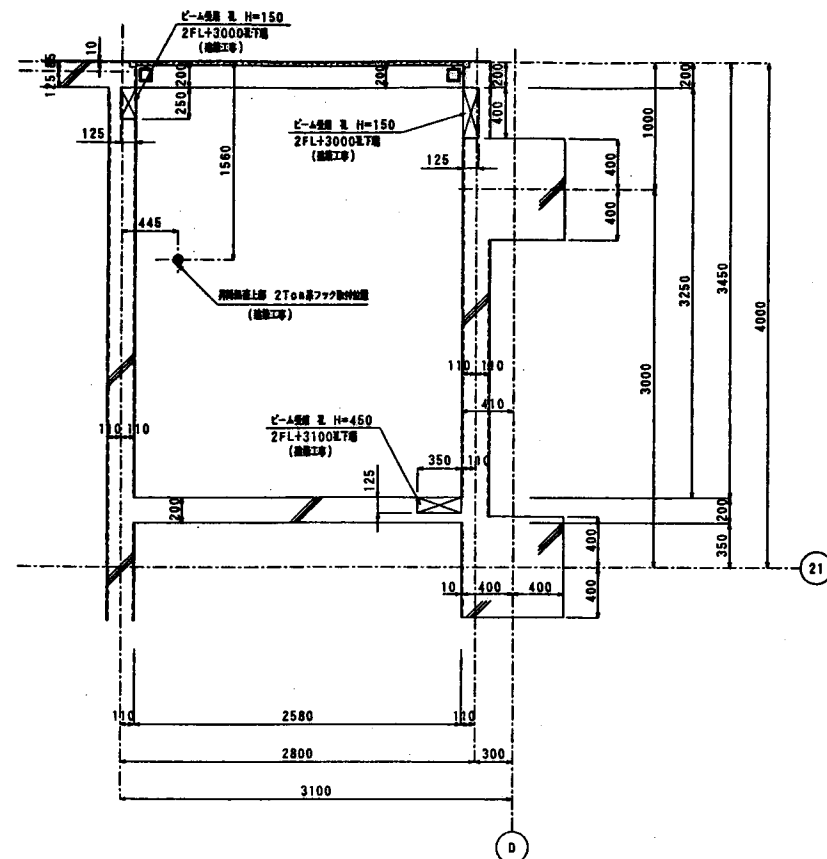


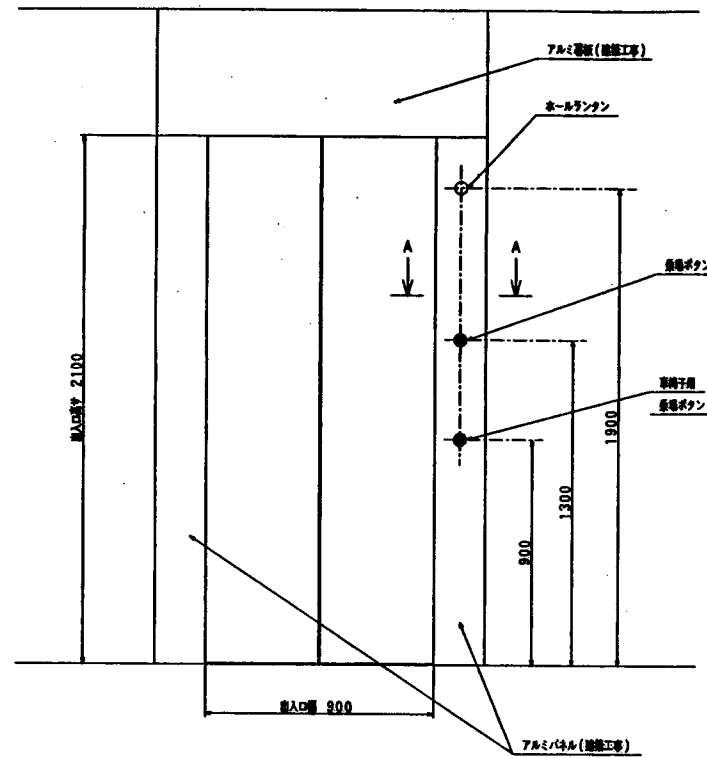
昇降路 機械室 平面図 S:1/30
(機械室シンダー仕上ハ 1 階 -1300/位置)

採光マダナシ/場合ハ非常照明設備付トスル
機械室床ハ油ノ浸透シナイ構造トスル
機械室床ハシンダーコンクリート防護仕上ゲトスル
(電気工事)

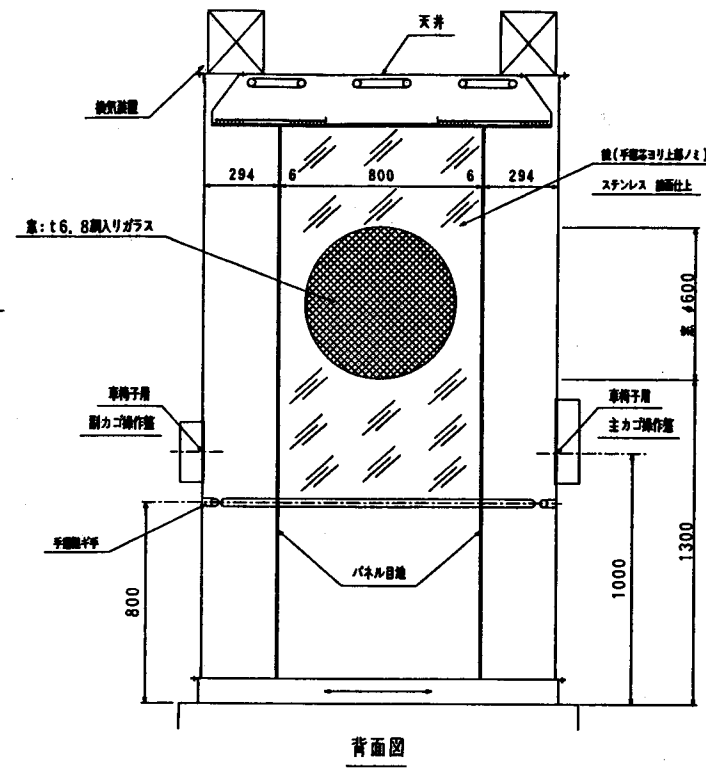
換気ダクト下端デ有効 2100 以上確保ノコト

EV NO. 1

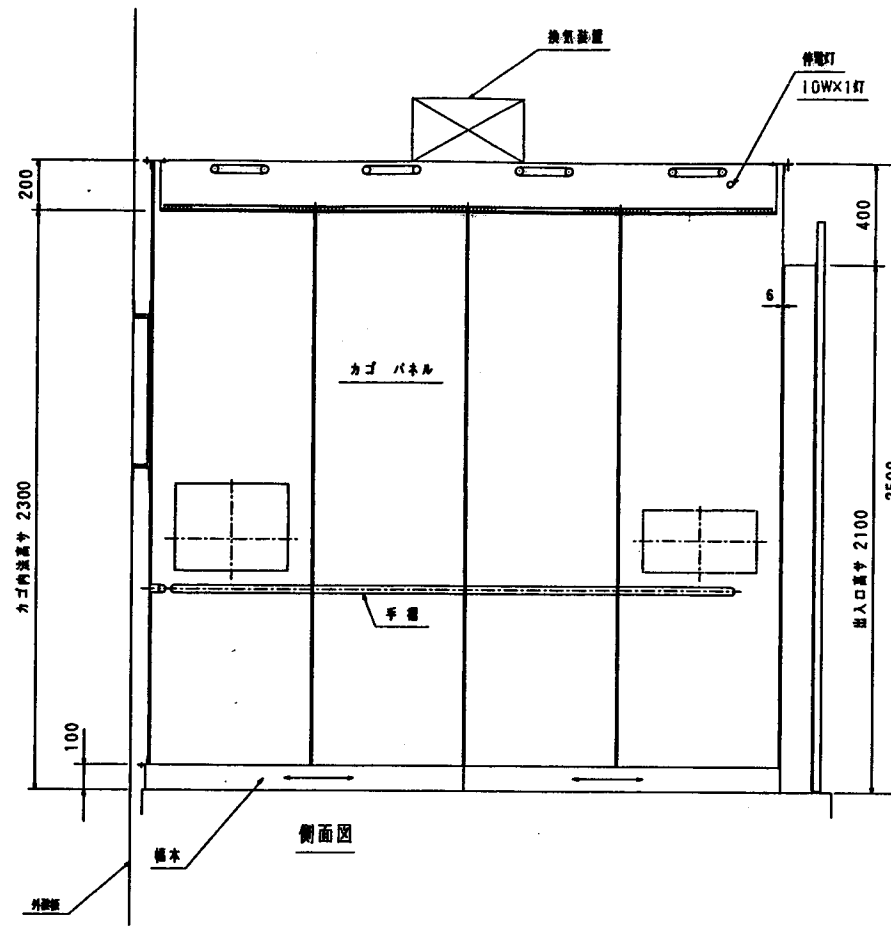




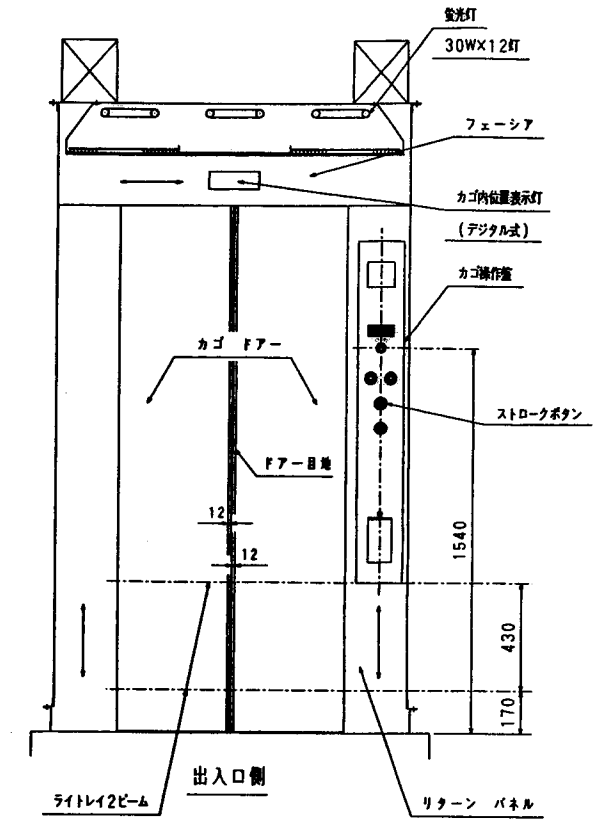
乗場出入口姿図 (1/15)



背面図

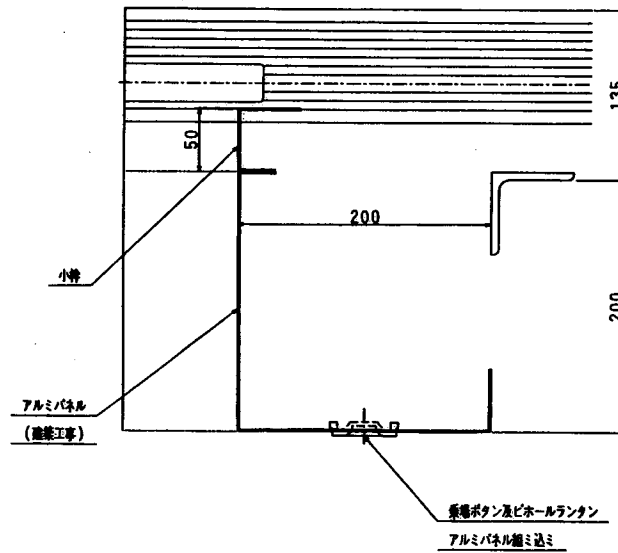


側面図

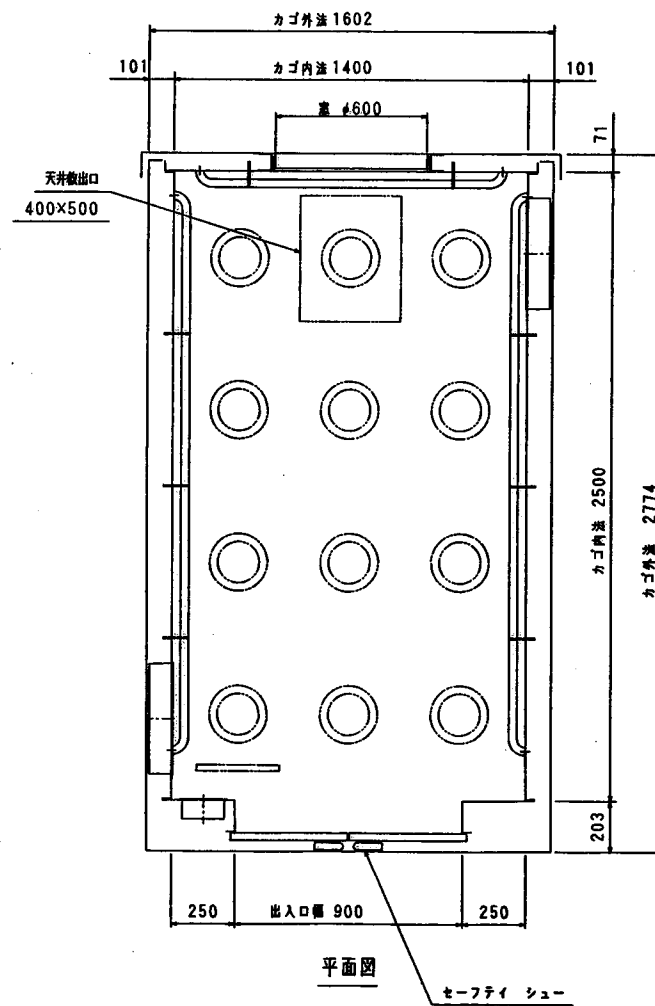


出入口側

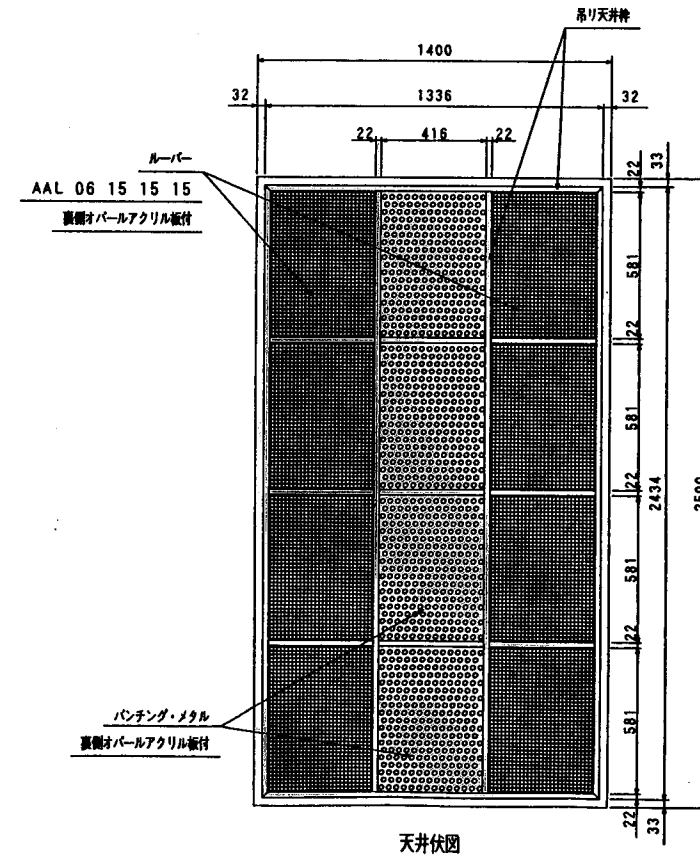
乗場仕様要項		
名称	材質	仕上
乗場ドアー	ステンレス スチール	エッチング
三方枠 (小枠)		ヘヤーライン
シキイ	硬質アルミニウム	



断面A-A (1/3)

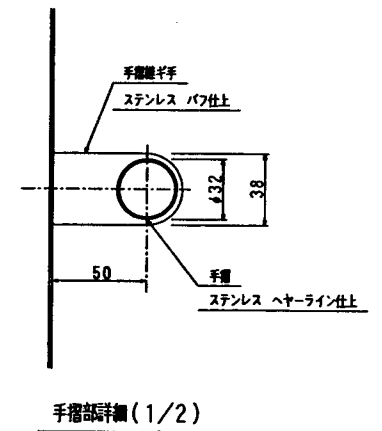


平面図



天井伏図

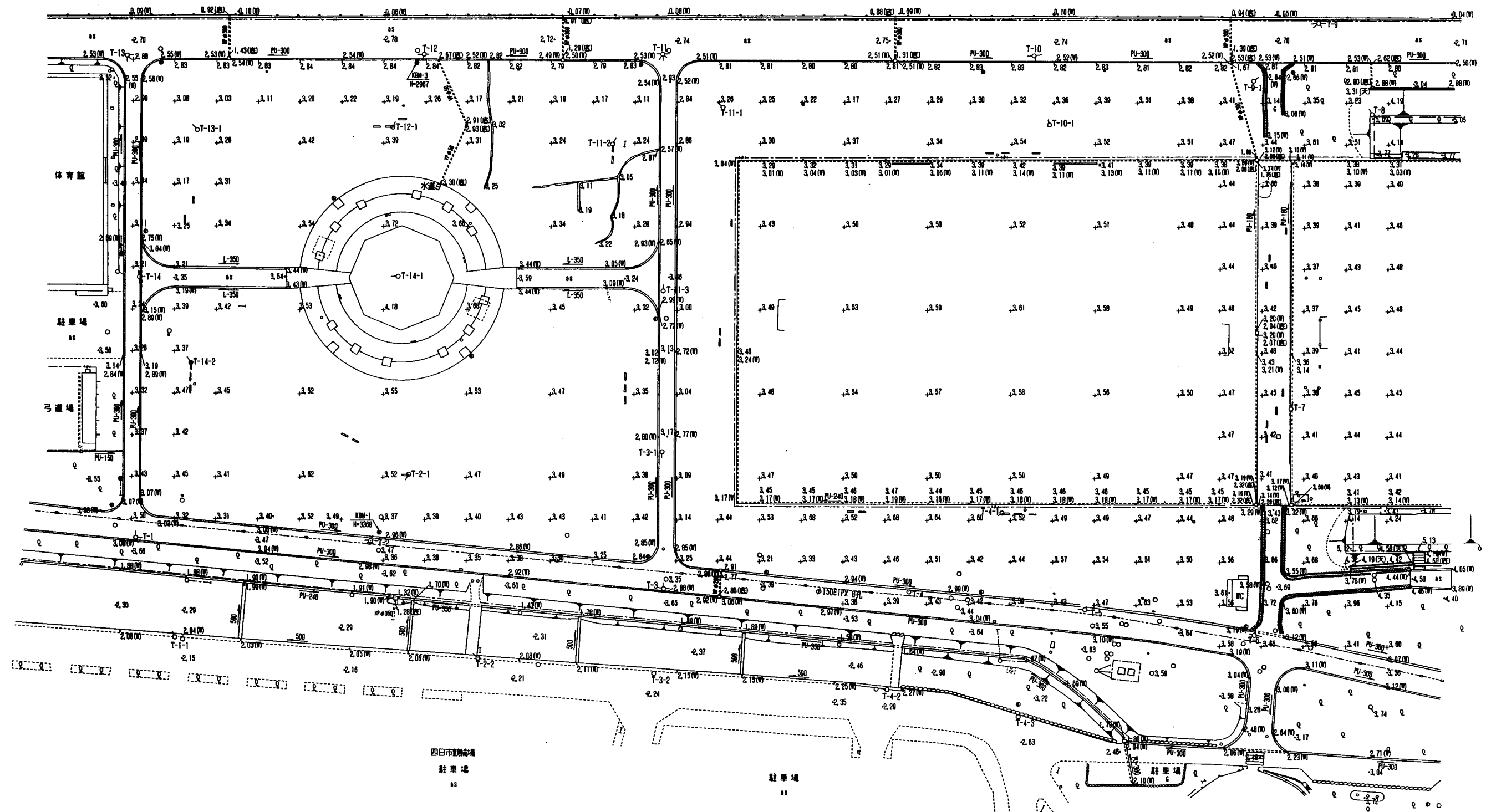
カゴ意匠図 (1/15)

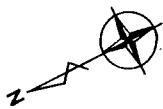


手摺部詳細 (1/2)

カゴ仕様要項		
名称	材質	仕上
カゴ ドアー	磨銅板	ダイノック貼付
カゴ パネル		ラッカー塗装
天井	ステンレス スチール	ヘヤーライン
リターン パネル		
フェーシア		
ドアー目地		
パネル目地		
橋本	ステンレス スチール	ヘヤーライン
吊り天井枠		
シキイ	塩ビタイル貼り	
床		
手摺	φ32ステンレスパイプ	ヘヤーライン
手摺器手	ステンレス スチール	パフ
外装板	磨銅板	ラッカー塗装

現況平面図 S = 1 / 500

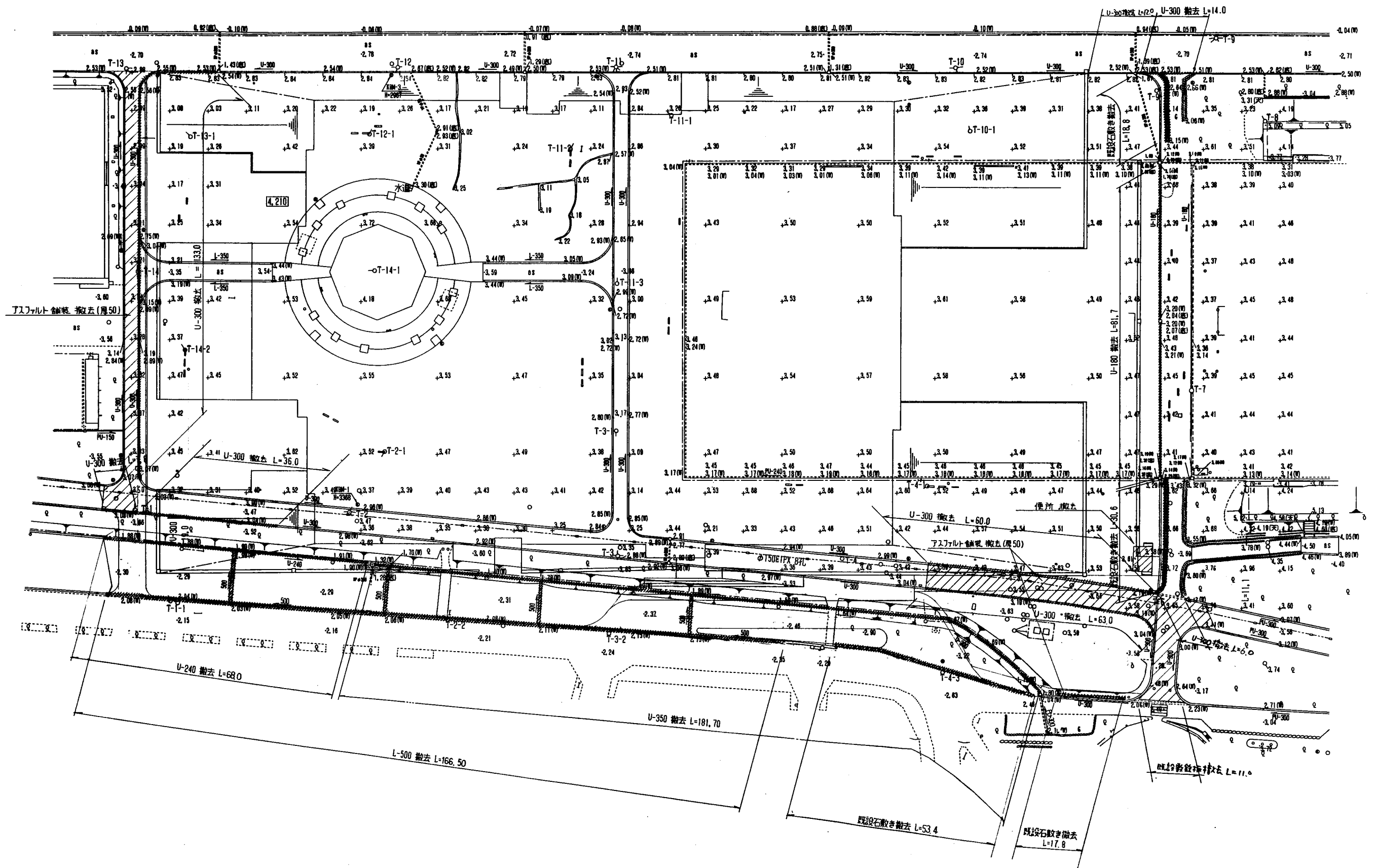




現況図（撤去図） S=1/500

凡例

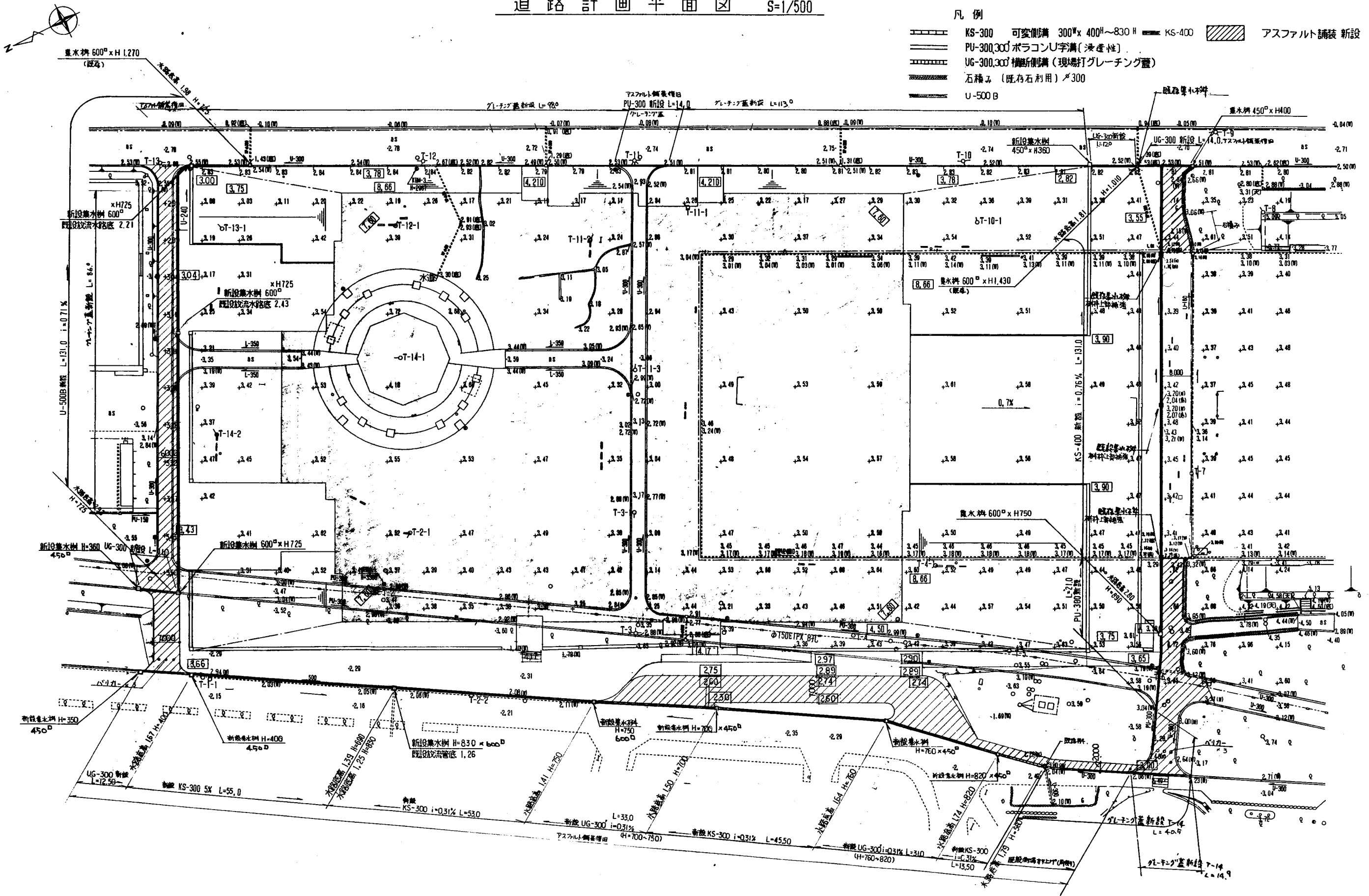
- 既設石敷き
- U-300 既設U字溝
- 撤去範囲を示す



道路計画平面図 S=1/500

凡例

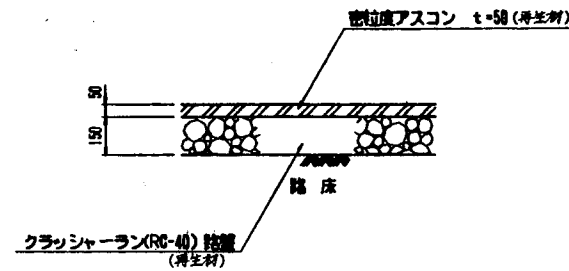
- KS-300 可変側溝 300×400^H~830^H KS-400 アスファルト舗装 新設
- PU-300,300 ボラコンU字溝(浸透性)
- UG-300,300 横断側溝(現場打グレーチング蓋)
- 石積み(既存石利用) 300
- U-500 B



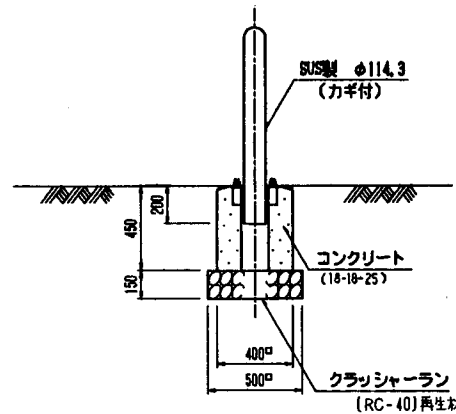
※本図は道路工を示す(敷地内工事・雨水工はNo.46図を参照)

構造図

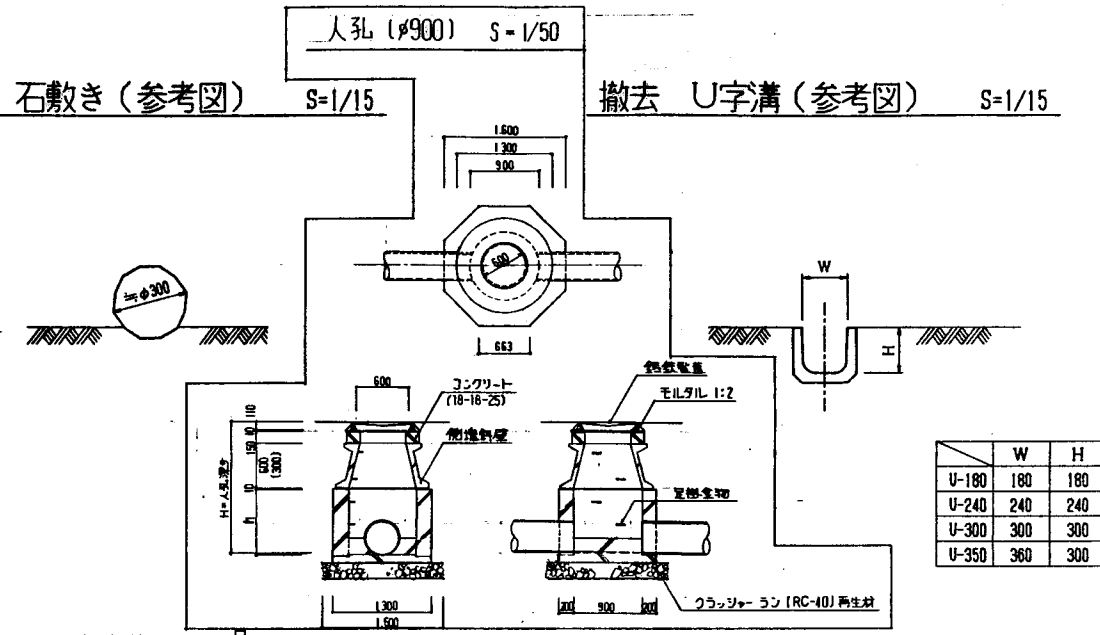
舗装工図 S=1/15



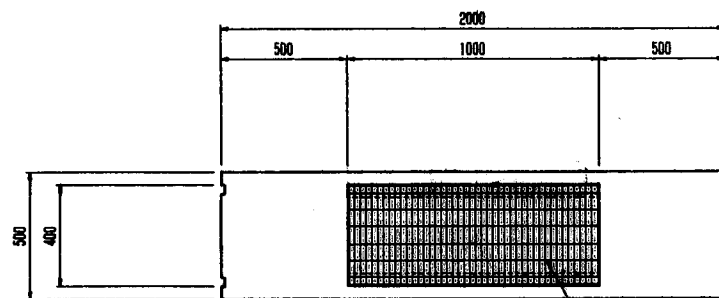
バリカー S=1/20



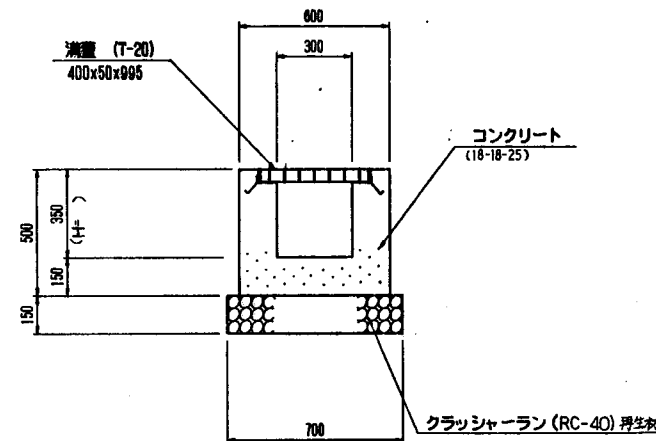
撤去 石敷き (参考図) S=1/15



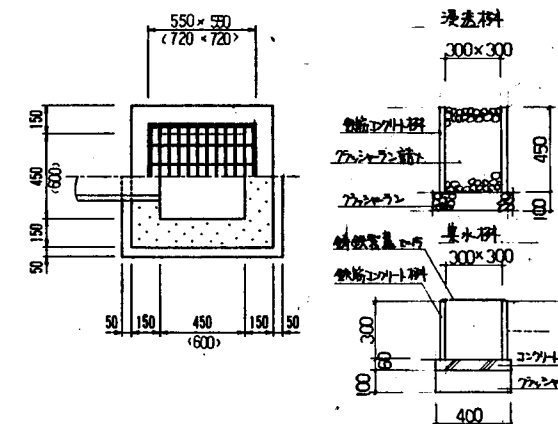
可変側溝 S=1/15
KS-300 (KS-400)



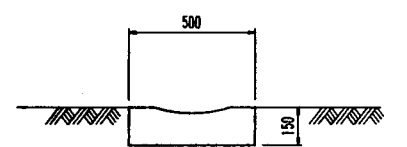
横断側溝 S=1/15
(UG-300) UG-300' - H=700~820 仕様



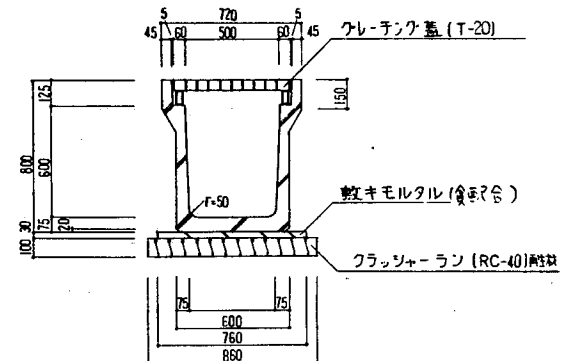
集水樹 450' S=1/20
(600' 図中に特記なし限り 450' 仕様)



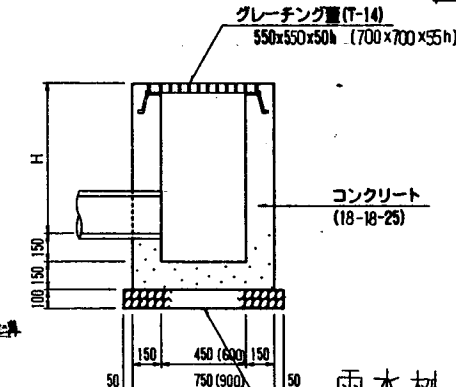
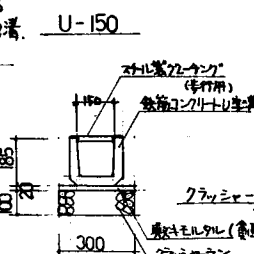
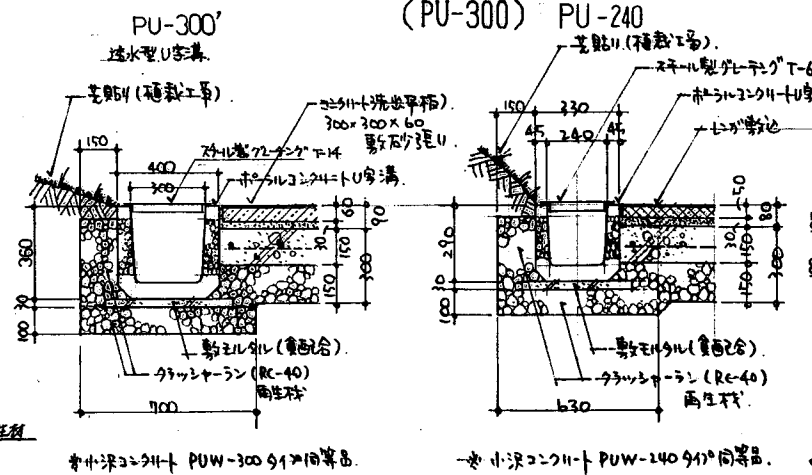
撤去 L形溝 (参考図) S=1/15
(L-500)



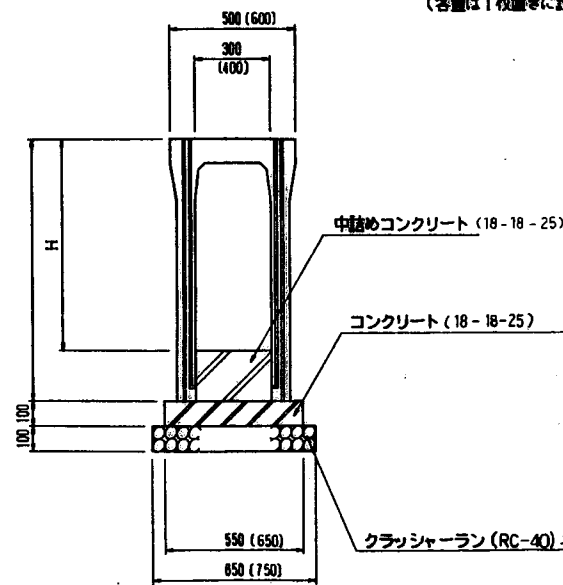
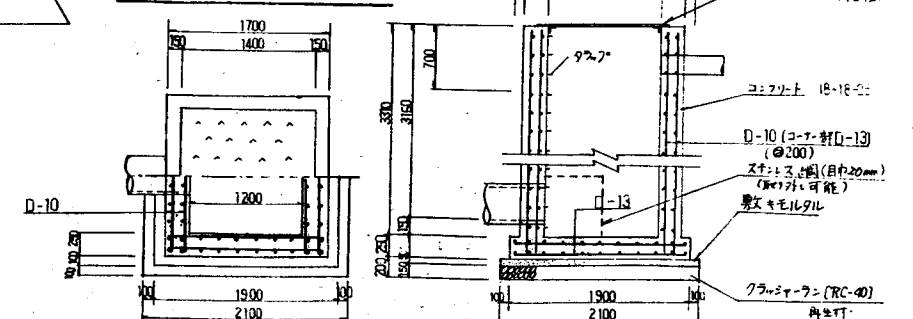
U-500B S=1/20



U型側溝 S=1/15
(PU-300) PU-240



雨水樹 1200' S=1/40

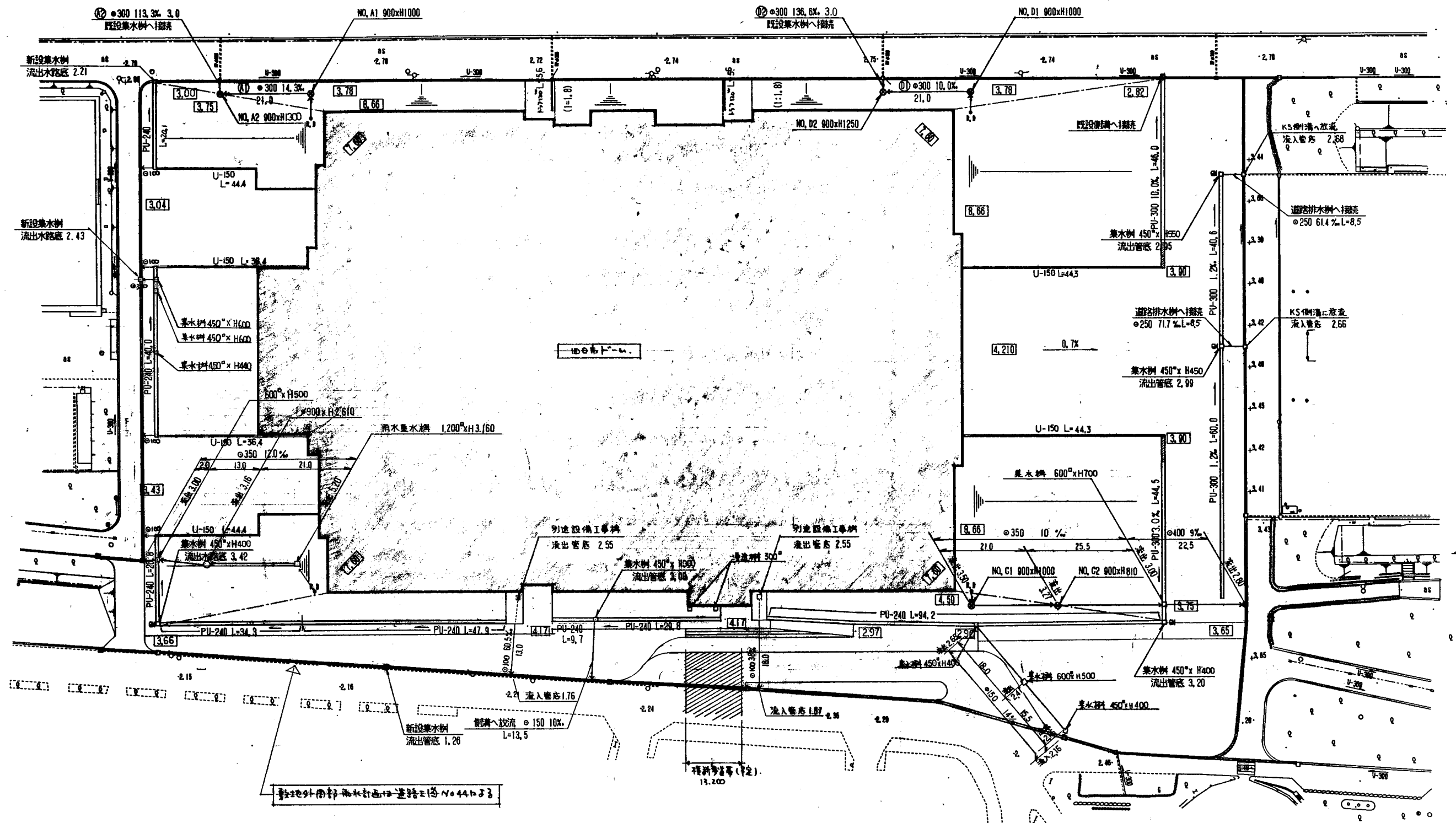




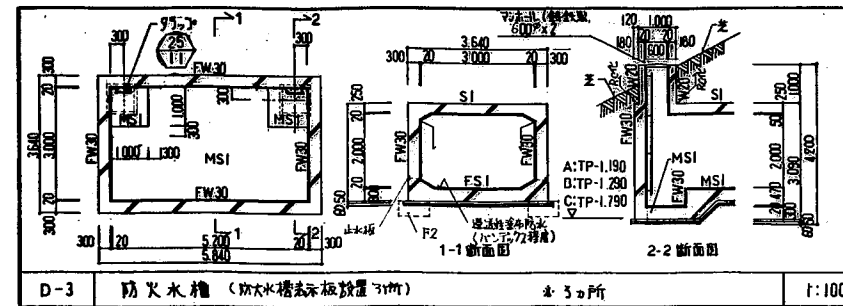
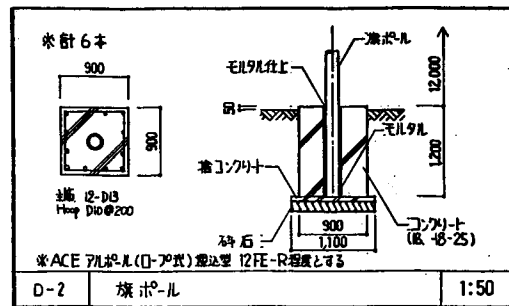
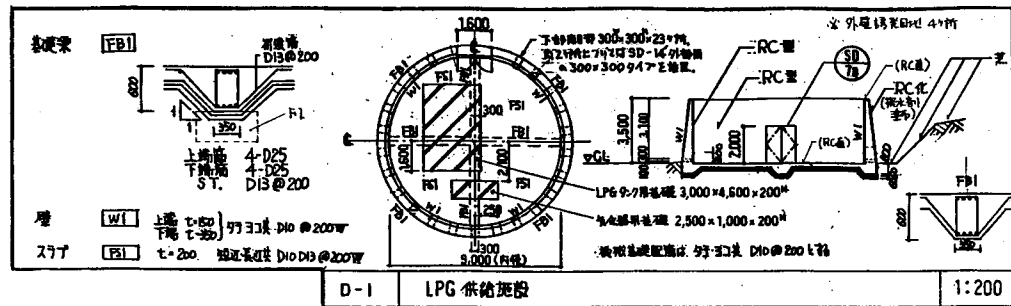
雨水排水平面図 S=1/500

凡例

- 雨水排水管 硬質塩化ビニール管
- 雨水樹 900
- 集水樹
- U字溝 240(300) グレーチング蓋, グレーチング(60目)蓋
- 現況地盤高 4.53
- 計画地盤高 4.53

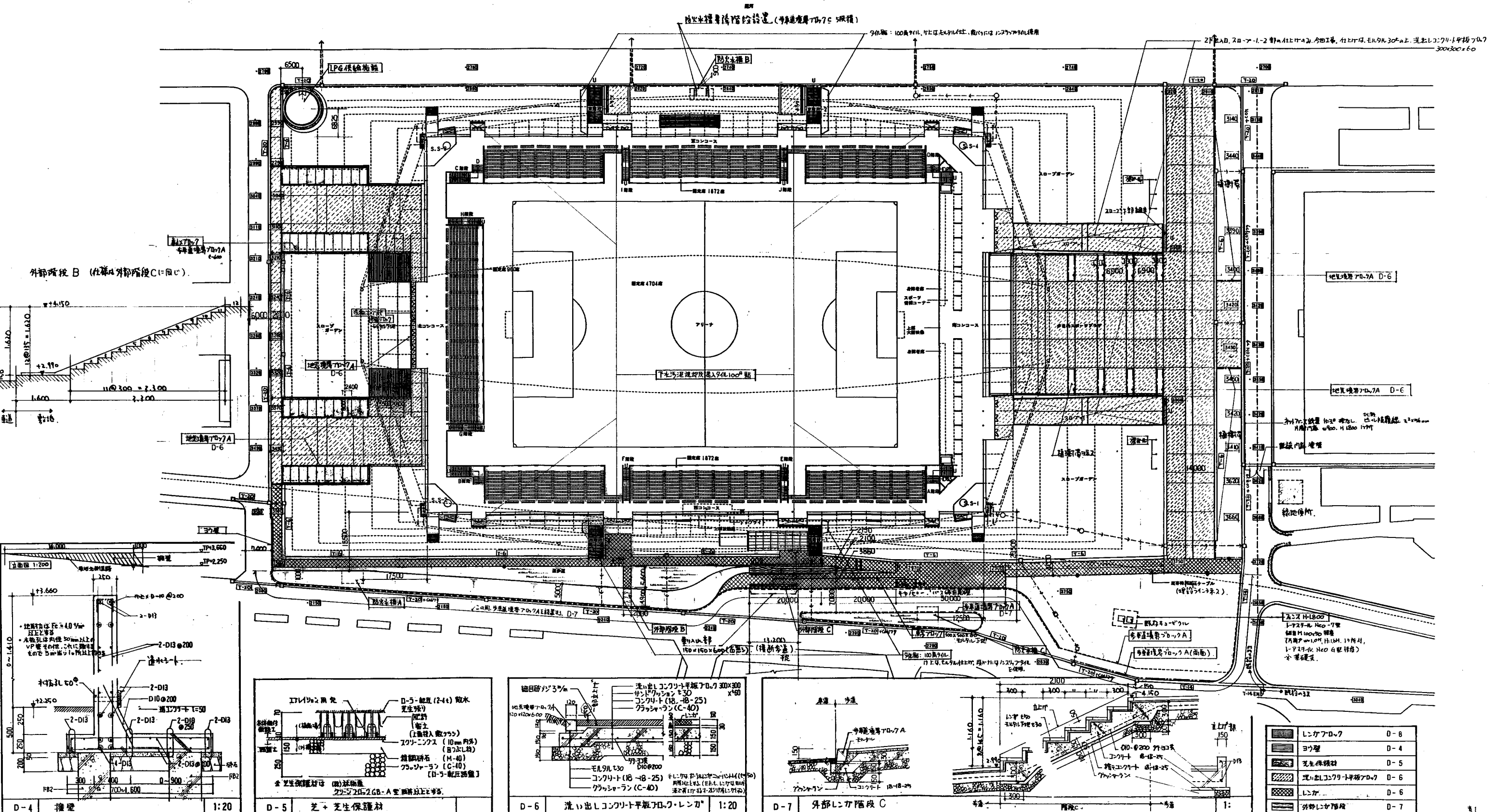


※本図は、敷地内雨水排水計画図(外周の道路工はNo.44に示す)

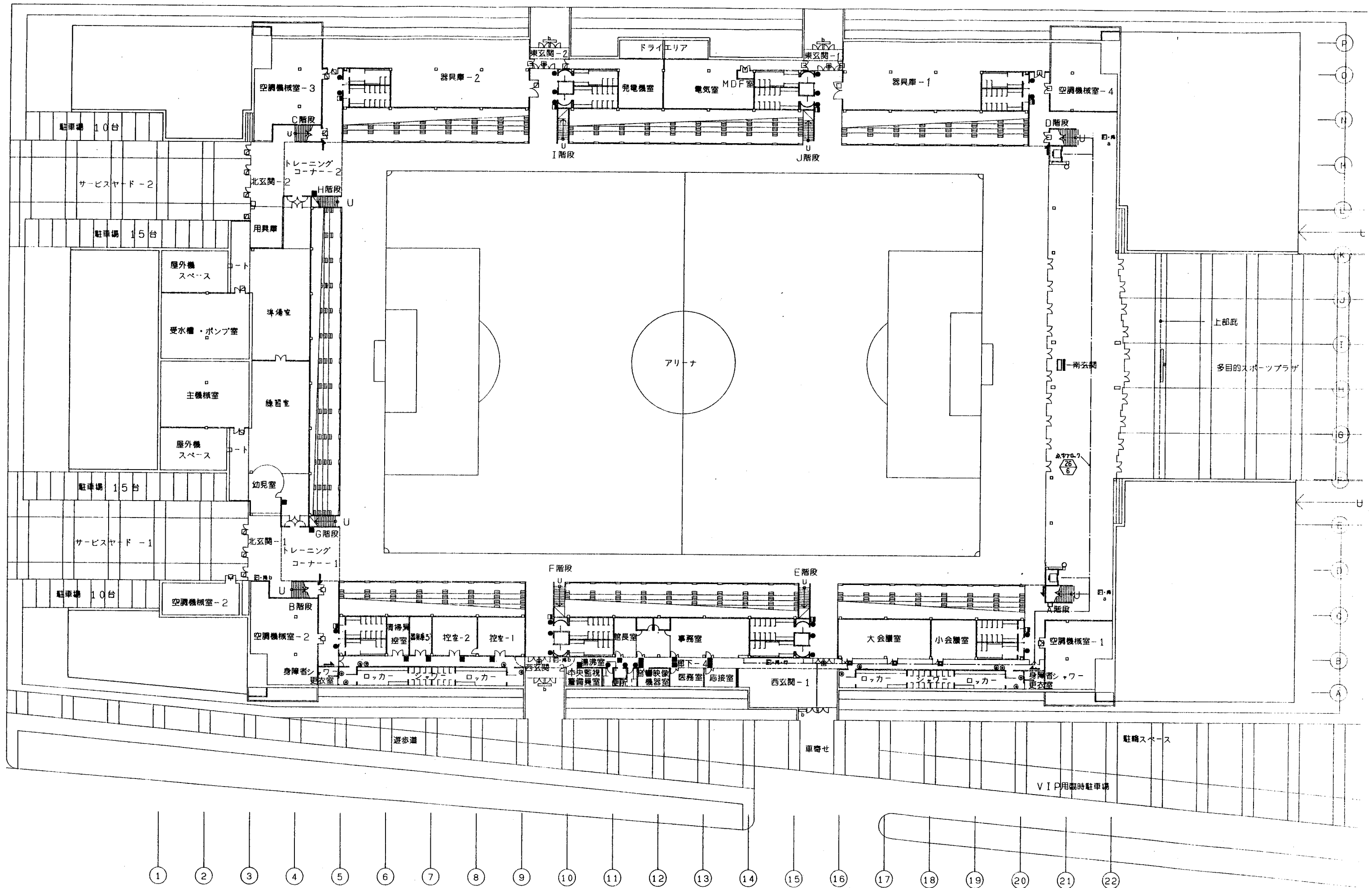


設備リスト

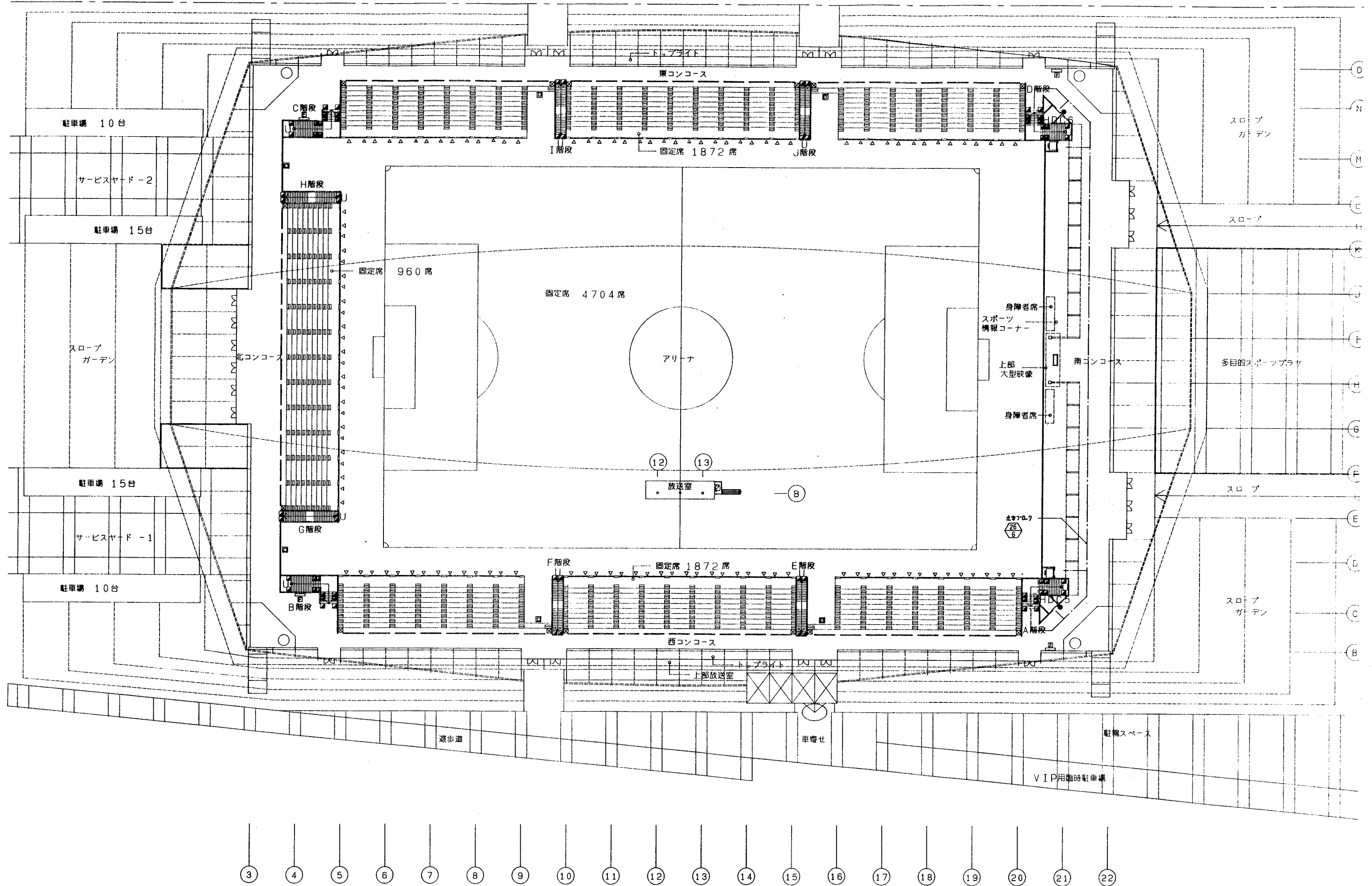
壁	W20	t=200	97	D13	●150W	33	D13	●200W
	FW30	t=300	97	内D13	●150	33	D13	●150W
スラ	S1	t=250		内D13	●150W			
	MSI	t=300		内D13	●150W			



レンガアロウ	D-8
ヨウ型	D-4
芝生保護材	D-5
洗い出しコンクリート平版アロウ	D-6
レンガ	D-6
外部シカ階段	D-7



・危険物取扱者 10-YH (塩化第一類)



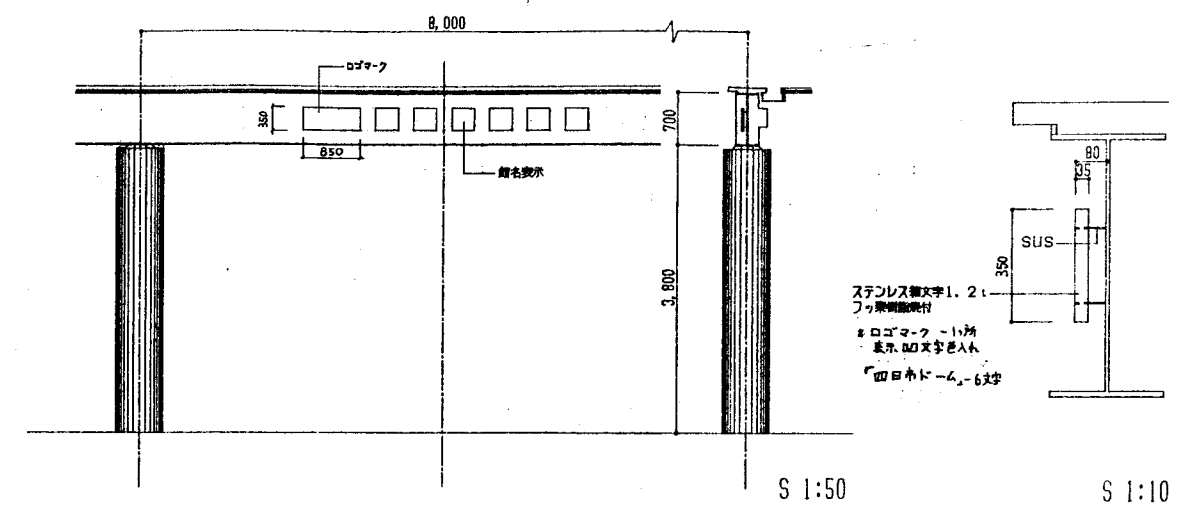
サイン工事得意仕仕様書

- 一般事項
 - 取付箇所は別紙配置図及び明細表による。
 - 本工事は取付等に必要となる一切の器具及び材料等は含むものとする。
 - 品目・数量は別紙明細表による。
 - 現場実測と必要とする物は事前に先立ち、別紙明細表に使用現場寸法と実測した上取付に付する。
 - 取付は、指定材料、色合い等の確認のため、サンプルと貼付した一覽表と併せて提出し、承認を受ける。
 - 取付は施工責任者との、その責任者の確認の上取付を行い工事の進捗確認を行う。
 - 取付は事前に施工責任者の氏名と併せて提出する。
 - 製作の最終確認に於いて、各部門で製作した部品と点検し、不具合は速やかに修正または作りかえを行い、組立完了後は一覽表に寸法、形状、色合い、各部品の取合い、ガタつきなどを点検する。
 - 取付及び仕様が明細表にないものでも、製作、取付上必要なものはこれと同等とする。
- 製作
 - 記入文字は、最終決定名称と併せて打ち合せの上、製作に入るものとする。
 - 文字・書体は指定したものを用いる。手書き・印刷・彫刻・彫込・色付け・平面的の場合に於いてもレイアウトを行い併せて承認を受ける。
 - マーク・地盤及びカラー等も色・形状・レイアウトの打ち合せを行い、取付又は見本によって併せて承認を受ける。
- 取付
 - 下地の確認・アンカーボルト設置等の現場の状況、取付に於いては位置・場所・時期等と併せて打ち合せを行い、併せて承認を受ける。
 - 現場取付は、別紙又は併せて併せて打ち合せを行い、併せて承認を受ける。

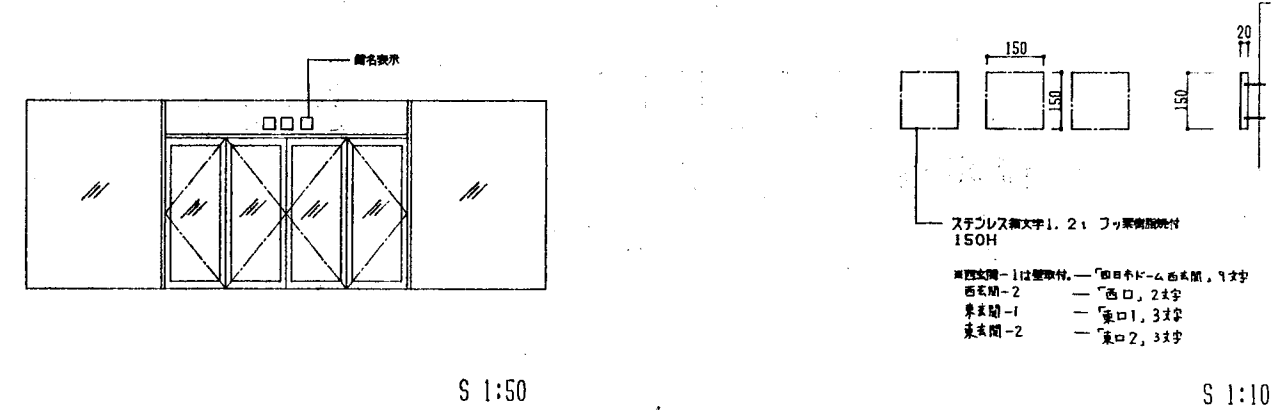
サインリスト

番号	品名	サイン名称	数量	単位	備考
1	2	3	4	5	6
1	■	館名表示 - a	1	1	・横文字
2	■	館名表示 - b	4	4	・横文字 東玄関1・2 西玄関1・2
3	■	フロア - 案内板	1	1	・南玄関
4	■	フロア - 案内板 - a (横文字)	2	2	・タテプラ
5	■	フロア - 案内板 - b (横文字)	2	2	・ヨコプラ
6	■	フロア - 案内板 (横文字)	1	1	
7	■	フロア - 案内 (スタンド型)	4	4	
8	■	館名表示	6	6	
9	■	室名板 - a (横文字)	4	4	・西玄関アトリナロ×2 ・東玄関アトリナロ×2
10	■	室名板 - b (横文字)	15	15	
11	■	室名板 - c (横文字)	25	1	・5文字 シート横文字
12	●	ピクトサイン	20	2	22
13	■	座席番号 (スタンド型)	14	14	
14	△	座席番号 (シート文字)	116	116	
15	■	階層案内板 (横文字)	20	20	72 (1)内は座席番号
16	■	便所案内板 (横文字)	8	8	
17	■	室名板 - a' (横文字)	6	6	
18	■	室名板 - b' (横文字)	3	3	
19	●	ピクトサイン (着脱式)	12	12	
20	○	デンワピクトサイン	2	2	
其他		防火標識	3	3	
		危険物・火気標識	10	10	

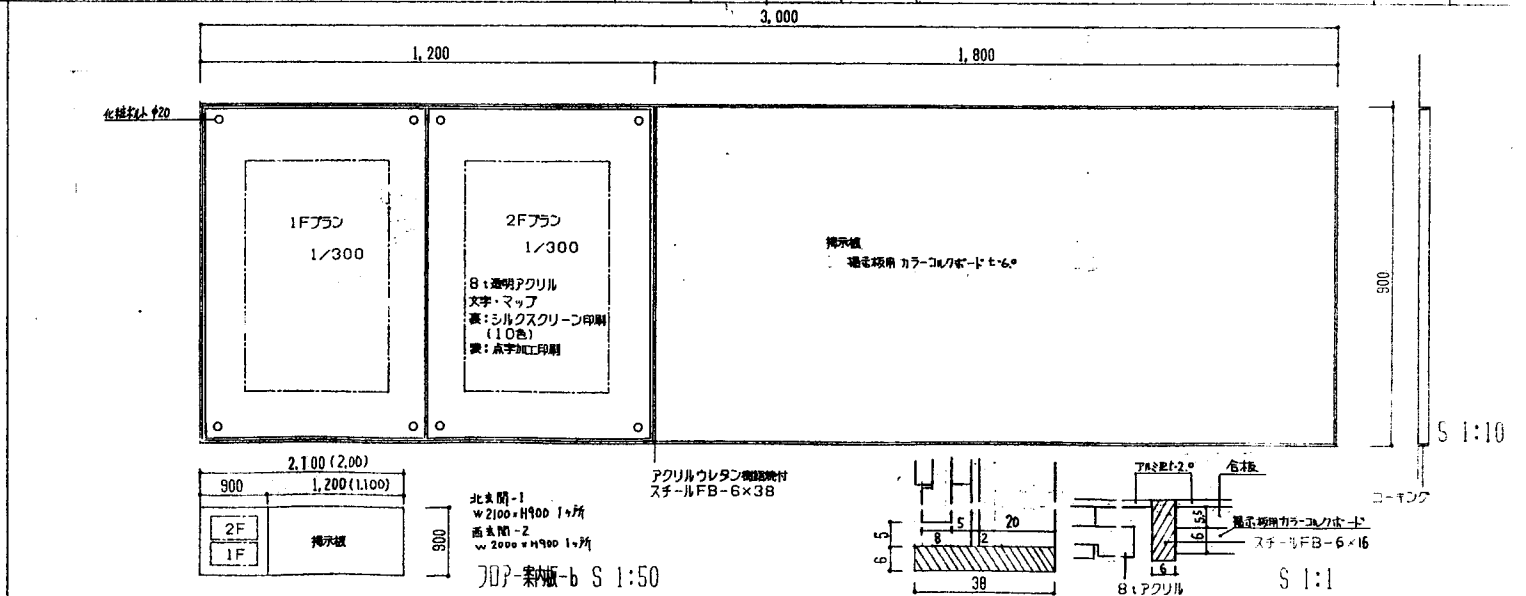
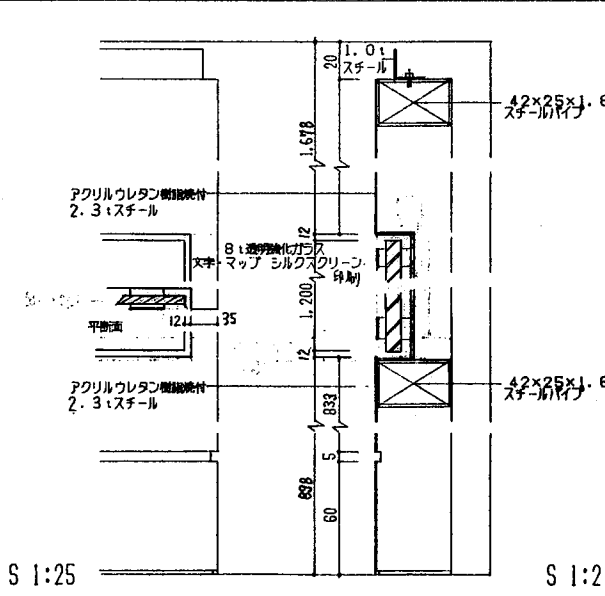
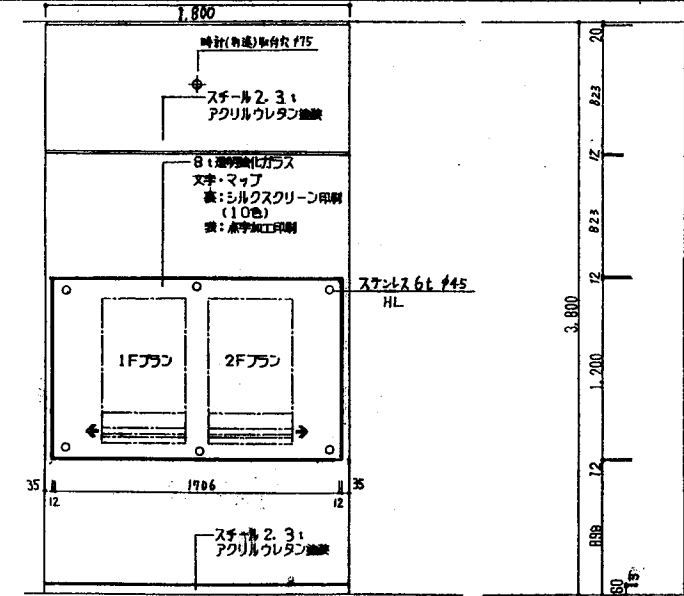
1	館名表示 - a	数量	単位
1	1	1	1:10



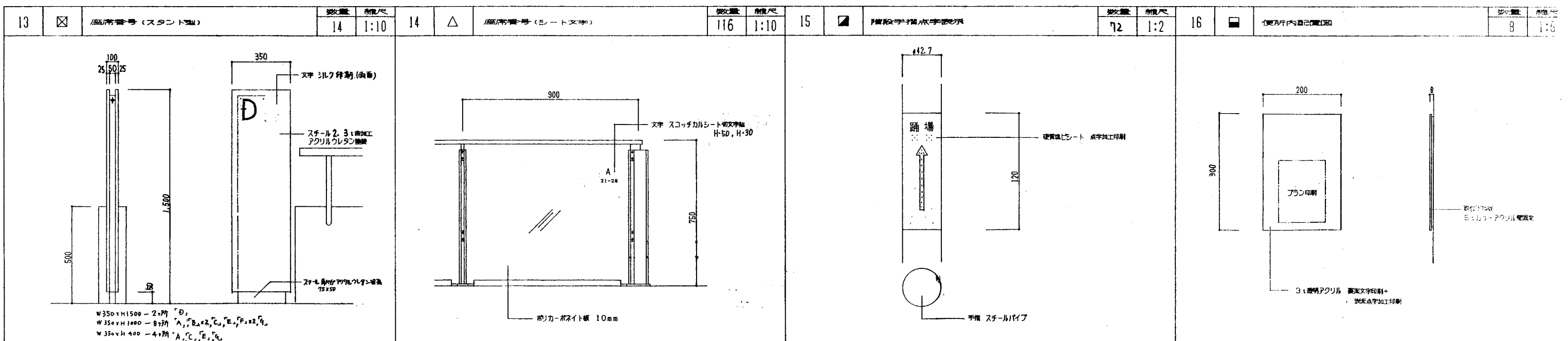
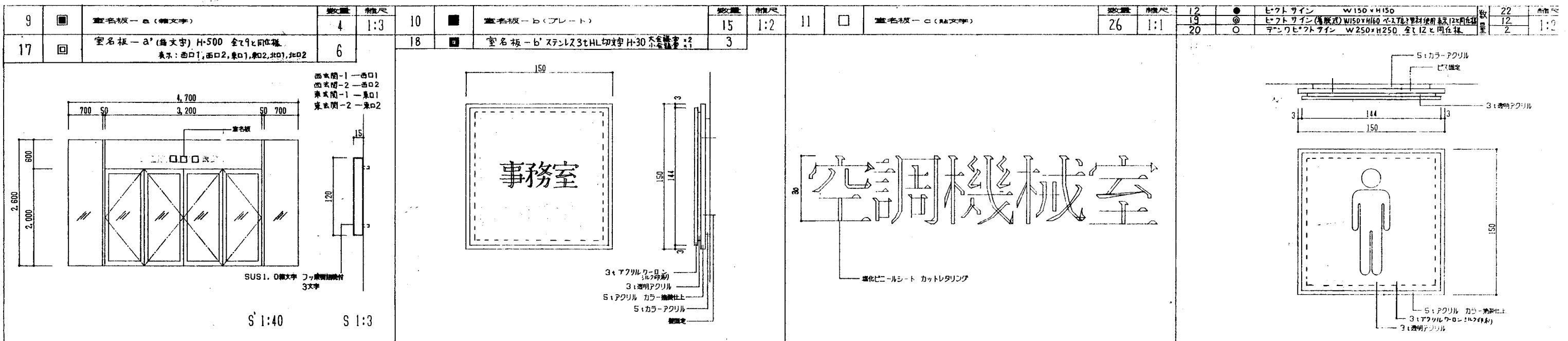
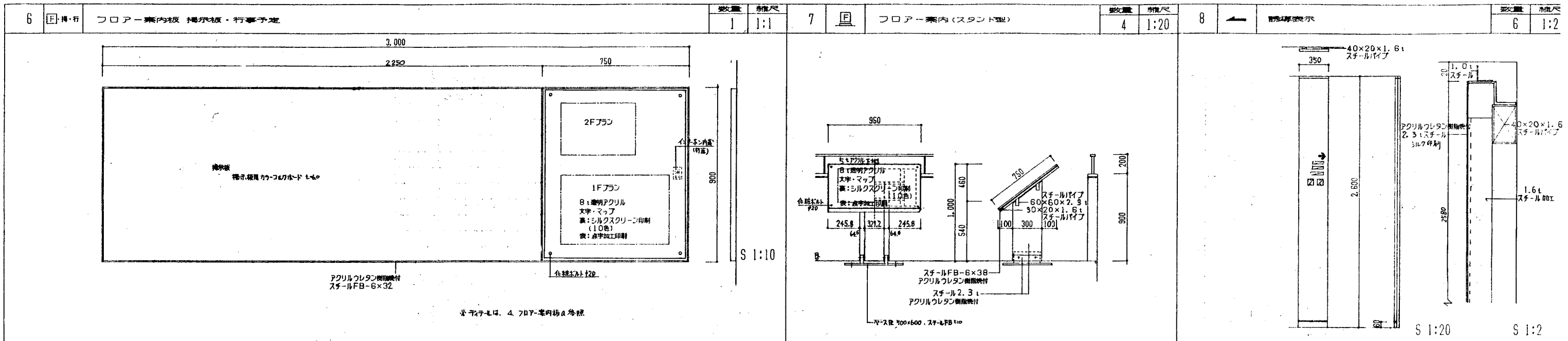
2	館名表示 - b	数量	単位
4	4	1:10	

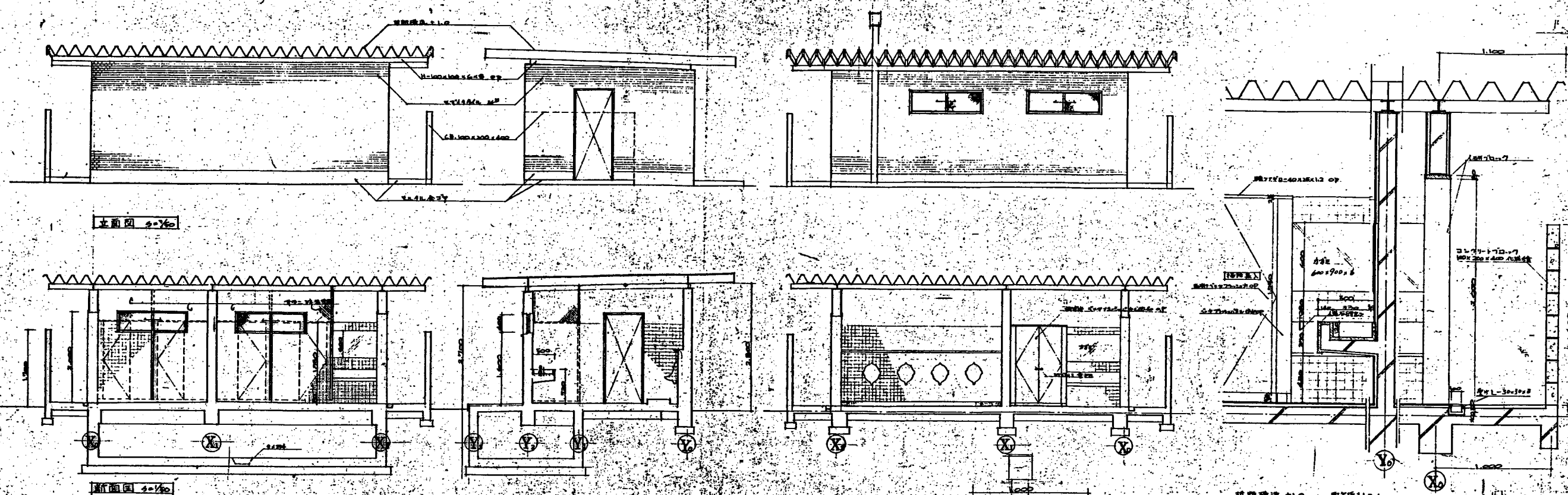


3	フロア - 案内板	数量	単位	4	フロア - 案内板 - a (横文字)	数量	単位	5	フロア - 案内板 - b (横文字)	数量	単位
1	1	1:2		2	2	1:2		2	2	1:1	

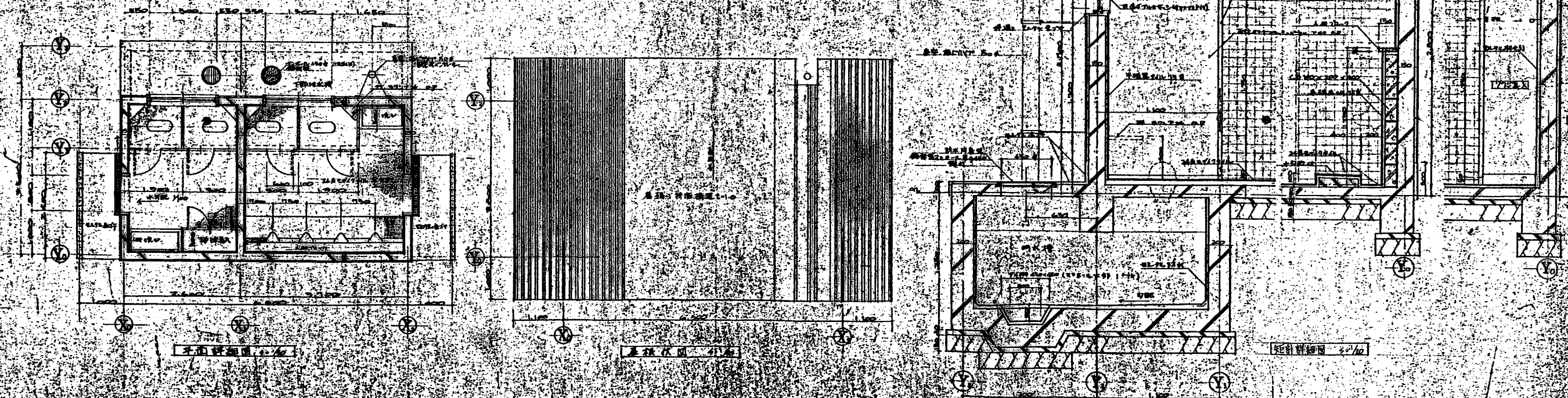


久米設計・梓設計 設計共同企業体





種別	構造	外観	内観
種別	鉄骨造	鉄骨造	鉄骨造
構造	鉄骨造	鉄骨造	鉄骨造
建築面積	22.05	22.05	22.05
床面積	22.05	22.05	22.05
柱間隔	3.0m	3.0m	3.0m
梁間隔	3.0m	3.0m	3.0m
天井高	2.4m	2.4m	2.4m
床高	0.1m	0.1m	0.1m
基礎	基礎	基礎	基礎
屋根	屋根	屋根	屋根
外装	外装	外装	外装
内装	内装	内装	内装
設備	設備	設備	設備
その他	その他	その他	その他



1 総 則

1.1 適用範囲

- 1) 本規準は設計図(建築図、構造図)のコンクリート部分に適用する。
- 2) 現場説明事項、質疑応答、特記仕様書および本規準に記載のない事項はこの規準による。
- 3) 本規準と他の設計図との間に抵触が生じた場合は後者の指示による。
- 4) 本規準を含む構造図の記入寸法は特記のない限りmm単位とする。
- 5) 本規準は下記に示す材料を対象とする。
コンクリート:設計強度 16 N/mm²以上 35 N/mm²以下
鉄筋:SD295A SD295B SD345 SD390 溶接金鋼
- 6) 本規準および構造図などで配筋方法が不明の場合は日本建築学会編「JASS5」または「鉄筋コンクリート配筋設計・図解」に準じ、協議の上、配筋方法を決める。
- 7) 前項6)によって生じた変更は共通仕様書にいう軽微な変更とする。

2 一般事項

2.1 鉄筋の表示記号

この規準図を含む設計図に用いる鉄筋の表示記号は下記による。
ただし、書入れ表示がある場合は書入れによる。

鉄筋記号	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
記号	○	×	◇	●	○	●	●	●

d : 実形鉄筋の呼び名の数値
D : 鉄筋の折曲げ内の直径 (鉄筋の折曲げ寸法を示す場合)
L1 : 鉄筋の端手長さ
L2 : 一般の鉄筋の定着長さ
L3 : 小梁およびスラブの下端筋の定着長さ
L2*: L2 + 5d

2.2 鉄筋のかぶり厚さ

鉄筋のかぶり厚さは特記、または設計図による。これらに指示のない場合は下表による。

部 位	かぶり厚さ
土に接しない部分	
床スラブ	30
耐力壁	40 注1
柱	40
梁	50 注2
梁	50 注3
土に接する部分	
柱・梁・床スラブ・耐力壁	50
基礎・地盤	70

- 1) 耐久性上有効な仕上がりのある場合は、鉄筋の保護層を30とすることができる。
- 2) 耐久性上有効な仕上がりのある場合は、鉄筋の保護層を40とすることができる。
- 3) コンクリートの品質および施工方法に拘り、鉄筋の保護層を40とすることができる。
- 4) 鉄筋の最小かぶり厚さは上表の値から10を差し引いた値とする。
- 5) 基礎底面のかぶり厚さは土を含まない。
- 6) 鉄筋のかぶり厚さは鉄筋の天端からとする。
- 7) 主筋にD40以上の実形鉄筋を使用する場合のかぶり厚さは設計図の書入れ指示による。
- 8) 高耐久性コンクリートを用いる場合のかぶり厚さは、土に接しない部分では上表の値に10を加えた値とする。
- 9) 水中コンクリートのかぶり厚さは、共通仕様書または設計図による。
- 10) 上記以外で鉄筋の耐久性を必要とする箇所のかぶり厚さは設計図による。

2.3 鉄筋相互のあき

- 1) 鉄筋相互のあきは下記のうち大きいほうの数値以上とする。
・コンクリート粗骨材最大寸法の1.25倍
・25mm
・1.5d
- 2) SRC造の鉄筋と鉄骨の相互のあきは31mm以上とする。
ただし、鉄骨の断面方向の部分と鉄筋は接触してよい。

2.4 鉄筋の折曲げ形状・寸法

1) 末端部の折曲げ

折曲げ角度	種類	折曲げ内のり径(D)
180°	SD295A SD295B SD345	D16以下 : 3d以上 D19~D32 : 4d以上
135°	SD390	5d以上

- 1) 折曲げ角度90°は、スラブ・壁筋・耐力壁またはスラブと同時に打ち込むU形およびL形に用いるU字筋およびL字筋と共用するタイプのみに用いる。
- 2) 片持スラブの上端筋の先端、壁の自由端に用いる先端の余長は4dでよい。
- 3) 鉄筋の末端部にフックをつける箇所
・あばら筋および帯筋
・柱および梁(基礎梁を除く)の出隅筋の鉄筋
・埋入鉄筋
・杭基礎フーチングのベース筋
・土留め壁筋、四隅の主筋

3) 中間部の折曲げ

折曲げ角度	鉄筋の使用箇所	鉄筋の種類	鉄筋径による区分	鉄筋の折曲げ内のり径D
90°以下	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SD295A SD295B SD345	D16以下 D19以上	3d以上 4d以上
	上記以外の鉄筋	SD295A SD295B SD345 SD390	D16以下 D19~D25 D29~D38	6d以上 8d以上

2.5 鉄筋の定着および重ね継手長さ

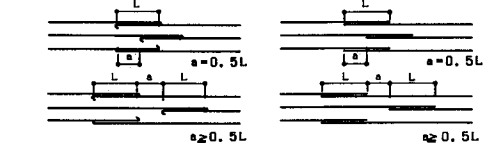
1) 鉄筋の定着および重ね継手長さ

種類	コンクリートの設計強度(N/mm ²)	重ね継手の長さ(L1)	定着の長さ(L2)	下端筋(L3)
SD295A SD295B SD345	16	45dまたは35dフック付き	40dまたは30dフック付き	
	18			
	21	40dまたは30dフック付き	35dまたは25dフック付き	
	22.5			
SD390	27	35dまたは25dフック付き	30dまたは20dフック付き	25dまたは15dフック付き
	30			
	35			

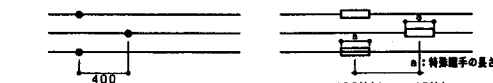
- 1) 末端部のフックは定着長さに含まない。
- 2) 耐力スラブおよびこれを受ける小梁は、一定定着(L2)とする。
- 3) 直線の異なる重ね継手の長さは、同じほうのdによる。
- 4) 鉄骨のフラット面に鉄筋の定着部が接する場合は、その長さの1/2程度を定着長さに加える。

2) 継手相互のずらし方

- ・フックのある場合



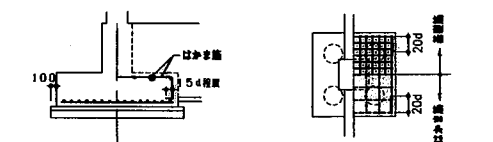
- ・ガス圧接の場合



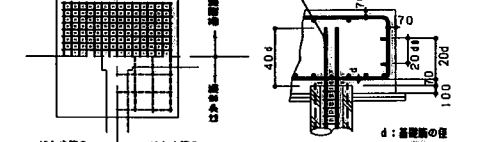
3 各部の規準配筋図

3.1 基礎

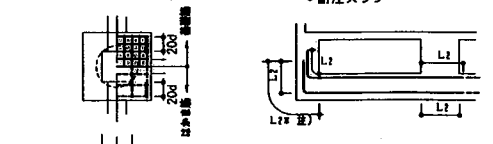
- ・直接基礎



- ・杭基礎



- ・場所打ち杭基礎



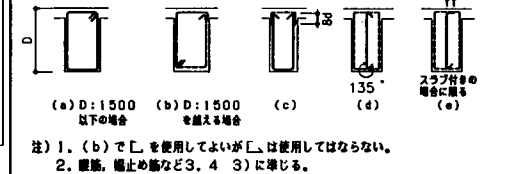
- ・耐力スラブ



3.2 基礎梁

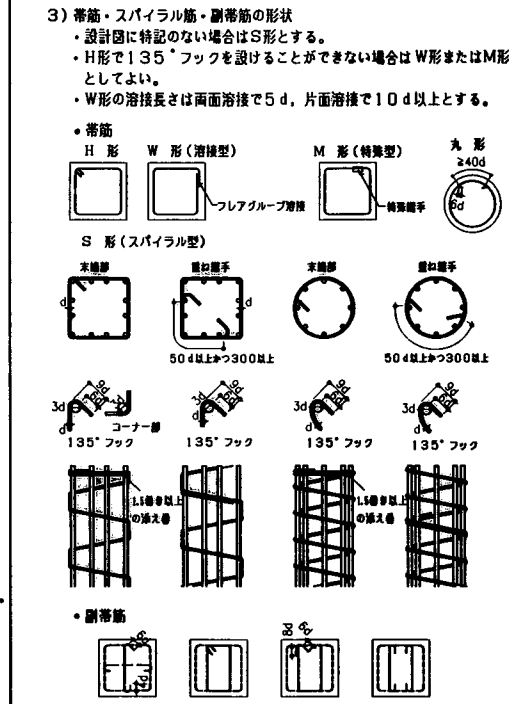
- 1) 基礎梁主筋の端手および定着
主筋の端手の中心は下図の範囲内に設ける。
(a) 基礎梁に床スラブがつかない独立基礎の場合
(b) 基礎梁に床スラブが付き独立基礎の場合
(c) 連続基礎およびべた基礎の場合
(d) 連続基礎の場合及び、基礎梁が反力を受ける場合

2) あばら筋、帯筋の形状



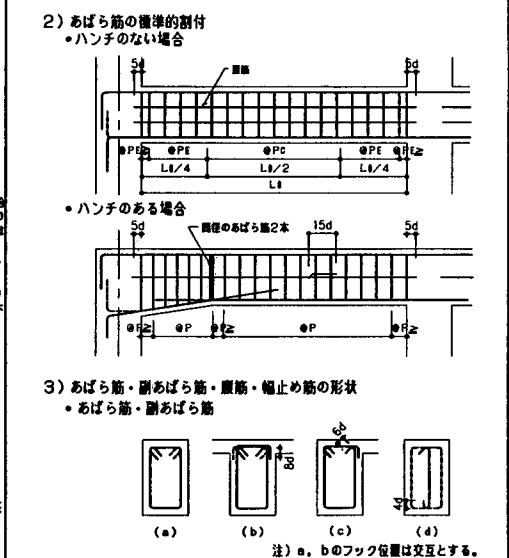
3.3 柱

- 1) 柱主筋の端手および定着
主筋の端手の中心は下図の範囲内に設ける。
- 2) 帯筋の標準的割付
(a) 部分には帯筋を配筋しなくてよい。
(b) 帯筋の標準的割付
- 3) 帯筋・スパイラル筋・副帯筋の形状
設計図に特記のない場合はS形とする。
・H形で135°フックを設けることができない場合はW形またはM形としてよい。
・W形の接合長さは両面接合で5d、片面接合で10d以上とする。



3.4 大 梁

- 1) 大梁主筋の端手および定着
主筋の端手の中心は下図の範囲内に設ける。
・L1≧10mの場合は、梁中央下端筋の余長は40dとする。
・最上層と上層に柱のない場合で梁筋を通して配筋できない場合は、下図は実線、点線のいずれかを用いてもよいが、ハンチ勾配が1/6以上のハンチ梁の端部下端筋は下向きに柱内に定着する。
・最上層(上層に柱がつかない場合)
- 2) あばら筋の端手および定着
あばら筋の端手の中心は下図の範囲内に設ける。
・ハンチのある場合
・ハンチのない場合
- 3) あばら筋・副あばら筋・帯筋・幅止め筋の形状
あばら筋・副あばら筋



- 4) 梁に上下の段差がある場合の納めかた
主筋が直交梁の主筋に突き当たる場合は点線の配筋とする。
・e/D≦1/6の場合
・e/D>1/6の場合

3.5 小 梁

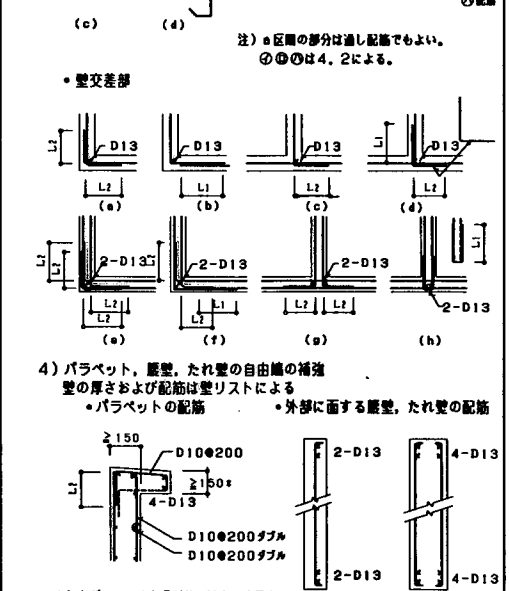
- 1) 小梁主筋の端手および定着
主筋の端手の中心は下図の範囲内に設ける。
・L1≧10mの場合は、梁中央下端筋の余長は40dとする。
- 2) あばら筋の端手および定着
あばら筋の端手の中心は下図の範囲内に設ける。

3.6 片持ち梁

- 1) 片持ち梁の主筋および定着
一般の梁と連続する場合
一般の梁と連続しない場合
- 2) あばら筋の端手および定着
あばら筋の端手の中心は下図の範囲内に設ける。

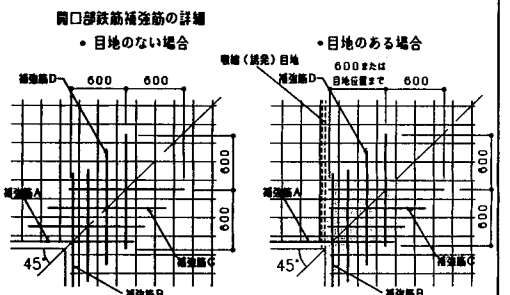
3.7 壁

- 1) 壁の配筋は設計図または4.11壁の標準配筋による。
- 2) 壁筋の端手は設計図に示す範囲内に設ける。
- 3) 壁筋の定着
柱への定着
梁への定着
- 4) バラベットの配筋
壁の厚さおよび配筋は設計図による。
・バラベットの配筋
・外壁に面する壁筋、たれ壁の配筋

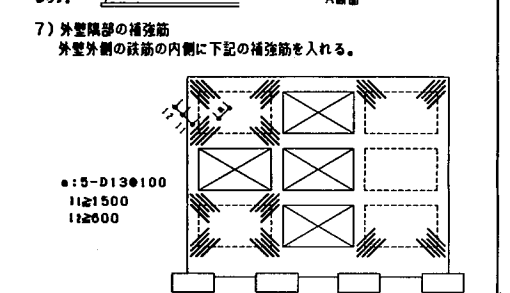
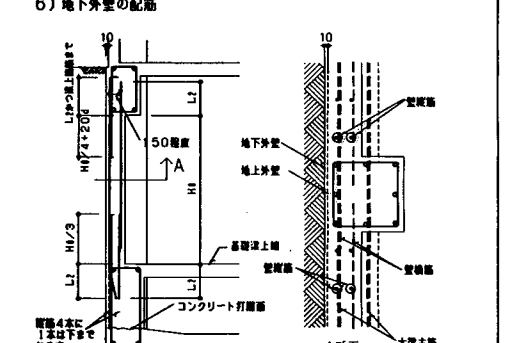


5) 開口部補強

- 1) 開口部の最大寸法が300以下で、鉄筋をゆるやかに曲げることで開口部を空けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

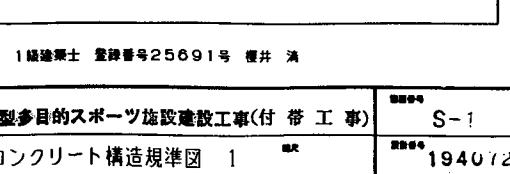


6) 地下外壁の配筋



3.8 床スラブ

- 1) 床スラブの配筋は設計図または4.10床の標準配筋リストによる。
- 2) 床スラブ筋の端手位置
位置
短辺方向
長辺方向
下層筋
面 方向
A C D



4) 床スラブの補強筋

・スラブに壁が取り付けられる場合
スラブに上補筋がなく、RC壁
C壁が取り付けられる場合は右図の
補強筋を入れる。

・スラブに段差がある場合
スラブに150未満の段差がある場合は下図の補強筋を入れる。

・開口部周辺の補強筋
原則として、開口部の補強筋は右図による。
開口部の最大径が600を超える場合は
設計図による。
開口部の径が両方向の鉄筋間隔以下の場合
でスラブ筋をゆるやかに曲げて配筋でき
る場合は補強筋を省略できる。

・スラブの出隅、入隅部の補強
スラブ上補筋の下側に下記配筋を入れる。

5) 床スラブに埋め込む管類に対する注意事項

・設備用配管を埋め込む場合は、スラブ筋の最小かぶり厚さを確保でき
る事を事前に確認する。
・配管の間隔は大きい方の管径の3倍以上とする。
・分電盤まわりのスラブ厚さは18cm以上とする。
・フロアダクトを埋め込む場合のスラブ厚さは150以上とし、フロ
アダクト上面を溶接金網(66-1010、幅900)で補強する。

6) 片持ちスラブの納まり

・定着部と集中荷重のない先端部

・集中荷重のある先端部

7) 片持ちスラブの出隅部の補強

出隅部の補強筋は特記がない場合は下図による。

8) 片持ちスラブの納まり

・定着部と集中荷重のない先端部

・集中荷重のある先端部

9) 階段の配筋

・階段の配筋は設計図または4.12階段の標準配筋リストによる。
・階段の鉄筋の継手位置と定着

・片持ち階段の場合
片持ち階段の主筋は壁の中心線を越えて定着する。

10) 地下部分の補強

1) 基礎と基礎梁の接合部の補強筋は現場の実情により下図による。

2) 基礎梁に段差がある場合の納まりと補強筋は下図による。

11) 基礎梁と土間コンクリートおよび置きスラブの接合

・土間コンクリートの場合

・置きスラブの場合

12) 水勾配のある屋根スラブと梁の納まりの補強筋

13) 外壁に設ける目地などの詳細

1) 外壁の収縮(誘発)目地の位置は建築設計図によるものとし、コンク
リートの断面形状は下図による。
目地、柱および梁で囲まれた1枚の壁の大きさ(面積)は25㎡以下
とし、その縦横比は1.5:1.0以下とする。

14) 溶接金網・鉄筋格子の納まり詳細

1) 床スラブ、壁に溶接金網・鉄筋格子を用いる場合は下記による。
2) 鉄筋格子の継手長さ、定着長さは2.5の異形鉄筋の場合による。
溶接金網の継手長さ、定着長さは下図による。

15) 床スラブの標準配筋

1) 壁の標準配筋

2) 標準配筋リスト

3) 鉄筋の継手および定着

4) 交差部、端部および開口部の配筋

5) まぐさ(RC造)の配筋

16) 階段の標準配筋

1) 片持ち階段の配筋リスト

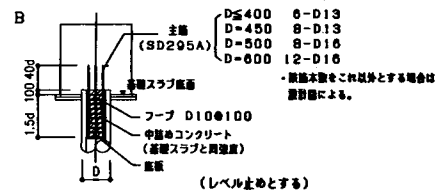
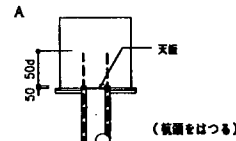
2) スラブ階段の配筋リスト

17) 建屋に取付く煙突の配筋

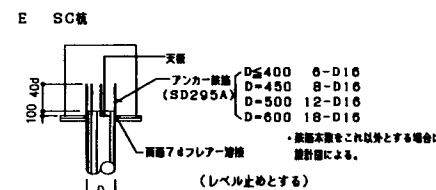
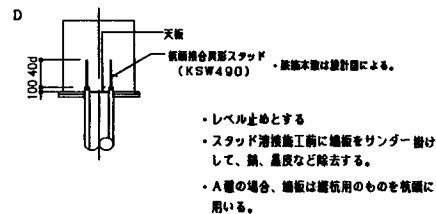
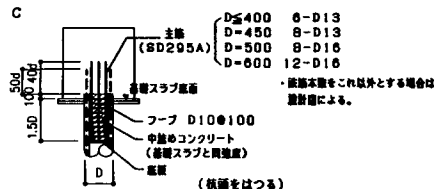
5 既製コンクリート杭の杭頭接合部

5.1 既製コンクリート杭の杭頭接合部詳細 (採用はO印とする)

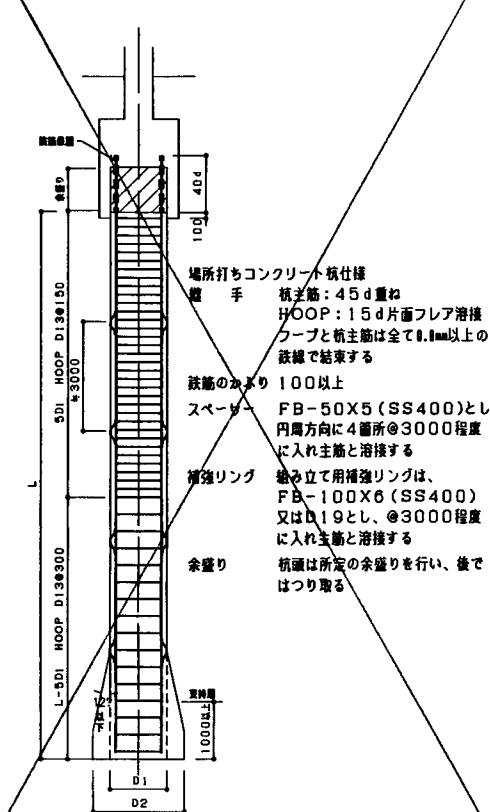
1) 建物高さが15m以下かつ階数が4以下の場合



2) 建物高さが15mを超える場合



5.2 場所打ちコンクリート杭仕様

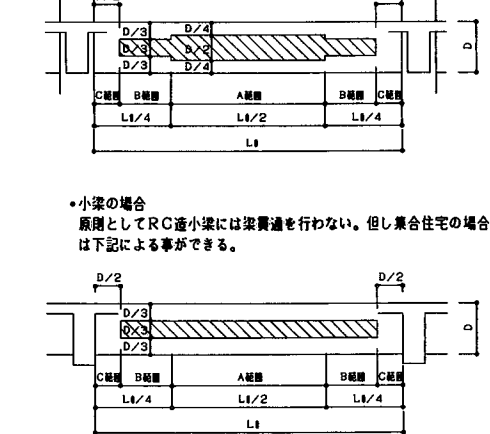


6 梁貫通孔の補強規準

6.1 RC梁

1) 貫通孔の径および配置

・大梁の場合



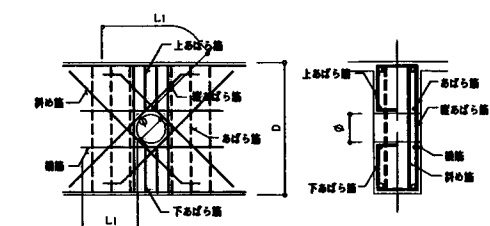
注) 1. 貫通孔は上図の範囲内に設けるものとする。

2. 貫通孔の径及び間隔は下表による。

範囲	最大孔径 (φ)	間隔
A	D/4かつ250 (D/4)	4φ以上
B	D/8かつ100 (D/8)	() は基礎梁を示す。

2) 補強方法

A 鉄筋型



貫通孔径	縦あばら筋	横筋	斜め筋	上、下あばら筋
100φ	2-φ-D13 (2-φ-D16)	2-2-D13	4-2-D13	2-φ-D13
150φ	2-φ-D13 (2-φ-D16)	2-2-D13	4-2-D13	2-φ-D13
200φ	2-φ-D13 (2-φ-D16)	2-2-D13	4-2-D13	2-φ-D13
250φ	2-φ-D16 (4-φ-D16)	2-2-D16	4-2-D19	4-φ-D13
300φ	2-φ-D16 (4-φ-D16)	2-2-D16	4-2-D19	4-φ-D13
350φ	4-φ-D16 (4-φ-D16)	2-2-D16	4-2-D19	4-φ-D13
500φ	4-2-D19 (4-2-D19)*	2-2-D16	4-2-D19	6-φ-D13
600φ	4-2-D19 (4-2-D19)*	2-2-D16	4-2-D22	6-φ-D16

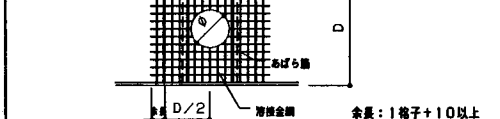
注) 1. 上表はφD/4であばら筋がD10φ200~100, またはD13φ200~125を示し、() 内はD13φ100の場合の配筋を示す。あばら筋がD13φ100を超える場合は補強は図示による。尚SRC梁はD/4をD/3に置き換えるものとする。

2. 上表は各項における補強筋の総本数を示す。
例) m-n-dの場合
m: 梁の断面における貫通孔左右または上下補強筋の総本数を示す。
n: □は閉鎖型スタップ、2は梁の両面であることを示す。
d: 補強筋の径

3. *印は縦筋(フックなし)の断面積を示す。

4. 貫通孔の径がD/8以下かつ100未満の場合は、補強を省略してよい。

B 溶接鋼型



貫通孔径	縦あばら筋	溶接鋼
100φ	2-φ-D13 (4-φ-D13)	2-φ-100
150φ	2-φ-D13 (4-φ-D13)	2-φ-100
200φ	2-φ-D13 (4-φ-D13)	2-φ-75
250φ	4-φ-D13 (6-φ-D13)	2-φ-75
300φ	2-φ-D13 (4-φ-D13)	2-φ-75
350φ	4-φ-D13 (6-φ-D13)	2-φ-75

注) 1. 上表はφD/4であばら筋がD10φ200~100, またはD13φ200~125を示し、() 内はD13φ100の場合の配筋を示す。あばら筋がD13φ100を超える場合は補強は図示による。尚SRC梁はD/4をD/3に置き換えるものとする。

2. 上表は各項における補強筋の総本数を示す。
例) m-n-dの場合
m: 梁の断面における貫通孔左右または上下補強筋の総本数を示す。
n: □は閉鎖型スタップ、2は梁の両面であることを示す。
d: 補強筋の径

3. 貫通孔の径がD/8以下かつ100未満の場合は、補強を省略してよい。

C リング型

1) 下記の3社製品を使用できるものとする。
但し同一建物内での併用は認めない。

2) 有孔梁のせん断終局強度が無孔梁のせん断終局強度と同等以上となるような補強筋量とする。なお、有孔梁のせん断終局強度には下記の低減係数を乗じるものとする。

低減係数 (α) 製品名
α=0.90 : 新SGリング・A型, II型ウェブレン
α=0.80 : I型ウェブレン, スパレン

3) 本規準に定める事項のほか(財)日本建築センターの評価等を取引した際の基準に従うものとする。

・新SGリング・A型: 方向性があり下図の方向とする。

・I型ウェブレン, II型ウェブレン: I型ウェブレンの2R型の使用は孔径200φ以下とする。

I型ウェブレン II型ウェブレン

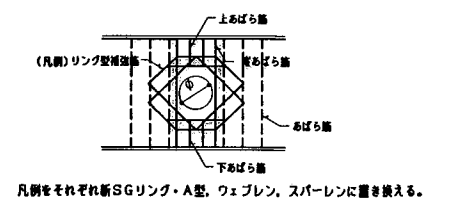
・スパレン: 3.5A型, 3.5B型, 3.5C型, 3.5D型のみ使用可とする。

500φ 4-φ-D13 (6-φ-D13) 2-2-D13 6-φ-D13

600φ 4-φ-D13 (6-φ-D13) 2-2-D13 6-φ-D13

注) 1. 上表はφD/3であばら筋がD10φ200~100, またはD13φ200~125を示し、() 内はD13φ100の場合の配筋を示す。あばら筋がD13φ100を超える場合は補強は図示による。

2. 上表は各項における補強筋の総本数を示す。
例) m-n-dの場合
m: 梁の断面における貫通孔左右または上下補強筋の総本数を示す。
n: □は閉鎖型スタップ、2は梁の両面であることを示す。
d: 補強筋の径



凡例をそれぞれ新SGリング・A型, ウェブレン, スパレンに置き換える。

貫通孔径	縦あばら筋	上、下あばら筋
100φ	2-φ-D13 (4-φ-D13)	—
150φ	2-φ-D13 (4-φ-D13)	2-φ-D13
200φ	2-φ-D13 (4-φ-D13)	2-φ-D13
250φ	4-φ-D13 (6-φ-D13)	4-φ-D13
300φ	4-φ-D13 (6-φ-D13)	4-φ-D13
350φ	4-φ-D13 (6-φ-D13)	4-φ-D13

注) 1. 上表はφD/4であばら筋がD10φ200~100, またはD13φ200~125を示し、() 内はD13φ100の場合の配筋を示す。あばら筋がD13φ100を超える場合は補強は図示による。尚SRC梁はD/4をD/3に置き換えるものとする。

2. 上表は各項における補強筋の総本数を示す。
例) m-n-dの場合
m: 梁の断面における貫通孔左右または上下補強筋の総本数を示す。
n: □は閉鎖型スタップ、2は梁の両面であることを示す。
d: 補強筋の径

3. 貫通孔の径がD/8以下かつ100未満の場合は、補強を省略してよい。

D リング型 500φ~600φ (大径差梁適用)

1) 下記の3社製品を使用できるものとする。
但し同一建物内での併用は認めない。

2) 有孔梁のせん断終局強度が無孔梁のせん断終局強度と同等以上となるような補強筋量とする。なお、有孔梁のせん断終局強度には下記の低減係数を乗じるものとする。

低減係数 (α) 製品名
α=0.90 : 新SGリング・A型, II型ウェブレン
α=0.80 : I型ウェブレン, スパレン

3) 本規準に定める事項のほか(財)日本建築センターの評価等を取引した際の基準に従うものとする。

・新SGリング・A型: 方向性があり下図の方向とする。

・II型ウェブレン: I型ウェブレンは使用不可とする。

・スパレン: 3.5C型, 3.5D型, 3.5E型, 3.5F型のみ使用可とする。

500φ 4-φ-D13 (6-φ-D13) 2-2-D13 6-φ-D13

600φ 4-φ-D13 (6-φ-D13) 2-2-D13 6-φ-D13

注) 1. 上表はφD/3であばら筋がD10φ200~100, またはD13φ200~125を示し、() 内はD13φ100の場合の配筋を示す。あばら筋がD13φ100を超える場合は補強は図示による。

2. 上表は各項における補強筋の総本数を示す。
例) m-n-dの場合
m: 梁の断面における貫通孔左右または上下補強筋の総本数を示す。
n: □は閉鎖型スタップ、2は梁の両面であることを示す。
d: 補強筋の径

6.2 S梁 (小梁は大梁に準じる)

1) 貫通孔の径および配置



注) 1. 貫通孔は上図の範囲内に設けるものとする。

2. 貫通孔の径及び間隔は下表による。

範囲	最大孔径 (φ)	間隔
A	D/3かつSD/2	3φ以上
B	SD/4かつ150以下	3φ以上

3. 貫通孔の径がSD/8以下で100未満の場合は補強プレートを省略してよい。

4. 貫通孔の径がSD/12以下で100未満の場合は補強プレートを省略してよい。

5. S梁の補強スリーブ長さは、フランジ幅の1/2かつ100以上とする。

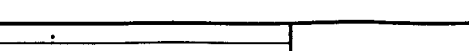
2) 補強方法

注) 1. 補強材の材質 プレート: 母材と同質
スリーブ: STK400

2. 表中, *印の補強方法は構造設計担当者で相談して決定する。

6.3 SRC梁 (小梁は大梁に準じる)

1) 梁貫通孔の径および配置



注) 1. 貫通孔は上図の範囲内に設けるものとする。

2. 貫通孔の径及び間隔は下表による。

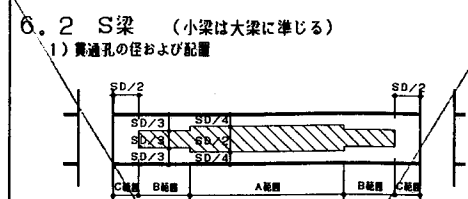
範囲	最大孔径 (φ)	間隔
A	D/3かつSD/2	3φ以上
B	D/6, SD/4かつ150以下	3φ以上

3. 補強スリーブの長さは梁幅-0~10程度とする。

2) 補強方法

注) 1. 補強材の材質 プレート: 母材と同質
スリーブ: STK400

2. 貫通孔上, 下あばら筋の形状は□, □とすることができる。SRC梁の貫通孔の補強は上記記載事項以外はRC梁と, S梁の補強の組み合わせとする。



注) 1. 貫通孔は上図の範囲内に設けるものとする。

2. 貫通孔の径及び間隔は下表による。

範囲	最大孔径 (φ)	間隔
A	D/3かつSD/2	3φ以上
B	SD/4かつ150以下	3φ以上

3. 貫通孔の径がSD/8以下で100未満の場合は補強プレートを省略してよい。

4. 貫通孔の径がSD/12以下で100未満の場合は補強プレートを省略してよい。

5. S梁の補強スリーブ長さは、フランジ幅の1/2かつ100以上とする。

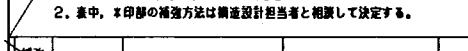
2) 補強方法

注) 1. 補強材の材質 プレート: 母材と同質
スリーブ: STK400

2. 表中, *印の補強方法は構造設計担当者で相談して決定する。

6.4 その他

1) 梁貫通孔

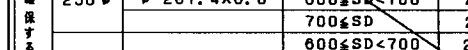


注) 1. 貫通孔は上図の範囲内に設けるものとする。

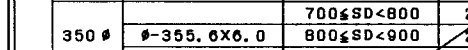
2. 貫通孔の径及び間隔は下表による。

範囲	最大孔径 (φ)	間隔
A	D/4かつ250 (D/4)	4φ以上
B	D/8かつ100 (D/8)	() は基礎梁を示す。

2) JOINT位置近くに設ける場合



3) 小梁の近くに設ける場合



1991.07.09

1991.10.01

1992.01.06

1994.09.20

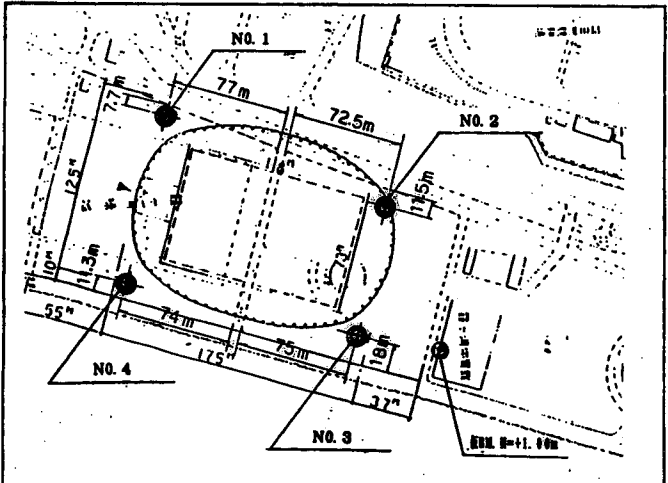
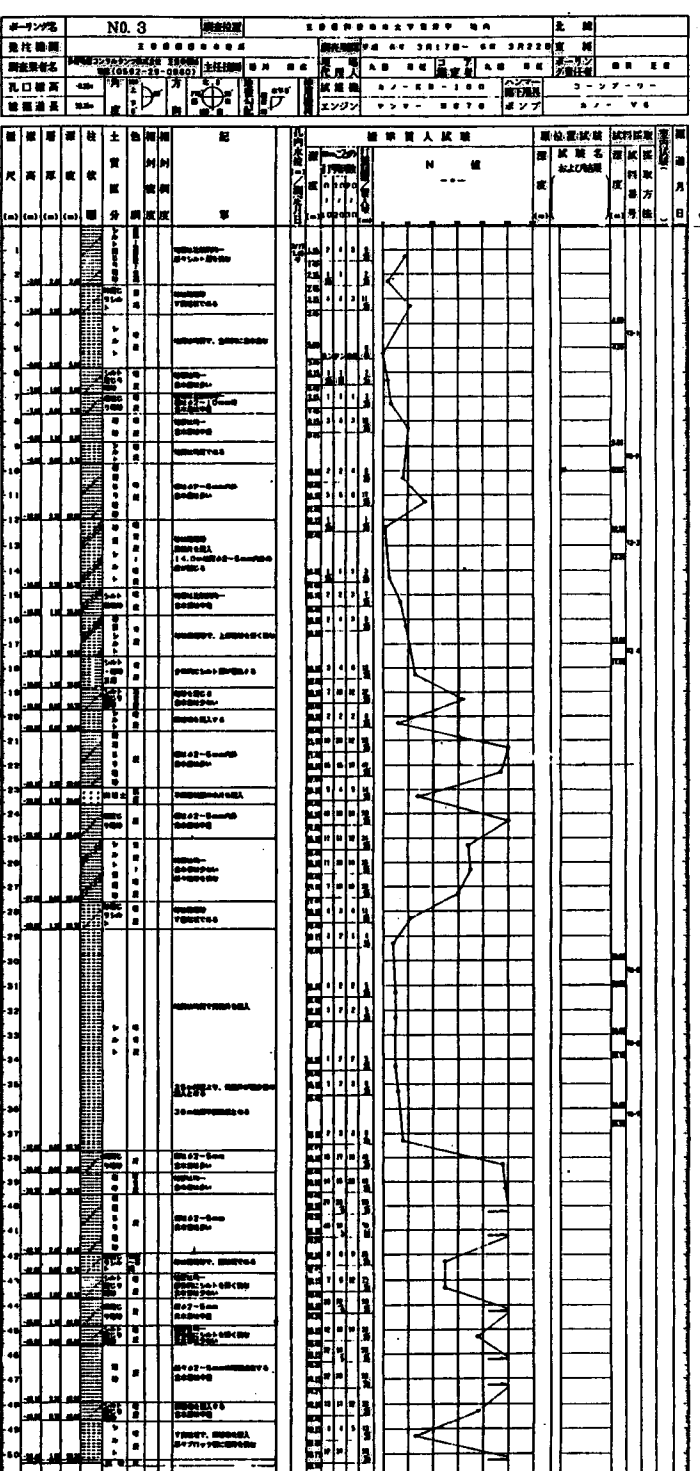
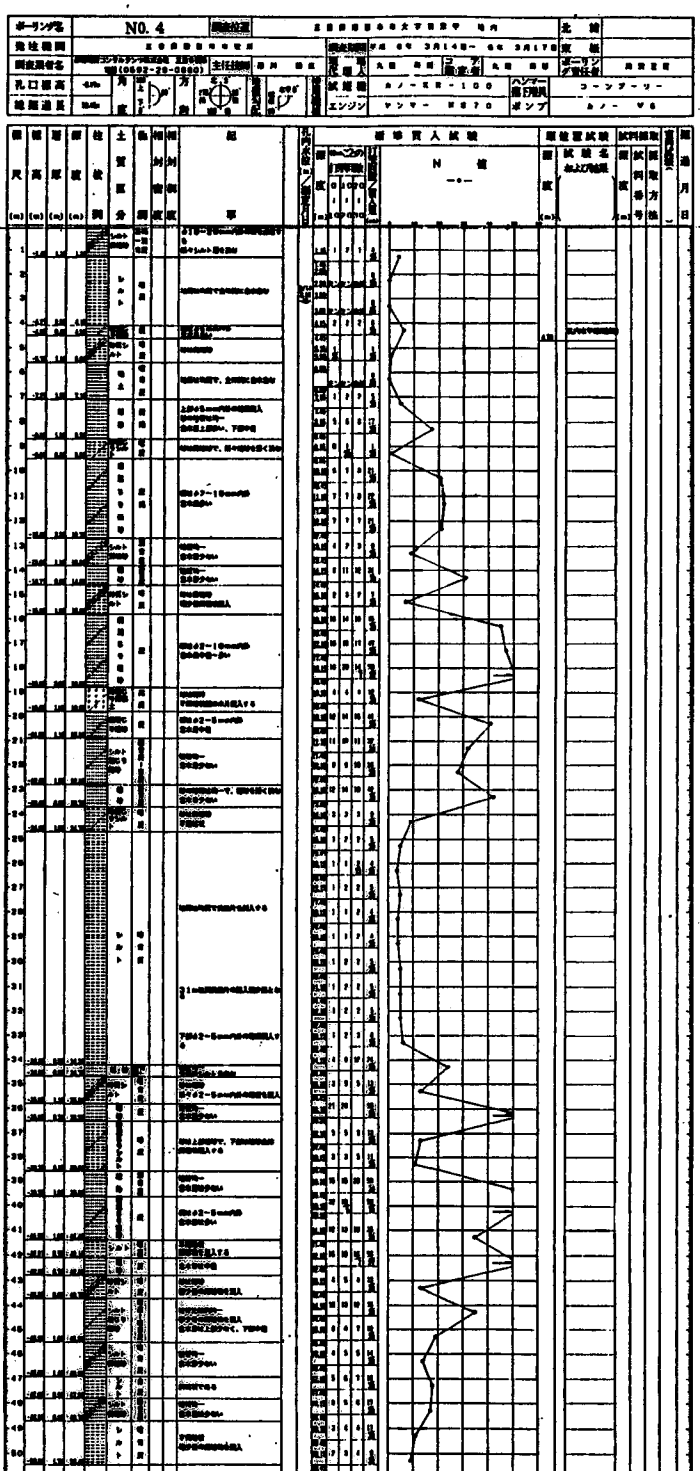
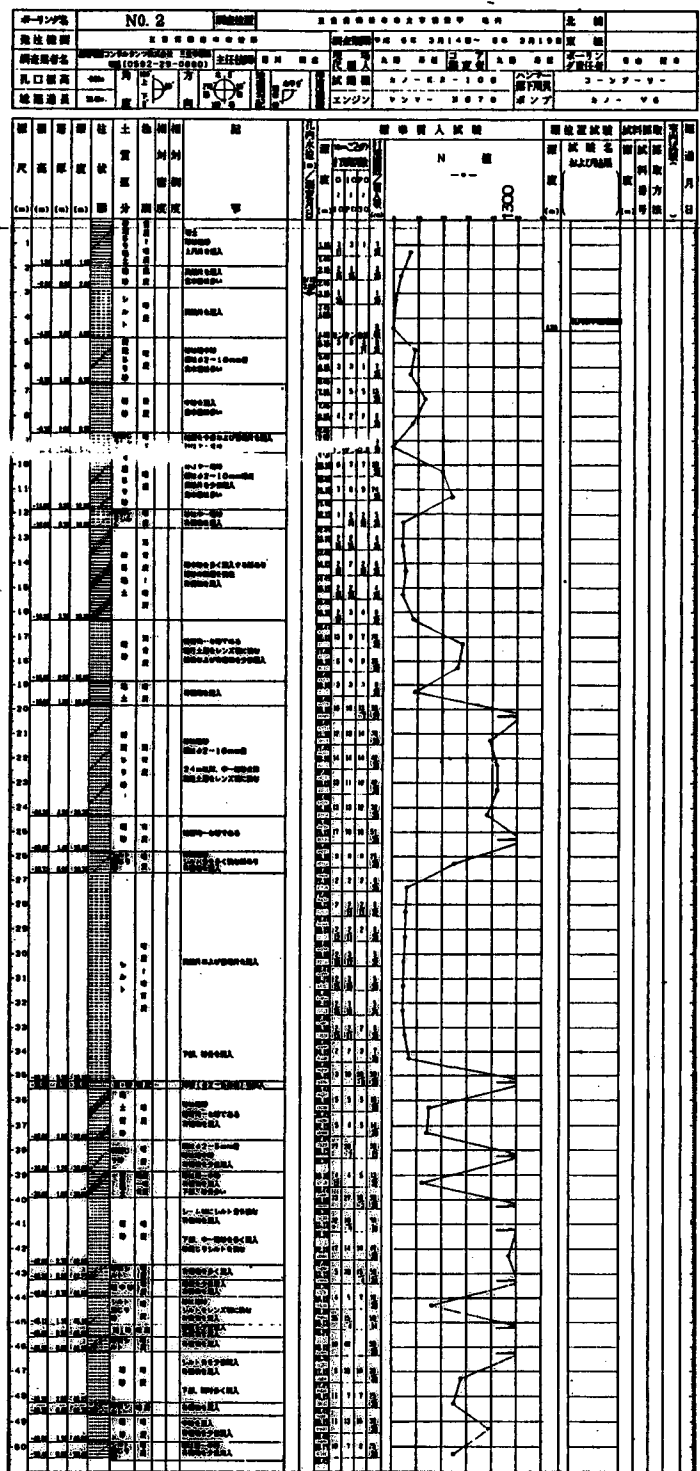
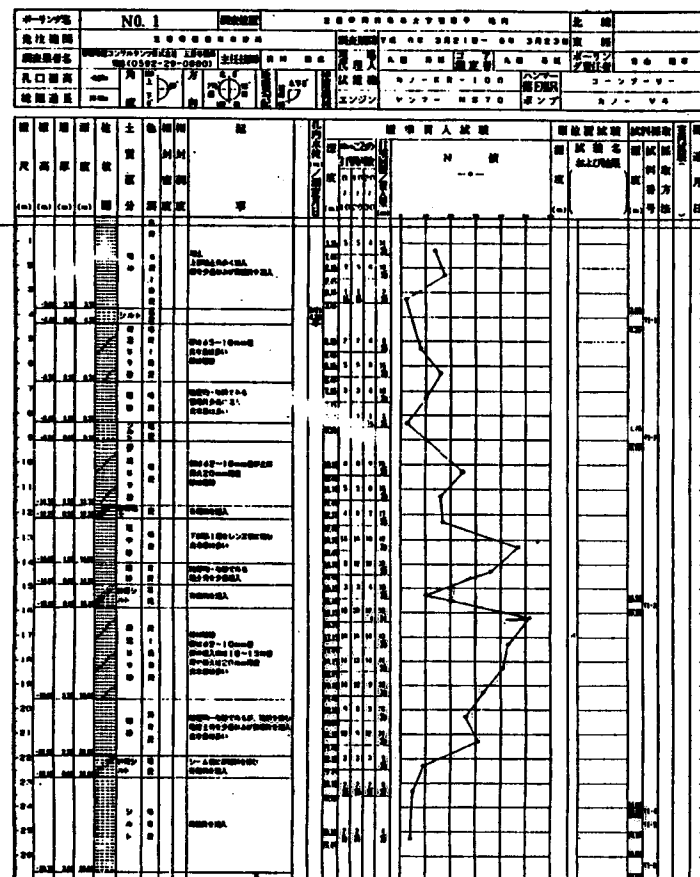
久米設計・梓設計 設計共同企業体

鉄筋コンクリート構造規準 3

S-2

194072

37



調査位置図

杭種	工法	端別	径径	長さ	杭端レベル	本数	長期許容 支持力	
異形摩擦杭	セメントミルツ工法	A端	300φ-450φ	8.0m	GL-900	13	12 t/本	
					GL-1500	各1		
					GL-2000			
					GL-2200			
					GL-2400			
					GL-2600			
					GL-2800			
					GL-4450			各14
					GL-4550			
					GL-5050			

The image contains two sets of technical drawings, labeled F1 and F2, showing cross-sections and plan views of reinforced concrete slabs.

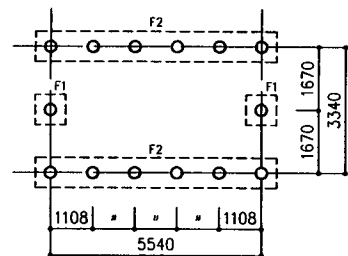
F1:

- Cross-section:** Shows a slab with a total width of 800 mm, divided into two 400 mm sections. The height is 100 mm. A central vertical reinforcement bar is shown. Dimensions include 60 mm for the top flange, 400 mm for the main body, and 50 mm for the bottom flange.
- Plan view:** Shows a square slab with a side length of 800 mm, divided into four 400 mm sections. A central vertical reinforcement bar is shown. Dimensions include 5-D13 for the top flange, 400 mm for the main body, and 800 mm for the bottom flange.

F2:

- Cross-section:** Shows a slab with a total width of 800 mm, divided into two 400 mm sections. The height is 100 mm. A central vertical reinforcement bar is shown. Dimensions include 60 mm for the top flange, 400 mm for the main body, and 50 mm for the bottom flange.
- Plan view:** Shows a square slab with a side length of 800 mm, divided into four 400 mm sections. A central vertical reinforcement bar is shown. Dimensions include 5-D13 for the top flange, 400 mm for the main body, and 800 mm for the bottom flange. A label D13@200 indicates the spacing of the reinforcement bars.

	FB2
断面	
上端筋	3-D25
下端筋	3-D25
スターラップ	D13@200
腹筋	2-D10



共通事項

1. 杭はP1とする

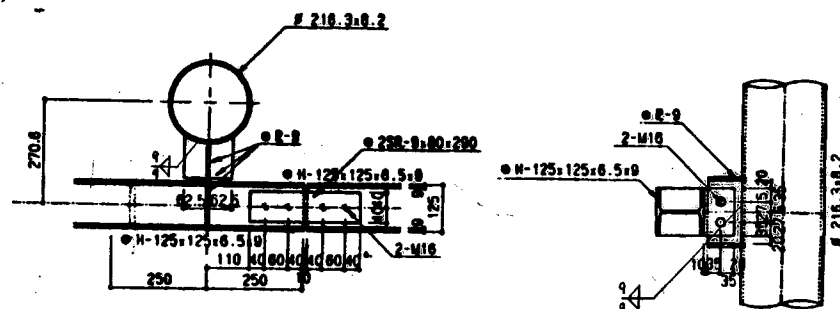
2. 杭頭レベルおよび基礎下端レベルは下記による

	杭頭レベル	基礎下端レベル
防水水櫃A	GL-4450	GL-4550
防水水櫃B	GL-4550	GL-4650
防水水櫃C	GL-5050	GL-5150

共通事項

1. 杭はP1とする
2. 基礎はF1とする
3. 杭頭レベルはGL-900とする
4. 基礎下端レベルはGL-1000とする

共通事項
1. ()内は基礎下地レベルを示す



ブラインド受審者詳細図 - S=1/10

勉強事

● は SS400 を示す
ボルトは HTB F10T とする (トルネーデン高力ボルト)
サビ止めは JIS K5625 とする